

年 報

The United Graduate School
of Agricultural Sciences
Tottori University



鳥取大学



島根大学



山口大学



鳥取大学大学院連合農学研究科

目 次

第1部 教育活動

第1章 学生の在籍状況

1. 学生の在籍状況(全体)2
2. 外国人留学生在籍状況3
3. 社会人学生在籍状況3
4. 学生名簿4

第2章 学生報告

1. 新入生の紹介9

第3章 学位授与者

1. 入学者に対する在学3年間の学位授与者数及び学位取得率29
2. 課程修了者30

第4章 就職状況(学位取得者の就職先)

1. 課程修了者32

第5章 共通セミナー(日程表)

1. 科学コミュニケーションⅠ33
2. 科学コミュニケーションⅡ34
3. 前期連合一般ゼミナール(日本語)35
4. 後期連合一般ゼミナール(英語)36
5. 各専攻特論37

第2部 研究活動

第1章 学生の研究活動

1. 生産環境科学専攻39
2. 生命資源科学専攻44
3. 国際乾燥地科学専攻51

第2章 横断的研究プロジェクト

1. ヒノキ科樹木における加齢と耐病性獲得との関係60
2. 酒類産業発展のための発酵学・栽培学・酒育の融合61
3. マメ科植物を鍵とした植物－微生物間コミュニケーションの解読とプロバイオティクス創出62

第3部 組織・運営

第1章 主指導教員の教育研究分野一覧64

第2章 委員会

1. 研究科委員会(委員及び審議事項等)67
2. 代議委員会(委員及び審議事項等)69

第3章 令和7年度連合農学研究科教員

1. 有資格教員(教授・准教授・講師・助教)一覧73
2. 担当教員を補助する教員(助教)一覧74

第4章 その他

1. 組織75
2. 予算規模76
3. 令和7年度連合農学研究科年間スケジュール77

第4部 在学生へのアンケート

1. R7 年度前期アンケート79
2. R7 年度後期アンケート87

第1部 教育活動

第1部 教育活動

第1章 学生の在籍状況

1. 学生の在籍状況(全体) ※令和7年度在籍者数

専攻	連合講座	鳥取大学	島根大学	山口大学	合計
生産環境科学	農業生産学	3	5		8
	経済・経営学	5	2		7
	森林・流域環境科学	2	4		6
	環境生物学	3	1	1	5
生命資源科学	菌類・きのこ科学	13			13
	生物機能科学	1	5		6
	資源利用化学	8	7		15
国際乾燥地科学	国際乾燥地科学	30		2	32
生物生産科学*1	農業生産学	1			1
	森林資源学				0
	経済・経営学				0
生物環境科学*1	生産環境工学				0
	環境科学		1		1
合計		66	25	3	94

(注) ※ 94名には、令和7年9月修了者8名及び令和7年10月入学者9名を含む。

*1…平成29年度以前入学生

2. 外国人学生在籍状況

専 攻			生産環境科学									生命資源科学									国際乾燥地科学			合 計				
連合講座			農業 生産学			経済・ 経営学			森林・流域 環境科学			環境生物学			菌類・きのこ 科学			生物機能 科学			資源利用 化学						国際乾燥地 科学	
配属大学			鳥 取 大 学	島 根 大 学	山 口 大 学	鳥 取 大 学	島 根 大 学	山 口 大 学	鳥 取 大 学	島 根 大 学	山 口 大 学	鳥 取 大 学	島 根 大 学	山 口 大 学	鳥 取 大 学	島 根 大 学	山 口 大 学	鳥 取 大 学	島 根 大 学	山 口 大 学	鳥 取 大 学	島 根 大 学	山 口 大 学	鳥 取 大 学	島 根 大 学	山 口 大 学	計	
国籍																												
中国								2							1						2			3	2	0	5	
台湾													1										1	0	0	1		
モンゴル																				1			1	0	0	1		
タイ												3											3	0	0	3		
フィリピン					1																		1	0	0	1		
インドネシア												8											8	0	0	8		
インド																		1					0	1	0	1		
スリランカ															1			2					0	3	0	3		
バングラデシュ					1	1												1		1			2	2	0	4		
メキシコ																				2			2	0	0	2		
スーダン	1																			3			4	0	0	4		
ガンビア																				1			1	0	0	1		
ベナン					1																		0	1	0	1		
ナイジェリア																				3			3	0	0	3		
エジプト																				1			1	0	0	1		
エチオピア					2															7			9	0	0	9		
ケニア					1																		1	0	0	1		
ジンバブエ																				2			2	0	0	2		
小 計	1	0	0	5	2	0	0	2	0	0	0	0	12	0	0	1	1	0	0	4	0	23	0	0	42	9	0	51
計	1			7			2			0			12			2			4			23			51			
合 計	10											18								23			51					

3. 社会人学生在籍状況

平成30年度以降入学生

専攻	生産環境科学					生物資源科学			国際乾燥地科学	合 計	
連合講座	農業生産学	経済・経営学	森林・流域環境科学	環境生物学		菌類・きのこ科学	生物機能科学	資源利用化学	国際乾燥地科学		
鳥取大学	2							3	3	8	
島根大学	4		1					1		6	
山口大学										0	
合 計	6	0	1	0		0	0	4	3	14	

平成29年度以前入学生

専攻	生物生産科学			生物環境科学		生物資源科学		国際乾燥地科学	合 計	
連合講座	農業生産学	森林資源学	経済・経営学	生産環境工学	環境科学	生物機能科学	資源利用化学	国際乾燥地科学		
鳥取大学	1								1	
島根大学						1			1	
山口大学									0	
合 計	1	0	0	0		1	0	0	2	

4. 学生名簿

No	入学 年度	専攻	講 座	学 生 氏 名	所属	主指導教員 氏名	備考	R7年度 修了者 (修了 月)
1	H28.4.1	生産	農業生産学	中村 広樹	鳥取	田中 裕之	社会人	
2	H27.10.1	環境	環境科学	辻谷 睦巳	島根	山口 啓子	社会人	
3	R4.4.1	生産環境 科学	農業生産学	古都 丞美	島根	鶴永 陽子	社会人	
4	R4.4.1	生産環境 科学	農業生産学	持田 宏平	島根	谷野 章	社会人	
5	R4.10.1	生産環境 科学	農業生産学	三島 晶太	島根	松本 敏一	社会人	9月
6	R5.4.1	生産環境 科学	農業生産学	太田 陽哉	島根	小林 伸雄	社会人	
7	R6.4.1	生産環境 科学	農業生産学	黒田 英明	鳥取	竹村 圭弘	社会人	
8	R7.4.1	生産環境 科学	農業生産学	伊藤 蒼人	島根	松本 真悟		
9	R7.10.1	生産環境 科学	農業生産学	GOSSAI GISMALLAH BAKHEET MOHAMED	鳥取	田中 裕之	私費 (JICA)	
10	R7.10.1	生産環境 科学	農業生産学	長谷川 諒	鳥取	竹村 圭弘	社会人	
11	R3.4.1	生産環境 科学	経済・経営学	RAHMAN MD SHAJIDUR	島根	保永 展利	私費	3月
12	R4.4.1	生産環境 科学	経済・経営学	ADAM DADE BEBECHOU MARIAM	島根	保永 展利	私費	
13	R4.10.1	生産環境 科学	経済・経営学	YEDNEKACHEW MERKEB ALENA	鳥取	安延 久美	国費・特別 プログラム	9月
14	R4.10.1	生産環境 科学	経済・経営学	GITHIGA JANE WANJIKU	鳥取	安延 久美	国費・特別 プログラム	
15	R5.10.1	生産環境 科学	経済・経営学	BIRARA ENDALEW ADMAS	鳥取	安延 久美	国費	
16	R7.4.1	生産環境 科学	経済・経営学	RIFAT RIAJ AHMED	鳥取	松田 敏信	私費	
17	R7.10.1	生産環境 科学	経済・経営学	ALTAKI MARY-AN JUAN	鳥取	Asres Elias Baysa	国費	
18	R5.4.1	生産環境 科学	森林・流域 環境科学	ZHAO JING(趙 晶)	島根	吉村 哲彦	私費	
19	R5.4.1	生産環境 科学	森林・流域 環境科学	CHEN YUE(陳 月)	島根	吉村 哲彦	私費	
20	R6.4.1	生産環境 科学	森林・流域 環境科学	ZHU GUANGLIN(朱 広 麟)	島根	吉村 哲彦		

No	入学 年度	専攻	講 座	学 生 氏 名	所属	主指導教員 氏名	備考	R7年度 修了者 (修了 月)
21	R6.4.1	生産環境 科学	森林・流域環 境科学	久保田 憲	鳥取	永松 大		
22	R6.4.1	生産環境 科学	森林・流域 環境科学	長棟 光祐	鳥取	永松 大		
23	R6.4.1	生産環境 科学	森林・流域 環境科学	針本 翔太	島根	久保 満佐子	社会人	
24	R4.10.1	生産環境 科学	環境生物学	住田 歩夢	山口	竹松 葉子		3月
25	R5.4.1	生産環境 科学	環境生物学	木村 直人	島根	上野 誠		3月
26	R5.4.1	生産環境 科学	環境生物学	森光 建太	鳥取	唐澤 重考		
27	R7.4.1	生産環境 科学	環境生物学	綾野 惣施	鳥取	中 秀司		
28	R7.4.1	生産環境 科学	環境生物学	酒井 彩衣	鳥取	上中 弘典		
29	R4.10.1	生命資源 科学	菌類・きのこ 科学	CHOLLADA SOMBOON	鳥取	會見 忠則	国費・特別 プログラム	9月
30	R4.10.1	生命資源 科学	菌類・きのこ 科学	BANCH THAMPAPHON	鳥取	霜村 典宏	国費・特別 プログラム	9月
31	R4.10.1	生命資源 科学	菌類・きのこ 科学	PUTUT FAJAR ARKO	鳥取	早乙女 梢	国費・特別 プログラム	
32	R5.4.1	生命資源 科学	菌類・きのこ 科学	平田 智基	鳥取	會見 忠則		3月
33	R5.10.1	生命資源 科学	菌類・きのこ 科学	LIU PEI-CHU(劉 佩筑)	鳥取	霜村 典宏	私費	
34	R5.10.1	生命資源 科学	菌類・きのこ 科学	MEGA PUTRI AMELYA	鳥取	霜村 典宏	国費・特別 プログラム	
35	R5.10.1	生命資源 科学	菌類・きのこ 科学	SEPTYANI AMINI	鳥取	霜村 典宏	国費・特別 プログラム	
36	R6.10.1	生命資源 科学	菌類・きのこ 科学	ERWIN AFRENDI	鳥取	霜村 典宏	国費・特別 プログラム	
37	R6.10.1	生命資源 科学	菌類・きのこ 科学	ADE ALIYYA PUSPITA SARI	鳥取	霜村 典宏	国費・特別 プログラム	
38	R6.10.1	生命資源 科学	菌類・きのこ 科学	MUTIARA NUR PRATIWI	鳥取	霜村 典宏	国費・特別 プログラム	
39	R7.10.1	生命資源 科学	菌類・きのこ 科学	ALWAN FARHANDHANY	鳥取	霜村 典宏	国費・特別 プログラム	
40	R7.10.1	生命資源 科学	菌類・きのこ 科学	CHIYUKI YOLAN KALALINGGI	鳥取	霜村 典宏	国費・特別 プログラム	
41	R7.10.1	生命資源 科学	菌類・きのこ 科学	DONRATAM MANEECANTO	鳥取	會見 忠則	国費・特別 プログラム	

No	入学 年度	専攻	講 座	学 生 氏 名	所属	主指導教員 氏名	備考	R7年度 修了者 (修了 月)
42	R2.4.1	生命資源 科学	生物機能 科学	直塚 豪気	島根	松尾 安浩		
43	R3.4.1	生命資源 科学	生物機能科 学	西原 昇瑚	島根	松尾 安浩		
44	R5.4.1	生命資源 科学	生物機能 科学	LI HAO	鳥取	有馬 二郎	私費	
45	R5.10.1	生命資源 科学	生物機能 科学	UDAWATHTHA KANKANAMGE DON SAHAN SUGANDA GUNASEKARA	島根	塩月 孝博	私費	
46	R6.4.1	生命資源 科学	生物機能 科学	濱田 あかね	島根	丸田 隆典		
47	R7.4.1	生命資源 科学	生物機能 科学	山本 虎次郎	島根	丸田 隆典		
48	R1.10.1	生命資源 科学	資源利用 化学	HOSSAIN MOHAMMAD IMRUL	島根	山本 達之	私費	9月
49	R1.10.1	生命資源 科学	資源利用 化学	望月 証	鳥取	石原 亨	社会人	
50	R4.10.1	生命資源 科学	資源利用 化学	MOCHERLA SUNITHA	島根	山本 達之		
51	R6.4.1	生命資源 科学	資源利用 化学	茂田 幸音	島根	室田 佳恵子		
52	R6.10.1	生命資源 科学	資源利用 化学	EGODAGE CHAVIN JANITHA PERERA	島根	山本 達之	私費	
53	R6.10.1	生命資源 科学	資源利用 化学	SUNETH MADHAWA JAYASUMANA	島根	山本 達之	私費	
54	R6.10.1	生命資源 科学	資源利用 化学	渡邊 文雄	鳥取	美藤 友博	社会人	
55	R7.4.1	生命資源 科学	資源利用 化学	上垣 莉瑚	鳥取	河野 強		
56	R7.4.1	生命資源 科学	資源利用 化学	北澤 葉	鳥取	一柳 剛		
57	R7.4.1	生命資源 科学	資源利用 化学	小寺 康太	鳥取	田村 純一		
58	R7.4.1	生命資源 科学	資源利用 化学	KONDETI SRI SURYA CHARAN	島根	山本 達之	私費 (JICA)	
59	R7.4.1	生命資源 科学	資源利用 化学	坂本 奏人	鳥取	河野 強		
60	R7.4.1	生命資源 科学	資源利用 化学	関 宏太	鳥取	石原 亨		
61	R7.4.1	生命資源 科学	資源利用 化学	内藤 一真	島根	清水 英寿	社会人	

No	入学 年度	専攻	講 座	学 生 氏 名	所属	主指導教員 氏名	備考	R7年度 修了者 (修了 月)
62	R7.4.1	生命資源 科学	資源利用 化学	横野 瑞希	鳥取	石原 亨	社会人	
63	R3.4.1	国際乾燥 地科学	国際乾燥地 科学	遠藤 貴裕	鳥取	西原 英治	社会人	
64	R3.4.1	国際乾燥 地科学	国際乾燥地 科学	QING QING	鳥取	坪 充	私費	9月
65	R4.4.1	国際乾燥 地科学	国際乾燥地 科学	犬持 智	鳥取	猪迫 耕二		3月
66	R4.10.1	国際乾燥 地科学	国際乾燥地 科学	AYENIA CAROLINA ROSALES NIEBLAS	鳥取	山田 智	私費	9月
67	R4.10.1	国際乾燥 地科学	国際乾燥地 科学	AHMED KHALED HASSAN MOHAMMEDALI	鳥取	谷口 武士	私費 (Agri-Net)	3月
68	R4.10.1	国際乾燥 地科学	国際乾燥地 科学	AMIR IBRAHIM ISMAIL EMAM	鳥取	石井 孝佳	国費	9月
69	R4.10.1	国際乾燥 地科学	国際乾燥地 科学	ALEBACHEW TAREKE KEHALI	鳥取	恒川 篤史	国費	
70	R4.10.1	国際乾燥 地科学	国際乾燥地 科学	GETNET TAYE BAWOKE	鳥取	恒川 篤史	国費・特別 プログラム	
71	R4.10.1	国際乾燥 地科学	国際乾燥地 科学	DUBE AGNES ARON	鳥取	西原 英治	私費	9月
72	R4.10.1	国際乾燥 地科学	国際乾燥地 科学	MUTSA MUHAMBI	鳥取	西原 英治	私費 (Agri-Net)	3月
73	R5.4.1	国際乾燥 地科学	国際乾燥地 科学	ABEBE MESERET GUTEMA	鳥取	西原 英治	私費	3月
74	R5.4.1	国際乾燥 地科学	国際乾燥地 科学	筏津 春花	鳥取	緒方 英彦	社会人	
75	R5.4.1	国際乾燥 地科学	国際乾燥地 科学	GAO YAN	鳥取	石井 孝佳	私費	
76	R5.4.1	国際乾燥 地科学	国際乾燥地 科学	小松 大騎	鳥取	藤巻 晴行		
77	R5.10.1	国際乾燥 地科学	国際乾燥地 科学	OFEM NGOZI PAULINUS	鳥取	石井 孝佳	国費・特別 プログラム	
78	R5.10.1	国際乾燥 地科学	国際乾燥地 科学	UDAAKHBAYAR JAMCHIN	鳥取	谷口 武士	私費	
79	R5.10.1	国際乾燥 地科学	国際乾燥地 科学	SULTAN MD MONWARUL ISLAM	鳥取	明石 欣也	国費	
80	R5.10.1	国際乾燥 地科学	国際乾燥地 科学	関口 結佳	鳥取	石井 孝佳		
81	R5.10.1	国際乾燥 地科学	国際乾燥地 科学	SAMUEL BERIHUN KASSA	鳥取	恒川 篤史	国費	
82	R5.10.1	国際乾燥 地科学	国際乾燥地 科学	安部 壮司	鳥取	恒川 篤史	社会人	

No	入学 年度	専攻	講 座	学 生 氏 名	所属	主指導教員 氏名	備考	R7年度 修了者 (修了 月)
83	R5.10.1	国際乾燥 地科学	国際乾燥地 科学	MANNEH ELIZABETH	鳥取	西原 英治	国費・特別 プログラム	
84	R5.10.1	国際乾燥 地科学	国際乾燥地 科学	ZENA TESSEMA TEREFE	鳥取	Nigussie Haregeweyn Ayehu	国費・特別 プログラム	
85	R6.4.1	国際乾燥 地科学	国際乾燥地 科学	植木 朋実	山口	荊木 康臣		
86	R6.4.1	国際乾燥 地科学	国際乾燥地 科学	河合 弘太	鳥取	明石 欣也		
87	R6.10.1	国際乾燥 地科学	国際乾燥地 科学	BIAZEN ENDALAMAW MEKONNEN	鳥取	Nigussie Haregeweyn Ayehu	国費・特別 プログラム	
88	R6.10.1	国際乾燥 地科学	国際乾燥地 科学	ARIKPO GRACE EMMANUEL	鳥取	石井 孝佳	国費・特別 プログラム	
89	R7.4.1	国際乾燥 地科学	国際乾燥地 科学	ALMUJTABA HASSABALRASSOL MUHAMMED ABDALLH	鳥取	清水 克彦	国費	
90	R7.4.1	国際乾燥 地科学	国際乾燥地 科学	原 優里佳	山口	鈴木 賢士		
91	R7.4.1	国際乾燥 地科学	国際乾燥地 科学	ROBERTO TORRES ARREOLA	鳥取	山田 智	私費	
92	R7.10.1	国際乾燥 地科学	国際乾燥地 科学	IKPA-AGODO KINGSLEY IKENNA	鳥取	石井 孝佳	国費・特別 プログラム	
93	R7.10.1	国際乾燥 地科学	国際乾燥地 科学	MOSTAFA GAMAL MOHAMED MOHAMED ELKASSAR	鳥取	兵頭 正浩	国費・特別 プログラム	
94	R7.10.1	国際乾燥 地科学	国際乾燥地 科学	YOSEPH BUTA HAILU	鳥取	Nigussie Haregeweyn Ayehu	国費・特別 プログラム	

第2章 学生報告

1. 新入生の紹介

氏 名/ Name	伊藤蒼人	
国 籍/ Nationality	日本	
配属大学 Assigned university	島根大学	
専 攻/ Course	生産環境科学	
連合講座/ Division	農業生産学	
主指導教員 Major-supervisor	松本真悟	
研究テーマ Research Theme	耕作技術による土壌水分の制御を利用したダイズー根粒菌の共生関係の制御と生産性の改善に関する研究	

メッセージ/Message

私は、圃場で行われる畝や灌漑といった農業生産技術による土壌水分の制御がダイズと根粒菌の共生関係に及ぼす影響について研究しています。

ダイズの栽培において、湛水や干ばつなどの土壌水分ストレスはダイズの生育・収量を阻害しダイズの需給に影響を与える生産上の大きな課題です。この課題に対応するため、農業生産技術として、畝や灌漑のような土壌水分の制御が行われています。一方で、共生するダイズ根粒菌による共生窒素固定はダイズの窒素供給の多くを占めています。この根粒菌との共生関係ですが、近年の研究で、特定の根粒菌の感染によって、ダイズの土壌水ストレス耐性が向上することが示唆されており、農業生産への応用が期待されています。

私の研究は現在、土壌水分条件により根粒菌の占有率が変化するという事象をとらえています。現在は、フラボノイドなどのダイズ二次代謝産物とダイズー根粒菌の遺伝子による共生制御機構への土壌水分の影響を調査し、占有率変化のメカニズムの特定を進めている段階です。

博士課程を通して、「ダイズー根粒菌の共生関係は、土壌水分に応じた最適な根粒菌の共生が誘導されるのではないか」という仮説を検証し、耕作技術とダイズー根粒菌の共生関係を組み合わせた土壌水分ストレス対策技術を開発につながる知見を得ることを目指しています。

氏 名/ Name	綾野 惣施	
国 籍/ Nationality	日本	
配属大学 Assigned university	鳥取大学	
専 攻/ Course	生産環境科学	
連合講座/ Division	環境生物学	
主指導教員 Major-supervisor	中 秀司	
研究テーマ Research Theme	カマキリ科昆虫における 性フェロモンを介した種間相互作用の解明	

メッセージ/Message

自己紹介

氏名:綾野 惣施(あやの そうし)

出身:大阪府

趣味:釣り

研究の紹介

多くの昆虫は性フェロモンを用いて異性を誘引し、交尾に至ることが知られている。カマキリ科の昆虫においても、性成熟した雌が特徴的なコーリング姿勢をとりながら、誘引性の性フェロモンを分泌し、雄を誘引することが報告されている。それに対して雄は雌に気づかれぬよう背後からゆっくりと接近し、雌の背中に捕まることで交尾に至る。しかし、昆虫の性フェロモン研究は鱗翅目、半翅目、鞘翅目などに偏っており、カマキリにおける性フェロモンの研究例は非常に限られている。

ムネアカハラビロカマキリ *Hierodula chinensi* は、2000 年に入って岐阜・福井で採集された後、関東～中部地方を中心に目撃・採集報告が相次ぐようになった。ムネアカは急激に生息域を拡大していることから、他地域から人為的に移入された外来種である可能性が指摘されている。国内にはもともと同属のハラビロカマキリ *Hierodula patellifera* が広く生息しており、ムネアカと同様に樹上を生活圏としている。また、ハラビロは本州以南の東アジア・東南アジア全域に広く分布し、海外では分布域のほぼすべてでムネアカなど *venosa* 亜属の種と同所的に生息する。故に本来、ハラビロとムネアカの間に排他的な競合関係は存在しないと考えられる。しかし、ムネアカの発見以降、その生息が確認された地域の一部でハラビロの個体数が激減したという報告がある。これは、ハラビロの生息圏に侵入したムネアカがハラビロの個体数を減らす大きな原因である可能性を示している。

先行研究において、両種はともに雌が性フェロモンで雄を誘引し交尾に至ること、両種の間には性フェロモンを介した繁殖干渉は起こらないことが報告されている。しかし、両種の雌が分泌する性フェロモンの化学組成は明らかではなく、性フェロモンを感知した雄の行動についても詳細な報告はない。そのため、両種の性フェロモンの同定を目標に研究を進めている。また、ハラビロとムネアカのみならず、他種の日本産カマキリ科昆虫の性フェロモンを介した種間相互作用の研究も並行している。

氏 名/ Name	酒井 彩衣	
国 籍/ Nationality	日本	
配属大学 Assigned university	鳥取大学	
専 攻/ Course	生産環境科学専攻	
連合講座/ Division	環境生物学講座	
主指導教員 Major-supervisor	上中弘典	
研究テーマ Research Theme	有益糸状菌トリコデルマによる誘導全身抵抗性の発現メカニズムの解明	

研究内容

私は、多くの植物の根内に定着する *Trichoderma atroviride* (Ta)という糸状菌を研究材料としています。この糸状菌は植物の根に定着し、地上部の抵抗性を誘導する Induced systemic resistance (ISR)を引き起こします。これにより、植物は病気に強くなるため *Trichoderma* 属菌は農業利用が開始されています。一方で、*Trichoderma* による ISR の詳しいメカニズムは不明であり圃場での効果は不安定であるのが現状です。私は、*Trichoderma* の農業利用に資する知見を得るため、モデル植物シロイヌナズナを用いて Ta による ISR の分子メカニズムの解明を目指しています。

研究結果

はじめに、根に Ta を接種したシロイヌナズナの葉において遺伝子発現解析を実施しました。コントロールと比較して発現が有意に上昇する遺伝子群には、細胞壁機能に関する遺伝子が多く含まれることが明らかになりました。実際に地上部細胞壁試料の FT-IR スペクトルを比較した結果、Ta の接種により地上部細胞壁の組成が変化していました。細胞壁の構成変化が植物の初期免疫応答を増幅するという先行研究から、Ta を接種した植物の葉の初期免疫応答を調査したところ、各種応答の増幅が認められました。次に、細胞壁組成の完全性を感知する受容体の機能欠損変異体を用いて、Ta の接種による ISR の評価を行いました。その結果、Ta の接種による ISR には細胞壁完全性を感知する FERONIA という受容体が必要であることが明らかになりました。以上の結果から、Ta は植物の根に定着することで地上部の細胞壁完全性の擾乱を引き起こし、細胞壁完全性の認識受容体である FERONIA を介して初期免疫応答を増幅することで ISR を発現させると考えられます

展望

- ・Ta が根に定着した後、地上部細胞壁の擾乱を誘導する移動性シグナルの探索
- ・植物が Ta の根内定着を許可するメカニズムの解明

氏 名/ Name	上垣 莉瑚	
国 籍/ Nationality	日本	
配属大学 Assigned university	鳥取大学	
専 攻/ Course	生命資源科学	
連合講座/ Division	資源利用化学	
主指導教員 Major-supervisor	河野 強	
研究テーマ Research Theme	短鎖神経ペプチド FMRF-like peptides を基軸とした線虫 <i>Caenorhabditis elegans</i> の休眠制御機構の全容解明	
メッセージ/Message 【研究の紹介】 私は、モデル生物である自活性土壌線虫 <i>Caenorhabditis elegans</i> (以下 <i>C. elegans</i>) を用い、過酷な環境下で生き残るための「休眠」という生存戦略を司る分子メカニズムの研究を行っています。 <i>C. elegans</i> は、餌の枯渇や個体密度の急上昇といった環境悪化を感知すると、通常の生育を一時停止して「休眠幼虫」へと姿を変え、過酷な環境を生き延びます。この運命決定は、インスリン様シグナルや TGF-β 様シグナルという 2 つの主要なホルモン経路によって制御されています。しかし、感覚神経が受け取った外的な環境情報が、具体的にどのような分子を介してこれら生育ホルモンの分泌へと橋渡しされているのか、その司令塔となるメカニズムは未だ「ブラックボックス」として残されています。また、この休眠現象は寄生性線虫の感染性幼虫期とも深く関連していますが、その制御機構の多くも未解明のままです。 当研究室では、「環境因子に応答して放出される短鎖神経ペプチド (FLPs) が生育ホルモンを制御する」という仮説の下、研究を進めてきました。これまでに、特定のペプチド (FLP-1 および FLP-2) が異なるインスリン経路を制御することを明らかにし、さらに私は修士課程において、長らく未同定であった TGF-β 様リガンド (DAF-7) を制御する新たなペプチド「FLP-11」を同定することに成功しました。休眠制御の鍵を握るもう一つの主要経路である TGF-β 様リガンド (DAF-7) を制御する新たなペプチドとして「FLP-11」を同定し、その機能解析を進め、学術論文として成果を公表しました。 これからの研究では、これらの知見を基盤とし、各 FLPs がどのような受容体 (GPCRs) や G タンパク質を介してホルモン分泌を操っているのか、その詳細なシグナル伝達経路の全容解明を目指します。		

氏 名/ Name	北澤 葉	
国 籍/ Nationality	日本	
配属大学 Assigned university	鳥取大学	
専 攻/ Course	生命資源科学	
連合講座/ Division	資源利用化学	
主指導教員 Major-supervisor	一柳 剛	
研究テーマ Research Theme	マラリア原虫生育阻害物質 speciosin B 及びその類縁体の不斉全合成	
メッセージ/Message 私は有機化学という分野の中で、天然物の全合成をメインに研究を行っています。天然物の全合成とは、自然界に存在する複雑な分子を人工的に一から組み立て、その構造や性質を明らかにする研究分野です。私は、その中でもマラリア原虫に対して生育阻害活性を示す speciosin B という化合物の全合成を目指して研究を行っています。マラリアは根絶が困難な感染症の一つであり、その原因の一つとして抗マラリア剤に対する耐性株の出現が挙げられます。そのため、新たな作用機序を持つ抗マラリア剤の開発が求められています。このような背景から、私は speciosin B に含まれるものの構造が、どのような作用機序で生育阻害活性を示しているのか明らかにするために、この化合物の全合成を目指しています。また、speciosin B の類縁体である他の speciocin 類の中にも、まだ全合成が達成されていないものが多いです。そこで speciosin B 全合成の過程で確立した方法論を応用することで、これらの化合物の全合成を目指しています。		

氏 名/ Name	小寺康太	
国 籍/ Nationality	日本	
配属大学 Assigned university	鳥取大学	
専 攻/ Course	生命資源科学	
連合講座/ Division	資源利用化学	
主指導教員 Major-supervisor	田村純一	
研究テーマ Research Theme	マトリグリカン誘導体の精密合成と生理活性の探求	

メッセージ/Message

学部時代、糖鎖の面白さに魅せられて、吸い寄せられるように今の研究室に入りました。それから博士後期課程に所属する今も、糖鎖合成の研究に没頭する日々を過ごしています。

糖鎖は、DNA やペプチドに次ぐ「第三の生命鎖」として注目されています。とはいえ、生物の授業で主人公のように登場する遺伝子や、生命活動の主役とも言えるタンパク質と比べると、少し日陰者で馴染みのない存在かもしれません。高校化学を少しかじった人であれば、お砂糖（スクロース）やデンプン（アミロース、アミロペクチン）の成分として、少し甘そうなイメージが浮かぶのではないのでしょうか。そんなお淑やかで甘い印象のある糖鎖ですが、実は甘くない糖鎖も多く、生体内で非常に複雑で重要な役割を担っています。

コロナのパンデミックは、皆さんの記憶にも強く残っていると思います。原因となった新型コロナウイルスは、表面のスパイクタンパク質がヒト体内の ACE2 受容体というタンパク質を認識することで細胞に侵入します。一見、タンパク質同士のやり取りに見えますが、実際には細胞表面のヘパラン硫酸(HS)という糖鎖もこの過程に関与しています。HS はウイルスを細胞表面に捉え、スパイクタンパク質と ACE2 受容体の結合を助ける役割を担っています。実は、糖鎖は細胞表面に無数に存在しているのです。教科書の細胞のイラストからはツルツルした印象を受けますが、実際の細胞は糖鎖という毛をたくさん生やした、ふわふわとした「まりも」のような状態です。これらの糖鎖が、タンパク質の認識やウイルス感染、組織構築などに関与します。最近では、幹細胞の分化への関与も報告され、再生医療の観点からも注目されています。どうでしょうか？脇役のように見えた糖鎖が、奥深く魅力的な分子に思えてきませんか？

しかし糖鎖は、複製される DNA や、遺伝子という設計図に従って合成されるタンパク質とは異なり、酵素によって環境依存的に合成されます。そのため、糖鎖には微細な構造多様性が生じます。この構造多様性こそが、糖鎖科学の発展を難しくしてきました。わずかな構造の違いが生理活性に影響するため、不均一な天然糖鎖では機能を正確に議論することが難しいのです。

そこで重要となるのが「糖鎖合成」です。人工的に糖鎖を構築できれば、構造が明確な糖鎖を「系統的」に、「均一」に、そして「大量」に供給することができます。私は、この糖鎖科学の上流に位置する糖鎖合成に魅力を感じています。いつか自分の作った合成糖鎖が、生理機能の解明や医学、創薬、材料化学などの分野に応用されることを夢見ながら、わくわくして毎日の実験に取り組んでいます。

氏 名/ Name	坂本 奏人	
国 籍/ Nationality	日本	
配属大学 Assigned university	鳥取大学	
専 攻/ Course	生命資源科学	
連合講座/ Division	資源利用化学	
主指導教員 Major-supervisor	河野 強	
研究テーマ Research Theme	線虫 <i>Caenorhabditis elegans</i> の幼虫休眠打破機構の解明	

【研究の紹介】

自活性土壌線虫 *Caenorhabditis elegans* は生育環境の悪化(高温・生育密度の上昇・餌の枯渇)に応答して耐性幼虫を形成し、幼虫休眠を行う。線虫 *C. elegans* は頭部感覚神経により生育環境を感知し、耐性幼虫形成を制御する。頭部感覚神経のうち ASJ 神経細胞が幼虫休眠を維持・打破する細胞内情報伝達経路に重要な役割を果たすと推測されている。また耐性幼虫形成の誘導・維持・打破に関わる化学的因子としては休眠誘導フェロモンと休眠打破活性物質の存在が明らかとなっている。線虫 *C. elegans* 自身が産生・分泌する休眠誘導フェロモンに関する化学的ならびに分子生物学的研究は著しい進展を見せており、単離・構造解析ならびに受容体の同定などが行われている。一方、休眠打破活性物質に関する研究の進展は皆無であった。

私は現在、当ラボが単離・構造解析に着手し、同定した休眠打破活性物質を起点とした、未解明な部分が多い、幼虫休眠打破機構の全容解明を最終的な目標として研究を進めている。

【進捗状況】

これまでの研究で休眠打破活性物質を起点とした幼虫休眠打破機構について、「休眠打破活性物質の同定 → 休眠打破活性物質の受容体 GPCR の特定 → Gα サブユニット、GCY(グアニル酸シクラーゼ)の特定 → 細胞内 cGMP の濃度上昇 → cGMP 依存性イオンチャネルの開閉 → 細胞内 Ca²⁺ の濃度上昇 → 幼虫休眠打破を誘導するインスリン様ペプチドの産生量/分泌量の増加 → 幼虫休眠打破」という幼虫休眠打破の大まかな経路を明らかとしている。さらに、休眠打破活性物質を起点とした幼虫休眠打破機構のより詳細な解析を行うことを目的に、「休眠打破に関与する短鎖神経ペプチドの探索と機能解析」についても研究を行っている。

現在、これらの結果をまとめて論文を作成することを計画しており、可能であれば年度内投稿ができれば……と考えている。

氏 名/ Name	関 宏太	
国 籍/ Nationality	日本	
配属大学 Assigned university	鳥取大学	
専 攻/ Course	生命資源科学専攻	
連合講座/ Division	資源利用化学連合講座	
主指導教員 Major-supervisor	石原亨	
研究テーマ Research Theme	がん細胞の増殖を抑制するストロビルリン類の標的同定および構造最適化	
メッセージ/Message 研究分野は天然物化学です。化合物の合成は得意ではありません。化合物の単離や構造決定はできます。計算化学もできます。最近、大腸菌を用いた異種発現を始めました。よろしくお願いします。 My research field is natural products chemistry. I am not particularly skilled in chemical synthesis, but I have strong expertise in the isolation and structural elucidation of compounds. I also have experience in computational chemistry. Recently, I have started working on heterologous expression using <i>Escherichia coli</i>.		

氏 名/ Name	内藤 一真/ NAITO Kazuma	
国 籍/ Nationality	日本/ JAPAN	
配属大学 Assigned university	島根大学/ Shimane university	
専 攻/ Course	生命資源科学/ Bioresource and Life Sciences	
連合講座/ Division	資源利用化学/ Applied Bioresource Chemistry	
主指導教員 Major-supervisor	清水 英寿/ SHIMIZU Hidehisa	
研究テーマ Research Theme	インドール系化合物に焦点を当てた CYP1A1 および MDR1 の発現制御メカニズムの解明/ Elucidation of the expression control mechanism of CYP1A1 and MDR1 focusing on indole compounds	

メッセージ/Message

私は、2019年4月に島根大学生物資源科学部生命科学科に入学しました。食品に含まれる栄養成分や有用成分を人体が活用する仕組み、食料の生産に寄与する生命の仕組みなど食に関係する生命現象を学ぶ中で、人の健康と腸内細菌との関係性について興味を持ち、2021年10月から食機能制御学研究室(清水研究室)に所属しています。近年、豚肉や牛肉の高摂取は、肥満改善などに繋がる健康促進効果をもたらす一方、大腸がんのような疾患発症に関与していることも示唆されています。この違いがどのようなメカニズムで生じるのかを腸内細菌が作り出す物質に焦点を当て、研究を行っています。2023年3月の大学卒業後は、島根大学自然科学研究科(博士前期課程)に進学し、2025年3月に修了しました。ご縁があり、同年4月から島根県庁に入庁し、商工労働部産業技術センター生物応用科の研究者として配属されました。研究の道をさらに究めたいという思いがあり、業務と並行して連大に入学し、現在に至ります。

博士課程で研究の経験をさらに積み、専門的知識を習得することが、研究職として地元企業の方々、そして県民の皆様の暮らしに貢献できるのではないかと考えたことも、連大に進学した理由の1つです。近年は、「産学官連携」という言葉をしばしば耳にするようになりました。産・学・官の三者がそれぞれ単独で研究を行うのではなく、協働して研究を行うことが雇用の創出、地域産業の活性化といった観点からも、今後、ますます重要になってくるのではないかと考えています。在学中に自身の研究の専門性をより一層究め、将来的には、「官」の立場として「産」と「学」の双方を繋ぐ存在になりたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

Hello everyone. I'm Kazuma Naito. I graduated from the Faculty of Life and Environmental Sciences, Shimane University in March 2023 and the Graduate School of Natural Science and Technology in March 2025. By chance, I joined the Shimane Prefectural Government in April of the same year, working as a researcher in the Department of Biological Applications, Industrial Technology Center, Department of Commerce, Industry and Labor. In recent years, while high pork and beef intake has been shown to have health-promoting effects such as reducing obesity, it has also been suggested to be involved in the development of diseases such as colon cancer. I'm currently conducting research to determine the mechanism behind this difference, focusing on substances produced by intestinal bacteria. I look forward to working with you !

氏 名/ Name	横野 瑞希	
国 籍/ Nationality	日本	
配属大学 Assigned university	鳥取大学	
専 攻/ Course	生命資源科学	
連合講座/ Division	資源利用化学	
主指導教員 Major-supervisor	石原 亨	
研究テーマ Research Theme	ケミカルプライミングによる高温耐性獲得メカニズムの解明	

メッセージ/Message

【研究の紹介】

近年の気候変動により作物が高温環境にさらされる頻度が高まり、生育や収量に影響が出ている。これらを軽減することが食料の安定供給において極めて重要である。環境ストレス耐性作物の開発は、ストレス耐性品種の育種が主流であるが、品種開発に時間がかかり、新品種の栽培方法の開発も含め多大な労力が必要である。この課題を克服する新たな技術として、化合物を活用した“ケミカルプライミング“が注目を集めている。ケミカルプライミングとは、ストレスが発生する前に植物に化合物を処理することによって、植物のストレス耐性機構を活性化し、耐性を発揮できるようにする手法である。ケミカルプライミングは多くの場合 1 種類の化合物処理によって複数の環境ストレス耐性を強化できることや、多様な作物種の耐性を強化できるといったメリットが挙げられる。その作用機構は徐々に明らかになっているものの、代謝物全体の変化をとらえたものや、品種によってどの手法が適しているのかについては明らかにされていない。

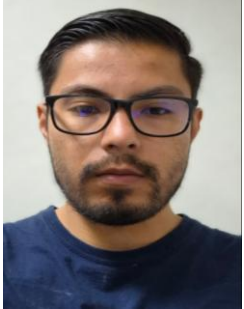
そこで、本研究では国内主要品種に対し、高温耐性の獲得の報告のある化合物の添加処理を行い、代謝物の網羅的解析と遺伝子発現解析を組み合わせ、作用機構や獲得可能な性質、品種間の関連性について明らかにし、新たな栽培技術構築の基礎となる知見を得ることを目指す。

【進捗状況】

高温耐性付与に効果があることが報告されているポリアミン類やエチレンをイネに散布し、地上部水分量などの生理状態の変化から高温ストレスの評価法および高温耐性をもたらす散布量を明らかにした。

今後は化合物処理を行ったイネの代謝物を網羅的に解析することで、作用機構や複数のストレス耐性を増強する仕組みに迫り、新たな栽培技術構築の基礎となる知見を得る。

氏 名/ Name	原 優里佳	
国 籍/ Nationality	日本	
配属大学 Assigned university	山口大学	
専 攻/ Course	国際乾燥地科学	
連合講座/ Division	国際乾燥地科学	
主指導教員 Major-supervisor	鈴木 賢士	
研究テーマ Research Theme	降水粒子直接観測による大雨をつくるメカニズムの解明	
メッセージ/Message 私は、「大雨をつくる雲の中では何が起きているのか」という問いに対して、気球搭載型の高層気象観測機器であるゾンデを用いた雲内の降水粒子の直接観測から明らかにしたいと考えています。大雨の予測精度向上には、大雨形成のメカニズムの解明が必要であり、そのためには、大雨をもたらす雲の中では何が起きているのか、雲内の直接観測が必要不可欠です。しかしながら、このような雲内の降水粒子の直接観測は一部の研究者が行っているにすぎず、当該分野において雲物理観測が圧倒的に足りていないと感じています。そこで私は、在学期間中に多くの観測に参加し、観測技術を吸収・向上をさせることはもちろん、観測を成功させるために必要な観測のマネジメントのスキルも合わせた現場観測の実践力を身につけることで、観測技術を極め、気象学分野での現場観測をリードすることができる研究者を目指しています。 本研究で主に用いる観測機器は、Suzuki et al. (2023) が開発した降水粒子撮像ゾンデ (Rainscope) という特殊ゾンデです。Rainscope は、雲内の降水粒子の鮮明な粒子画像を非破壊で取得でき、さらに雲内の粒子の落下速度測定というこれまでにない機能が搭載されています。Rainscope を用いた観測では、粒子画像、降水粒子の種類、大きさ、形状(円形度など)、表面の状態、落下速度といった雲微物理情報を得ることが可能です。私はこのRainscope の開発に学部生の頃から携わり、地上試験や試験飛揚にも積極的に参加してきました。学部・修士課程から引き続き、Rainscope という強力な観測機器を用いた降水粒子の直接観測に加えて、博士課程の研究ではさらに、「雷の鳴る大雨と鳴らない大雨」が存在することをヒントとし、固体降水粒子の帯電電荷の情報を加えることで雲内の粒子の形成プロセスを推測できないかと考えています。雲内の降水粒子の帯電電荷の測定は現在行われていません。そのため、雲内の電荷測定をするための新型ゾンデの開発及びそれを用いた実際の観測を実現することで、Rainscope から得られる粒子情報に、新たに固体降水粒子の帯電という視点も加え、雲内の降水粒子直接観測から大雨をつくるプロセスの解明を試みています。		

氏 名/ Name	TORRES ARREOLA ROBERTO	
国 籍/ Nationality	MEXICAN	
配属大学 Assigned university	TOTTORI UNIVERSITY	
専 攻/ Course	GLOBAL DRYLAND SCIENCE	
連合講座/ Division	GLOBAL DRYLAND SCIENCE	
主指導教員 Major-supervisor	YAMADA SATOSHI	
研究テーマ Research Theme	SALINE-ALKALI TOLERANCE MECHANISMS IN HALOPHYTES	
Self Introduction For my bachelor I am a Biochemical Engineer, graduated from the Technological Institute of Morelia in Mexico with a specialty in Environmental Biotechnology. After that, I studied for a master's degree in Sustainability of Natural Resources at CINVESTAV Saltillo Unit, where I focused on water use efficiency in wheat and nopal crops in desert areas, being my first approach to the agricultural area. After graduating in 2021, I worked at the Ministry of Agriculture of the state of Michoacán in Mexico. In this work it allowed me to learn about the main problems facing agriculture in my region, as well as to develop skills in the field of food production. Based on the experience gained professionally and the fact that I got to know the university because I was in the JICA's Nichiboku program, I decided to enter the PhD program of Tottori University I am a PhD student at the University of Tottori, in the plant nutrition laboratory where I will develop experiments on the mechanisms of tolerance of halophytic plants to different conditions of pH (alkaline and acid) and salinity (5mMNa-240mMNa), in which different parameters of yield and enzymatic activity will be measured to know the behavior of these plants in different conditions.		

氏 名/ Name	Gossai Gismallah Bakheet Mohamed	
国 籍/ Nationality	Sudanese	
配属大学 Assigned university	Tottori University	
専 攻/ Course	Bio-production and Bio-environmental Science	
連合講座/ Division	Plant Breeding	
主指導教員 Major-supervisor	Professor: Hiroyuki TANAKA	
研究テーマ Research Theme	Improving Heat Tolerance and Quality- related Traits in Bread Wheat through the Introgression of <i>T1AS.1EL</i> , <i>Glu D1d</i> alleles and <i>Aegilops tauschii</i> Genes.	
メッセージ/Message I am Gossai Gismallah Bakheet Mohamed, a Sudanese doctoral student assigned to Tottori University in the Bio-production and Bio-environmental Science course, Division of Plant Breeding. Under the supervision of Professor Hiroyuki Tanaka, my research focuses on improving heat tolerance and quality-related traits in bread wheat. Specifically, I am working on the introgression of <i>T1AS.1EL</i>, <i>Glu-D1d</i> alleles, and <i>Aegilops tauschii</i>-derived genes to enhance both stress resilience and end-use quality. Through this research, I aim to contribute to the development of wheat varieties better adapted to future climate conditions and global food security.		

氏 名/ Name	長谷川 諒	
国 籍/ Nationality	日本	
配属大学 Assigned university	鳥取大学	
専 攻/ Course	生産環境科学	
連合講座/ Division	農業生産学	
主指導教員 Major-supervisor	竹村 圭弘	
研究テーマ Research Theme	鳥園 L の品種特性解明	

メッセージ/Message

現在私は、鳥取県琴浦町の果樹担当普及員として、果樹生産の振興に邁進しております。琴浦梨生産部は非常に高い志と活気を持った組織であり、私自身も日々生産者の皆様から多くの刺激をいただいています。当生産部では有志による Instagram が運営されており、産地の最新情報や栽培の様子を発信しています。琴浦梨のファンの方も、これからの方もぜひ、フォローして応援していただけると幸いです。

以前の配属先である鳥取県園芸試験場にて、9 年間果樹担当の研究者として勤務していました。主にニホンナシの新品種育成に取り組み、ニホンナシ新品種‘鳥園 L’の開発に携わりました。

本品種は県内主要品種である‘二十世紀’と‘王秋’の間の端境期を埋めることでリレー出荷を可能にするだけでなく、優れた食味と貯蔵性を兼ねそろえています。

博士論文では、本品種のより詳しい特性解明をテーマとし、研究に取り組んでいます。

本品種は商標名とともに市場へデビューする予定です。鳥取の梨の未来を担うこの品種を、どうぞよろしくお願いいたします。



琴浦梨 Instagram



鳥園 L の果実

氏 名/ Name	Mary-an Juan Altaki	
国 籍/ Nationality	Filipino	
配属大学 Assigned university	Tottori University	
専 攻/ Course	Bioproduction and Bioenvironmental Sciences	
連合講座/ Division	Managerial Economics	
主指導教員 Major-supervisor	Asres Elias Baysa	
研究テーマ Research Theme	Assessing the Productivity, Profitability, and Eco-efficiency of Good Agricultural Practices (GAP)-certified Vegetable Farms in Benguet, Philippines	

メッセージ/Message

My name is Mary-an Altaki from the Philippines, a PhD student in Bioproduction and Bioenvironmental Science at the United Graduate School of Agricultural Sciences (UGSAS), Tottori University. I earned my Bachelor’s and Master’s degrees in the Philippines.

My research focuses on the assessment of Good Agricultural Practices (GAP) among highland vegetable farmers, examining productivity, profitability, resource-use efficiency, and environmental sustainability. Guided by the principles of sustainable agriculture defined by the Food and Agriculture Organization (FAO), I hope to evaluate how improved farming practices integrate environmental, economic, and social objectives. This study aims to generate policy-relevant insights that support inclusive rural development, particularly in developing countries such as the Philippines. Through my studies, I am committed to contributing to sustainable agricultural development and evidence-based policy formulation, especially for smallholder farmers.

氏 名/ Name	CHIYUKI YOLAN KALALINGGI	
国 籍/ Nationality	INDONESIA	
配属大学 Assigned university	TOTTORI UNIVERSITY	
専 攻/ Course	BIORESOURCE AND LIFE SCIENCE	
連合講座/ Division	FUNGUS AND MUSHROOM SCIENCE	
主指導教員 Major-supervisor	NORIHIRO SHIMOMURA	
研究テーマ Research Theme	Spatial and temporal dynamics of mycorrhiza helper bacteria in the initial stages of symbiotic interaction	
メッセージ/Message This research is still in its early stages. We are still comparing the best methods to detect the localization of mycorrhiza helper bacteria (MHB) on the hyphae of the target fungus, as well as optimizing methods to test the persistence of MHB within the fungal hyphae.		

氏 名/ Name	Donratam Maneecanto	
国 籍/ Nationality	Thai	
配属大学 Assigned university	Tottori University	
専 攻/ Course	Bioresource and Life Sciences	
連合講座/ Division	Fungus and Mushroom Sciences	
主指導教員 Major-supervisor	Tadanori Aimi	
研究テーマ Research Theme	Development of a genetic transformation system for Polyporus arcularius	
Research timeline: Period of study and doing dissertation provided for 3 years. -Optimum Enzyme production and stage Find optimum enzyme production form lysis enzymes produced by <i>Trichoderma</i> TUFC100430 to lysis cell wall of Amisugitake forming protoplast -Protoplast Isolation of Amisugitake isolate Amisugitake protoplast and check recovery stage for Transformation process -Transformation of Amisugitake To develop target gene		

氏 名/ Name	KINGSLEY IKENNA IKPA-AGODO	
国 籍/ Nationality	NIGERIAN	
配属大学 Assigned university	TOTTORI UNIVERSITY	
専 攻/ Course	GLOBAL DRYLAND SCIENCE	
連合講座/ Division	GLOBAL DRYLAND SCIENCE	
主指導教員 Major-supervisor	TAKAYOSHI ISHII	
研究テーマ Research Theme	HYBRID MITOCHONDRIA STABILITY AND THEIR PHENOTYPIC EFFECTS ON WHEAT CYBRIDS	
メッセージ/Message The 2025 fiscal year was an important period of my study life at Tottori University, Japan. Under the tutelage of my supervisors and the support of my colleagues, I was able to duly conclude my M.Sc. program in September 2025, attend three (3) domestic conferences, send a paper (as a coauthor) which is currently under review, and currently working on another manuscript as a first year Ph.D. student. I am grateful for the full support of everyone at Tottori University, considering how they have all made my life better for me despite the cultural differences. I must say that I am well adapted to life in Tottori and Japan and I hope to keep on working hard in accordance to the regulations of the university and Japan as a whole. I am fully committed to making the maximum use of this privilege and I hope to always represent the values that Tottori University represents. Long live United Graduate School of Agricultural Science (UGSAS). Long live, Tottori University. Long live, Japan.		

氏 名/ Name	Mostafa Gamal Elkassar	
国 籍/ Nationality	Egypt	
配属大学 Assigned university	Tottori University	
専 攻/ Course	Global Dryland Science / UGSAS	
連合講座/ Division	Global Dryland Science / UGSAS	
主指導教員 Major-supervisor	Hyodo Sensei	
研究テーマ Research Theme	Experimental Assessment of Buried RC Pipe Under Varying Depth and Deterioration States Based on Load-Deformation Characteristics using the Internal Loading Method	
メッセージ/Message		
My research focuses on the sustainable management of urban and agricultural infrastructure, specifically through the quantitative structural health assessment of buried pipelines. By utilizing the Internal Loading Method (ILM), I aim to transform how we diagnose aged reinforced concrete pipes, moving from qualitative observations to precise, data-driven maintenance strategies. This work directly contributes to the United Nations Sustainable Development Goals (SDGs), particularly Goal 9 (Industry, Innovation, and Infrastructure) and Goal 11 (Sustainable Cities and Communities). By developing non-destructive diagnostic tools that extend the service life of existing assets and reduce the need for disruptive excavations, my research fosters resilient infrastructure and promotes sustainable urban industrialization. My goal is to bridge the gap between structural engineering and practical asset management, ensuring the long-term reliability of essential water and sewage networks for future generations.		

氏 名/ Name	YOSEPH BUTA HAILU	
国 籍/ Nationality	ETHIOPIAN	
配属大学 Assigned university	TOTTORI UNIVESITY	
専 攻/ Course	GLOBAL DRYLAND SCIEN CE	
連合講座/ Division	GLOBAL DRYLAND SCIENCE	
主指導教員 Major-supervisor	Prof. Nigussie HAREGEWEYN	
研究テーマ Research Theme	Elucidating the relationship between soil erosion, physicochemical properties and soil microbes under different cropping and land management systems in humid region of Ethiopia	
メッセージ/Message I am YOSEPH BUTA HAILU from Ethiopia. I Joined Tottori University in 2023 and obtained my MSc degree in Dryland Science in 2025. Then, I got a chance to continue my doctoral degree at the same university, and I joined the Global Dryland Science division in 2025. Now, I am a 1st year PhD student at Tottori University. My research theme focuses on the relationship between soil erosion, physicochemical properties and soil microbes under different cropping and land management systems in humid region of Ethiopia. In developing countries such as Ethiopia, soil erosion significantly reduces agricultural productivity by 5-10% annually due to unsustainable land management practices. Soil erosion also causes deterioration of soil biological communities (e.g., microbes) and negatively influences the overall ecosystem functioning. The global annual topsoil loss is estimated to be around 400 billion tons, with projections indicating potential increases in erosion susceptibility between 2015 and 2070. The relationship between erosion and microbes could be linked with the type of plant and associated human activity such as tillage, fertilization, etc. These complex interconnections between soil-microbes-erosion remain largely unexplored. This leads to the following objectives: Principally, the proposal will focus on clarify the interplay between erosion and soil microbes under different cropping and land management systems in the humid regions of Ethiopia. Specifically; (1) To examine impacts of polyacrylamide application on soil loss, soil properties and plant growth taking teff (<i>Eragrostis tef</i>) as test crops (2) To understand the interactions between soil, plant, and microbial communities under the influence of different soil amendments on soil erosion dynamics within field experimental plots taking wheat as a test crop. After completing my Ph.D. degree, I want to pursue further research on soil-plant-microbe interactions under different soil management systems in Ethiopia.		

第3章 学位授与者

1. 入学者に対する在学3年間の学位授与者数及び学位取得率

専 攻	連 合 講 座	令和5年 入学者数		在学3年間の 学位取得者数		学位取得率(%)
生産環境科学	農業生産学	1	(1)	1	(0)	50
	森林・流域環境科学	2	(0)	1	(0)	50
	経済・経営学	0	(2)		(0)	0
	環境生物学	2	(1)		(1)	33
	計	5	(4)	2	(1)	33
生命資源科学	菌類・きのこ科学	1	(3)	2	(1)	75
	生物機能科学	1	(0)		(0)	0
	資源利用化学	0	(1)		(0)	0
	計	2	(4)	2	(1)	50
国際乾燥地科学	国際乾燥地科学	4	(7)	3	(1)	36
	計	4	(7)	3	(1)	36
合 計		11	(15)	7	(3)	38

(注)・()は令和4年10月入学者を外数で示す。

2. 課程修了者(19名)

令和7年度前期申請分:9名

専攻	講座	入学年月	申請者氏名	論文題目	指導教員
国際乾燥地科学	国際乾燥地科学	H27.4.1	アクリッシュ ホナミ アクリッシュ 穂波	半促成栽培におけるナスの日焼け果発生に及ぼす土壌理化学性の影響 (Effects of Soil Physicochemical Properties on the Occurrence of Sunburn Injury in Eggplants under Semi-Forcing Cultivation)	山本 定博 遠藤 常嘉 増永 二之
生産環境科学	農業生産学	R4.10.1	ミシマ ショウタ 三島 晶太	渋ガキにおける貯蔵性と脱渋に関する研究 (Studies on Storage Quality and Removal of Astringency in Japanese Persimmon)	松本 敏一 江角 智也 竹村 圭弘
	経済・経営学	R4.10.1	イドウナカチョウ メルカブ アレナ YEDNEKACHEW MERKEB ALENE	Food Security Intervention and Household Resilience to Food Insecurity in Northwestern Ethiopia (エチオピア北西部における食糧安全保障介入と家計の食料不安に対するレジリエンス)	安延 久美 Asres Elias Baysa 保永 展利
生命資源科学	菌類・きのこ科学	R4.10.1	チョラダー ソンブーン CHOLLADA SOMBOON	Study on the Effect of Calcium Carbonate Supplemented to Liquid Medium on Mycelial Cultivation of <i>Agaricus marmoreus</i> (Bunashimeji) (アガリクス・マルモレウス (ブナシメジ) 菌糸体培養における液体培地への炭酸カルシウムの添加効果に関する研究)	會見 忠則 霜村 典宏 阿座上 弘行
		R4.10.1	バンチャ タンパバボン BANCHA THAMPRAPHAPHON	Comparative study of the effect of hyphal bacteria on the mycelial growth of ectomycorrhizal mushrooms, mycorrhizal ability of <i>Rhizopogon roseolus</i> , and growth of host plant, <i>Pinus thunbergii</i> (菌根性きのこ菌糸体の生育、ショウロ菌の外生菌根形成およびクロマツ実生の生育に及ぼす菌糸細菌の効果に関する比較研究)	霜村 典宏 會見 忠則 阿座上 弘行
	資源利用化学	R1.10.1	ホサイン モハメド イムルル HOSSAIN MOHAMMAD IMRUL	Label-Free Imaging of Structurally Similar Biomolecules in Various Biological Samples by Multivariate Analysis Assisted Raman Spectroscopy (多変量解析を活用したラマン分光法による構造が類似した種々の生体分子のラベルフリーイメージング)	山本 達之 石垣 美歌 一柳 剛
国際乾燥地科学	国際乾燥地科学	R4.10.1	アジェニア カロリナ ロサレス ニエブラス AYENIA CAROLINA ROSALES NIEBLAS	Development of Half-Strength Seawater Aquaponics System: Exploration of Salinity Adaptation Strategies in Halophytes (半海水アクアポニックスシステムの開発: 塩生植物における塩分適応戦略の探究)	山田 智 山本 定博 松本 真悟
		R4.10.1	アミール イブラヒム イスマイル エマム AMIR IBRAHIM ISMAIL EMAM	Contribution of the <i>Aegilops tauschii</i> Coss. Genome to Nitrogen Use Efficiency and Mineral Biofortification in Bread Wheat under High Temperature (高温環境下におけるパンコムギの窒素利用効率と生物学的栄養強化に対する <i>Aegilops tauschii</i> Coss. ゲノムの寄与)	石井 孝佳 坪 充 小林 伸雄
		R4.10.1	デューベ アグネス アーロン DUBE AGNES ARON	Study on clinker ash for the improvement of crop productivity from the viewpoint of plant nutrient absorption and soil chemical transformation in sandy soil (砂質土壌における植物養分吸収と土壌化学変換の観点から見た作物生産性向上のためのクリンカーアッシュに関する研究)	西原 英治 山田 智 佐藤 邦明

令和7年度後期申請分:10名

専攻	講座	入学年月	申請者氏名	論文題目	指導教員
生産環境科学	経済・経営学	R3.4.1	ラハマン エムディ シャジドゥル RAHMAN MD SHAJIDUR	Quantitative Analysis of the Potential for Reconstruction of Agribusinesses: A Case of Bangladeshi Jute and Agribusiness Sector (農業ビジネスの再建ポテンシャルに関する定量分析:バングラデシュのジューと農業ビジネスセクターの事例)	保永 展利 吉村 哲彦 安延 久美 Rosalia Natalia Selek
	環境生物学	R4.10.1	スミタ アユム 住田 歩夢	イネカメムシの生活史及び発生量に影響を及ぼす要因に関する研究 (Studies on the life history of pecky rice bug species <i>Niphe elongata</i> (Hemiptera: Pentatomidae) and the factors affecting its abundance)	竹松 葉子 柳 由貴子 山口 啓子
		R5.4.1	キムラ ナオト 木村 直人	<i>Streptomyces</i> 属菌O3株を用いたキュウリ炭疽病の抑制に関する研究 (Studies on the suppression of cucumber anthracnose using <i>Streptomyces</i> sp. strain O3)	上野 誠 木原 淳一 石原 亨
生命資源科学	菌類・きのこ科学	R5.4.1	ヒラタ トモキ 平田 智基	きのこの環境応答における生存戦略に関する研究 (Survival strategies of mushrooms in response to their environment)	會見 忠則 一柳 剛 阿座上 弘行
	生物機能科学	R3.4.1	タナカ ヤスヒロ 田中 泰裕	アスコルビン酸合成光調節に関与するVTC2とVTC3の機能解析および葉緑体アスコルビン酸蓄積と強光ストレス感受性の検証 (Functional analysis of VTC2 and VTC3 involved in light regulation of ascorbate biosynthesis, and evaluation of the relationship between chloroplastic ascorbate accumulation and high-light stress sensitivity)	石川 孝博 丸田 隆典 藪田 行哲
国際乾燥地科学	国際乾燥地科学	R3.4.1	チン チン QING QING	Effects of dietary replacement of alfalfa hay with corn silage on energy and nitrogen utilization of crossbred Hu sheep during lactation (トウモロコシサイレージによるアルファルファ乾草への代替飼料給与が泌乳期における交雑湖羊のエネルギーおよび窒素利用に及ぼす影響)	坪 充 恒川 篤史 一戸 俊義
		R4.4.1	イヌモチ サトル 犬持 智	塩類化農地修復のためのもみ殻暗渠システムの最適管理法に関する研究 (Study on optimum management methods of a rice husk sub-surface drainage system for restoration of salt affected farmland)	猪迫 耕二 齊藤 忠臣 増永 二之
国際乾燥地科学	国際乾燥地科学	R4.10.1	アハメッド ハリッド ハッサン モハンマッドアリ AHMED KHALED HASSAN MOHAMMEDALI	Root Traits and Endophytic Fungal Associations in Wild Wheat Progenitor, <i>Aegilops tauschii</i> and Their Inheritance in Primary Synthetic Hexaploid Wheat Associated with Soil Environments (コムギの野生祖先種、タルホコムギ(<i>Aegilops tauschii</i>)における根の形質と内生菌共生、およびその一次合成六倍性コムギへの遺伝と土壌環境の関係)	谷口 武士 石井 孝佳 小林 伸雄
		R4.10.1	ムツァ ムハンビ MUTSA MUHAMBI	Study on the Priming Effect of Combined Biochar and Nitrogen Fertilizer Application on Greenhouse Gas Emissions, Soil Carbon, Nutrient Dynamics, and Productivity of Forage Species (採草用牧草種におけるバイオ炭と窒素肥料の併用が温室効果ガスの排出、土壌炭素と栄養素の動態および生産性に与えるプリミング効果に関する研究)	西原 英治 遠藤 常嘉 佐藤 邦明
		R5.4.1	アベベ メセレツ グテマ ABEBE MESERET GUTEMA	Study on Acclimation of Quinoa under Salinity, Cold and Dry Conditions (塩類、低温および乾燥条件下におけるキヌアの順化に関する研究)	西原 英治 坪 充 氏家 和広

第4章 就 職 状 況(学位取得者の就職状況)

1. 課程修了者(19名)

前期修了者:9名

専攻	講座	入学年度	氏 名	就 職 先
国際乾燥地科学	国際乾燥地科学	H27前	アクリッシュ 穂波	未定
生産環境科学	農業生産学	R4後	三島 晶太	島根県農業技術センター 主任研究員
	経済・経営学	R4後	YEDNEKACHEW MERKEB ALENE	未定
生命資源科学	菌類・きのこ科学	R4後	CHOLLADA SOMBOON	Lecturer, Department of Microbiology and Parasitology, Faculty of Medical Sciences, Naresuan University, Thailand
		R4後	BANCHA THAMPRAPHAPHON	未定
	資源利用化学	R元後	HOSSAIN MOHAMMAD IMRUL	未定
国際乾燥地科学	国際乾燥地科学	R4後	AYENIA CAROLINA ROSALES NIEBLAS	未定
		R4後	AMIR IBRAHIM ISMAIL EMAM	鳥取大学プロジェクト研究員
		R4後	DUBE AGNES ARON	鳥取大学プロジェクト研究員

後期修了者:10名

専攻	講座	入学年度	氏 名	就 職 先
生産環境科学	経済・経営学	R3前	RAHMAN MD SHAJIDUR	未定
	環境生物学	R4後	住田 歩夢	福島国際研究教育機構 研究員
		R5前	木村 直人	出雲市教育委員会 主任児童支援員
生命資源科学	菌類・きのこ科学	R5前	平田 智基	森産業株式会社 研究開発
	生物機能科学	R3前	田中 泰裕	ナガセヴィータ株式会社 一般社員
国際乾燥地科学	国際乾燥地科学	R3前	QING QING	山梨大学 Administrative Assistant
		R4前	犬持 智	国際農林水産業研究センター 任期付若手研究員
		R4後	AHMED KHALED HASSAN MOHAMMEDALI	未定
		R4後	MUTSA MUHAMBI	未定
		R5前	ABEBE MESERET GUTEMA	未定

第5章 共通セミナー

1. 科学コミュニケーションⅠ

2025年度 鳥取大学大学院連合農学研究科「科学コミュニケーションⅠ」日程表
Schedule of the "Academic Communication of Science I" 2025

		7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
1 st day 第1日目	5月21日(水) May 21 (Wed)							Zoom会議室オープン Zoom meeting room will opens.	受付・出入・接続確認 Registration & Connection confirmation	オリエンテーション Orientation	特別講義(1) Special Lecture 『Basic academic communication 1: Oral presentations』	特別講義(2) Special Lecture 『Basic academic communication 2: Research discussion』	
											講師:ホーク・フィリップ氏 (静岡県立大学・薬学部・科学英語分野・准教授) Dr. Philip Hawke (Associate Prof., Scientific English Program, Graduate School of Integrated Pharmaceutical and Nutritional Sciences, University of Shizuoka)		
2 nd day 第2日目	5月22日(木) May 22 (Thu)	島根大学と山口大学に配属の学生の移動 Transfer of students assigned to Shimane University and Yamaguchi University (学生は13時までに鳥取大学農学部2階 大セミナー室に集合) (Students should assemble at the Large Seminar Room, Tottori University by 1:00 p.m.)							オリエンテーション(自己紹介) Orientation (self-introduction)	口頭発表 Oral Presentation 進行 Chair 有馬 二郎(鳥取大学) Dr. Jiro Arima (Tottori Univ.) 美藤 友博(鳥取大学) Dr. Tomohiro Bito(Tottori Univ.) バイサ アスレス エリアス(鳥取大学) Dr. Asres Elias Baysa(Tottori Univ.) 場所:鳥取大学農学部2階 大セミナー室 Venue: Large Seminar Room, 2F Faculty of Agriculture, Tottori University			
										要旨(グラフィカルアブストラクト)の確認 Review abstracts (graphical abstracts)			
3 rd day 第3日目	5月23日(金) May 23 (Fri)	特別セミナー & 質疑応答 Special Seminar and Q&A				グループディスカッション (専攻別・配属大学別) Group discussion (by course and assigned university)		閉会式 (アンケート回答) Closing session (Questionnaire)	昼食 Breakup	●特別講義はオンライン Special Lectures will be available online at zoom ●口頭発表は対面 Oral presentations will be face-to-face 口頭発表は各自の博士論文研究に関する相互理解を深めることが目的(博士論文第1章となる研究背景・目的の発表) The purpose of the oral presentation is to deepen mutual understanding of each student's doctoral dissertation research (presentation of research background and purpose as the first chapter of the dissertation). ●特別セミナーは博士後期課程のプレFD(PFFD(Preparing Future Faculty Program))として実施(大学教員と いう職業、授業の設計、研究マネジメントと学生指導) Special seminars are held as part of the Pre-FD (Preparing Future Faculty Program (PFFD)) for the doctoral program (the profession of university teaching, class design, research management and student guidance). ●グループディスカッションは専攻別・配属大学別に分かれ、特別セミナーを踏まえたテーマ(大学教員という職業、授業の 設計、研究マネジメントと学生指導)で意見交換 Group discussions will be conducted divided by major and university assignment, and will be exchanged opinions on the themes based on the special seminar (university teaching profession, class design, research management and student guidance).			
													有馬 二郎(鳥取大学) Dr. Jiro Arima (Tottori Univ.) 美藤 友博(鳥取大学) Dr. Tomohiro Bito (Tottori Univ.) バイサ アスレス エリアス(鳥取大学) Dr. Asres Elias Baysa (Tottori Univ.) 場所:鳥取大学農学部2階 大セミナー室 Venue: Large Seminar Room, 2F Faculty of Agriculture, Tottori University

2. 科学コミュニケーションⅡ

2025年度 鳥取大学大学院連合農学研究科「科学コミュニケーションⅡ」日程表
Schedule of the "Academic Communication of Science Ⅱ" 2025

		7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
1 st day 第1日目	10月8日(水) October 8 (Wed)	Zoom会場オープン Zoom meeting room will opens.		受付・出入・持荷確認 Registration & Connection confirmation	オリエンテーション Orientation	口頭発表(ショートトーク) ※1) Oral Presentation (Short talk)		昼食休憩 Lunch Break	口頭発表(ショートトーク) ※1) Oral Presentation (Short talk) & Special Lecture				
						進行 Chair 吉清 恵介(鳥根大学) Dr. Keisuke Yoshikiyo (Shimane Univ.) 林 昌平(鳥根大学) Dr. Shohei Hayashi (Shimane Univ.) 特別指導・講義 Special Instruction & Lecture 講師:ホーク・フィリップ 氏 (静岡県立大学・薬学部・科学英語分野・准教授) Prof. Philip Hawke (Associate Prof., Scientific English Program, Graduate School of Integrated Pharmaceutical and Nutritional Sciences, University of Shizuoka)							
2 nd day 第2日目	10月9日(木) October 9 (Thu)			鳥取大学と山口大学に配属の学生の移動 ※2) Transfer of students assigned to Tottori University and Yamaguchi University (学生は13時までに鳥根大学の会場に集合) (Students must be at the Shimane University venue by 1:00 p.m.)	オリエンテーション(自己紹介) Orientation (self-introduction)	特別講義 Special Lecture 講師:工藤 昭英 氏 (東京農工大学・大学院生物/応用科学府・客員教授 産学官連携リーダー) Prof. Akihito Kudoh (Visiting Professor, Coordinator among Business, Industry, Academia and Government Graduate School of Bio-Applications & System Engineering Tokyo University of Agriculture & Technology) 「Business, innovation & negotiation - A chance to apply these concepts to your research & life!」		休憩 Break	ポスター発表準備(会場設置) Preparation for poster presentation (venue setup)				
						ポスター事前確認(Google Drive) Poster pre-confirmation (Google Drive)			ポスター事前確認(会場) Poster pre-confirmation (Venue)				
3 rd day 第3日目	10月10日(金) October 10 (Fri)			ポスター発表 Poster presentation	閉会式 ※4) Closing session	解散 Breakup	エクスカーション 松江城見学 Excursion to Matsue Castle	1) 口頭発表(ショートトーク)はzoomのオンライン Oral presentations (short talks) are available online at zoom 英語発表および発表資料の内容に関して、講師からコメントおよび外部講師(Dr. Philip Hawke)から個別指導と講義。 Comments from the lecturers on the English presentations and the contents of the presentation materials, as well as individual instruction and lectures from an outside lecturer (Dr. Philip Hawke). 2) 鳥取大学と山口大学に配属の学生は印刷したポスターを持参(鳥根大学に配属の学生は直接会場に持参) Students assigned to Tottori University and Yamaguchi University will bring their printed posters (students assigned to Shimane University will bring their posters directly to the venue). 3) 特別セミナーは博士後期課程のPFFDとして実施(大学教員という職業、授業の設計、研究マネジメントと指導) Special seminars are held as PFFD(Preparing Future Faculty Program) for the doctoral program (teaching profession, class design, research management and instruction) 4) 優秀発表者発表&アンケート回答 Best Presenter Announcement & Questionnaire Responses ※セミナー会場(生物資源科学部2号館6階の多目的研修室)、ポスター会場(生物資源科学部) *Seminar venue (Multipurpose Training Room on the 6th floor of the 2nd Building of the Faculty of Life and Environmental Sciences), Poster venue (Faculty of Life and Environmental Sciences)					
				優秀発表者投票 Voting Best Presentation Award									

3. 前期連合一般ゼミナール(日本語)

令和7（2025）年度前期連合一般ゼミナール（日本語）日程表

会場 各連合大学院及び構成大学の遠隔講義システム設置室

実施日程	準備 30分	挨拶等 10分	講義 (90分)	休憩 10分	講義 (90分)	昼休み 60分	講義 (90分)	休憩 10分	講義 (90分)	
2025.6.18 (Wed) 6月18日 (水)	遠隔講義システムの立ち上げ	挨拶 連絡 事項等	Lecture1 「食品加工におけるポリフェノールの化学変化」 柳瀬 笑子 (岐阜大学教授) Chemical Transformations of Polyphenols in Food Processing YANASE, Emiko (Gifu University)		Lecture2 「森林バイオマス資源の収穫とエネルギー利用」 有賀 一広 (宇都宮大学教授) Harvesting and energy utilization of forest biomass resources ARUGA, Kazuhiro (Utsunomiya University)		Lecture3 「農村インフラの洪水緩和機能と水害対策の高度化」 阿南光政 (佐賀大学教授) Flood mitigation effect of rural facilities and optimization of disaster prevention ANAN, Mitsumasa (Saga University)		Lecture4 「多様化する森林への期待と森林管理」 山中 啓介 (鳥取大学准教授) Diversified forest expectations and forest management YAMANAKA, Keisuke (Tottori University)	
2025.6.19 (Thu) 6月19日 (木)	遠隔講義システムの立ち上げ	挨拶 連絡 事項等	Lecture5 「農地における土壌水分と窒素の動き」 武藤 由子 (岩手大学准教授) Soil water and nitrogen dynamics in farm lands MUTO, Yoshiko (Iwate University)		Lecture6 「食事性ポリフェノールの機能性と生体利用性の関係」 室田 佳恵子 (島根大学教授) Relationship between bioavailability of dietary polyphenols and their physiological function MUROTA, Kaeko (Shimane University)		Lecture7 「日本における農産物の市場及び流通に関する諸課題」 豊 智行 (鹿児島大学教授) Issues Concerning Markets and Distribution of Agricultural Products in Japan YUTAKA, Tomoyuki (Kagoshima University)		Lecture8 「天然グルコシドとキラリティー」 二瓶 賢一 (宇都宮大学教授) Naturally occurring glucosides and their chirality NIHEI, Ken-ichi (Utsunomiya University)	
2025.6.20 (Fri) 6月20日 (金)	遠隔講義システムの立ち上げ	挨拶 連絡 事項等	Lecture9 「農業農村工学のススメ」 佐藤 周之 (高知大学教授) An Encouragement of "Rural Engineering" SATO, Shushi (Kochi University)		Lecture10 「分子系統解析の理論と実践」 堀池 徳祐 (静岡大学教授) Theory and practice of molecular phylogenetic analysis HORIIKE, Tokumasa (Shizuoka University)		Lecture11 「マイコトキシンの免疫化学的分析法の開発と応用」 川村 理 (香川大学教授) Development and application of immunochemical analytical methods for mycotoxins KAWAMURA, Osamu (Kagawa University)		Lecture12 「植物病原菌類の生物学」 田中 和明 (弘前大学教授) Biology of Plant Pathogenic Fungi TANAKA, Kazuaki (Hiroshima University)	

4. 後期連合一般ゼミナール(英語)

令和7（2025）年度後期連合一般ゼミナール（英語）日程表

会場 各連合大学院及び構成大学の遠隔講義システム設置室

8:30		9:00		9:10		10:40		10:50		12:20		13:20		14:50		15:00		16:30		17:00	
実施日程	準備 30分	挨拶等 10分	講義 (90分)	休憩 10分	講義 (90分)	昼休み 60分	講義 (90分)	休憩 10分	講義 (90分)	休憩 10分	講義 (90分)	休憩 10分	講義 (90分)	休憩 10分	講義 (90分)	休憩 10分	講義 (90分)	休憩 10分	講義 (90分)	休憩 10分	講義 (90分)
2025.11.19 (Wed) 11月19日 (水)	遠隔講義システムの立ち上げ	挨拶 連絡 事項等	Lecture1 Effective use of wood biomass resources KOJIMA, Yoichi (Shizuoka University) 「木質バイオマス資源の有効利用」 小島 陽一 (静岡大学農学部教授)		Lecture2 The evolution of sex reconsidered YASUI, Yukio (Kagawa University) 「「性の進化」再考」 安井 行雄 (香川大学農学研究科教授)		Lecture3 Fetal sheep support the development of hematopoietic cells in vivo from human induced pluripotent stem cells NAGAO, Yoshikazu (Utsunomiya University) 「ヒツジ胎子微小環境を活用したヒトiPS細胞の造血系分化誘導」 長尾 慶和 (宇都宮大学農学部教授)		Lecture4 Recent Topics in Mammalian Reproductive Technology KIMURA, Naoko (Yamagata University) 「哺乳類の生殖技術～最近のトピックス」 木村 直子 (山形大学農学部教授)												
2025.11.20 (Thu) 11月20日 (木)		連絡 事項等	Lecture5 Utilization of genetic resources to improve wheat flour quality TANAKA, Hiroyuki (Tottori University) 「小麦粉品質向上を目指した遺伝資源の利用」 田中 裕之 (鳥取大学農学部教授)		Lecture6 Bioregulation of Environmental Stress Tolerance and Functional Constituents in Horticultural Plants MATSUBARA, Yoichi (Gifu University) 「園芸植物における環境ストレス耐性及び機能性成分の生物的制御」 松原 陽一 (岐阜大学応用生物科学部教授)		Lecture7 Non-harvest forest utilization for keeping SATOYAMA healthy. MATSUKI, Sawako (Iwate University) 「日本の里山を健全に保つ伐らない森林利用」 松木 佐和子 (岩手大学農学部准教授)		Lecture8 Ecosystem Services in Forests: Approaches and global applications for landscape development CHEN, Bixia (University of the Ryukyus) 「森林の生態系サービス:景観開発のためのアプローチと地球規模での応用」 陳 碧霞 (琉球大学農学研究科准教授)												
2025.11.21 (Fri) 11月21日 (金)		連絡 事項等	Lecture9 Agricultural value chain systems in Southeast Asia IKEDA, Shinya (Ibaraki University) 「東南アジアの農産物流通の仕組み」 池田 真也 (茨城大学農学研究科准教授)		Lecture10 Evaluation of forest environment based on the functional and species diversity of termites TAKEMATSU, Yoko (Yamaguchi University) 「シロアリの生態系機能と種多様性を利用した森林環境評価」 竹松 葉子 (山口大学創成科学研究科教授)		Lecture11 Biology and ecology of seaweeds and marine forests ENDO, Hikaru (Kagoshima University) 「海藻と藻場の生物学と生態学」 遠藤 光 (鹿児島大学農水産獣医学域水産学系准教授)		Lecture12 An introduction to tropical peat swamp forest SHIMAMURA, Tetsuya (Ehime University) 「熱帯泥炭湿地林を巡る環境問題」 嶋村 鉄也 (愛媛大学農学研究科准教授)												

5. 各専攻特論

2025年度各専攻特論 開講表
Time table of Advanced Subjects in each three doctoral courses in 2025

開講日 Date	時間 Time	番号 Lecture No.	講義題目及び講師名 Lecture title and Lecturer Name		備考 lecture info
7月23日 (水) 23rd Jul. (Wed.)	9:15 ~ 11:30	Lecture 1-1	生産環境科学特論 (日本語) Advanced Bioproduction and Bioenvironmental Science (Japanese)	「生物多様性研究手法の新たな展開—動物をどのようにモニタリングするのか?」 New Biodiversity Research Methods: How to monitor animals? 唐澤 重考(鳥取大学)/ KARASAWA Shigenori(Tottori)	各135分 135mins 日本語 Japanese
	12:30 ~ 14:45	Lecture 1-2		「ニホンナシの開花と結実に関する研究」 Study on flowering and fruit set in Japanese pear 竹村 圭弘(鳥取大学)/ TAKEMURA Yoshihiro(Tottori)	
	15:00 ~ 17:15	Lecture 1-3		「地域における生物多様性保全の手立て」 Ways to conserve biodiversity on a regional basis 永松 大(鳥取大学)/ NAGAMATSU Dai(Tottori)	
7月24日 (木) 24th Jul. (Thur.)	9:15 ~ 11:30	Lecture 2-1	生産環境科学特論 (英語) Advanced Bioproduction and Bioenvironmental Science (English)	「休眠と低温耐性」 Diapause and Cold Tolerance 泉 洋平(鳥根大学)/ IZUMI Yohei (Shimane)	各135分 135mins 英語 English
	12:30 ~ 14:45	Lecture 2-2		「細菌のコミュニケーション(クオラムセンシング)」 Communication in bacteria (Quorum sensing) 林 昌平(鳥根大学)/ HAYASHI Shohei (Shimane)	
	15:00 ~ 17:15	Lecture 2-3		「効率的な野菜生産を支える植物科学の応用研究」 Applied Research in Plant Science Supporting Efficient Vegetable Production 執行 正義(山口大学)/ SHIGYO Masayoshi (Yamaguchi)	
7月25日 (金) 25th Jul. (Fri.)	9:15 ~ 11:30	Lecture 3-1	生命資源科学特論 (日本語) Advanced Bioresource and Life Science (Japanese)	「菌根性さの類の分類研究の実際と培養法」 Taxonomic research and cultivation for mycorrhizal mushrooms 遠藤 直樹(鳥取大学)/ ENDO Naoki (Tottori)	各135分 135mins 日本語 Japanese
	12:30 ~ 14:45	Lecture 3-2		「分光分析を通して生命の輝きを見る」 Investigating the brilliance of life via spectroscopic analysis 石垣 美歌(鳥根大学)/ISHIGAKI Mika (Shimane)	
	15:00 ~ 17:15	Lecture 3-3		「ストリゴラクトンの化学と生物」 The chemistry and biology of strigolactones 上野 琴巳(鳥取大学)/ UENO Kotomi (Tottori)	
7月28日 (月) 28th Jul. (Mon.)	9:15 ~ 11:30	Lecture 4-1	生命資源科学特論 (英語) Advanced Bioresource and Life Science (English)	「植物のみどりの香り—いつ、何のために?—」 The green leaf volatiles of plants—when and why? 松井 健二(山口大学)/ Matsui Kenji (Yamaguchi)	各135分 135mins 英語 English
	12:30 ~ 14:45	Lecture 4-2		「なぜ、どのように植物は葉にビタミンCを蓄積するのか? ~卓越したビタミンC代謝と植物のストレス順応~」 Why and how do plants accumulate vitamin C in their leaves? "Excellent vitamin C metabolism and plant stress acclimation" 丸田 隆典(鳥根大学)/MARUTA Takanori (Shimane)	
	15:00 ~ 17:15	Lecture 4-3		「機能性ペプチドの産業・医療応用研究」 Applied research on functional peptides for industrial and biomedical applications 岩崎 崇(鳥取大学)/ IWASAKI Takashi (Tottori)	
7月29日 (火) 29th Jul. (Tue.)	9:15 ~ 11:30	Lecture 5-1	国際乾燥地科学特論 (日本語) Advanced Global Dryland Science (Japanese)	「灌漑農業における賢い水の使い方」 Wise water use and management in irrigated agriculture 清水 克之(鳥取大学)/ SHIMIZU Katsuyuki (Tottori)	各135分 135mins 日本語 Japanese
	12:30 ~ 14:45	Lecture 5-2		「ウィックサンブラーを用いた土壌降下浸透水のモニタリング」 Monitoring percolating soil water using wick samplers 猪迫 耕二(鳥取大学)/ INOSAKO Koji(Tottori)	
	15:00 ~ 17:15	Lecture 5-3		「乾燥地の灌漑農地における土壌塩類化の実態と要因解析」 Influence of soil properties and irrigation water quality on soil salinization/sodicization in irrigated farmlands of arid regions 遠藤 常嘉(鳥取大学)/ ENDO Tsuneyoshi (Tottori)	
7月30日 (水) 30th Jul. (Wed.)	9:15 ~ 11:30	Lecture 6-1	国際乾燥地科学特論 (英語) Advanced Global Dryland Science (English)	「乾燥地の植物共生微生物」 Plant-associated microorganisms in drylands 谷口 武士(鳥取大学)/ TANIGUCHI Takeshi (Tottori)	各135分 135mins 英語 English
	12:30 ~ 14:45	Lecture 6-2		"Bridging science, policy, and development gaps in land management" Nigussie Haregeweyn AYEHU(鳥取大学)/ Nigussie Haregeweyn AYEHU(Tottori)	
	15:00 ~ 17:15	Lecture 6-3		「植物における塩ストレスと耐塩性」 Salinity stress and tolerance of plants 山田 智(鳥取大学)/ YAMADA Satoshi (Tottori)	

鳥取大学大学院連合農学研究科

The United Graduate School of Agricultural Sciences, Tottori University

場 所 鳥取大学農学部1号館1F 連大セミナー室

Venue UGSAS Seminar room, Faculty of Agriculture building No. 1, 1F, Tottori University

鳥根大学生物資源科学部2号館6F多目的研修室

Training room for multipurpose, Faculty of Life and Environmental Science building No. 2, 6F, Shimane University

山口大学連合獣医学研究科棟4F 第1講義室

Room No.1, The United Graduate School of Veterinary Science building 4F, Yamaguchi University

第2部 研究活動

第1章 学生の研究活動

1. 生産環境科学専攻

古都丞美 農業生産学連合講座 島根大学配属

2022 年(前期) 入学

主指導教員:鶴永陽子

学会発表「国内学会」(一般講演)

- 1) 古都丞美*, 黒住健太, 福市真紀, 野口佳世, 鶴永陽子:モチ性大麦糠の焙煎条件がカップケーキの色調と官能評価に及ぼす影響. 第 71 回(一社)日本家政学会中国・四国支部大会, 広島県福山市(口頭)(2025.10)
 - 2) 鶴永陽子*, 古都丞美:モチ性大麦の外皮の添加が麺の品質および機能性に及ぼす影響. 一般社団法人日本食品保蔵科学会 第 74 回(北海道オホーツク)大会, 北海道網走市(口頭)(2025.6)
 - 3) 古都丞美*, 宇野絢音, 鶴永陽子:もち性大麦糠を用いたクッキーの調理特性と官能特性の評価. 一般社団法人日本家政学会第 77 回大会, 神奈川県横浜市(ポスター)(2025.5)
-

持田宏平 農業生産学連合講座 島根大学配属

2022 年(前期) 入学

主指導教員:谷野章

学会発表「国内学会」(一般講演)

- 1) 持田 宏平, 橋本 孟治, 長命 洋佑, 松本 真悟, 野波 和好, 李 治, 谷野 章:デジタル技術の活用による青果集出荷作業の効率化. 農業情報学会, 京都(口頭)(2025.5)
-

住田歩夢 環境生物学連合講座 山口大学配属

2022 年(後期)入学

主指導教員:竹松葉子

論文(レフェリー制のある雑誌)

- 1) 住田歩夢, 田淵 研, 吉村英翔, 竹松葉子:冬季及び早春の気温がイネカメムシ(カメムシ目:カメムシ科)及びホソハリカメムシ(カメムシ目:ヘリカメムシ科)越冬世代成虫の水稻圃場での発生量に与える影響. 日本応用動物昆虫学会誌, 70: 21-31 (<https://doi.org/10.1303/jjaez.2026.21>)(2026.2)
- 2) 住田歩夢, 竹松葉子:コノテガシワにおけるイネカメムシの越冬状況. 日本環境動物昆虫学会誌, 37: 1-8(<https://doi.org/10.11257/jjeez.37.1>)(2026.2)

学会発表「国内学会」(一般講演)

- 1) 住田歩夢, 田淵 研, 吉村英翔, 竹松葉子:景観要因がイネカメムシの発生量に及ぼす影響. 第 70 回日本応用動物昆虫学会大会, 熊本県熊本市(口頭)(2026.3)
-

太田陽哉 農業生産学連合講座 島根大学配属
2023 年(前期)入学
主指導教員:小林伸雄

論文(レフェリー制のある雑誌)

- 1) Ohta, H., Sugai, K., Nakatsuka, A., Kurashige, Y. and Kobayashi, N.: Genetic contribution of wild species to evergreen azalea cultivars by microsatellite analysis. The Horticulture Journal, 94: 374-381 (<https://doi.org/10.2503/hortj.SZD-045>) (2025.4)

木村直人 環境生物学連合講座 島根大学配属
2023 年(前期)入学
主指導教員:上野誠

論文(レフェリー制のある雑誌)

- 1) Kimura, N., Ino, M., Kihara, J. and Ueno, M.: Isolation of a *Streptomyces* sp. isolate O3 as a promising biological control agent for cucumber anthracnose caused by *Colletotrichum orbiculare*. Japanese Society of Agricultural Technology Management, 31(1): 31-38(2024.6)

学会発表「国内学会」(一般講演)

- 1) 木村直人* 井野真稔・木原淳一・上野 誠: *Streptomyces* sp. O3 菌株を用いたキュウリ炭疽病の抑制について(2) 日本植物病理学会関西西部会, 近畿大学 農学部(奈良キャンパス)(口頭)(2023.9)
- 2) 木村直人* 井野真稔・木原淳一・上野 誠: 『島根県内の土壌から分離された *Streptomyces* sp. O3 株によるキュウリ炭疽病の抑制について』令和6年度 島根病害虫研究会, 島根大学生物資源科学部(口頭)(2024.3)
- 3) 木村直人* 井野真稔・木原淳一・上野 誠: キュウリ炭疽病菌 *Colletotrichum orbiculare* に対する *Streptomyces* sp.O3 株の凍結乾燥菌体による生物防除活性. 日本植物病理学会関西西部会, 愛媛大学 城北キャンパス(口頭)(2024)

Birara Endalew Admas 経済・経営学連合講座 鳥取大学配属
2023 年(後期)入学
主指導教員: 安延 久美

論文(レフェリー制のある雑誌)

- 1) Endalew, B., Yasunobu, K., Elias, A., & Merkeb, Y. :Does cluster farming matter for commercialization? Empirical evidence from priority crops in Amhara Region, Ethiopia. Journal of Agribusiness in Developing and Emerging Economies, (<https://doi.org/10.1108/JADEE-10-2024-0367>)
- 2) Merkeb, Y., Yasunobu, K., Elias, A., & Endalew, B:Does PSNP participation influence the extent and choices of household coping strategies to food insecurity? Evidence from Northwestern Ethiopia. Journal of Agriculture and Food Research, 19: 1-9 (<https://doi.org/10.1016/j.jafr.2024.101627>)(2025)

学会発表「国内学会」(一般講演)

- 1) Endalew, B., Yasunobu, K., Elias, A., & Merkeb, Y:Extent of household

poverty in teff cluster farming priority regions of Ethiopia.
Agricultural Economics Society of Japan, Fujisawa, Japan (oral)
(2025.3)

黒田英明 農業生産学連合講座 鳥取大学配属
2024 年(前期)入学
主指導教員:竹村圭弘

学会発表「国内学会」(一般講演)

- 1) 黒田英明*・北村睦季・西尾聡悟・竹村圭弘:クリ耐凍性台木系統 No.345 の来歴推定と異種穂木品種の接ぎ木親和性. 園芸学会, 神奈川県川崎市(ポスター)(2026.3)
-

久保田憲 森林・流域環境科学連合講座鳥取大学配属
2024 年(前期)入学
主指導教員:永松大

学会発表「国内学会」(一般講演)

- 1) 久保田憲*・永松大:中国地方の湿原植生の再検討ー鳥取県における湿原植生の特徴ー. 植生学会, 鹿児島県(ポスター)(2025.10)
 - 2) 久保田憲*・本多三奈海・日置佳之・永松大:鳥取県内におけるカキツバタ群落・自生地の特徴. 鳥取県生物学会, 鳥取県(口頭)(2025.12)
 - 3) 久保田憲*・本多三奈海・日置佳之・永松大:中国地方の小規模湿原における植生と環境条件の関係ー唐川湿原を例としてー. 日本生態学会, 京都府(口頭)(2026.3)
-

長棟光祐 森林・流域環境科学連合講座 鳥取大学配属
2024 年(前期)入学
主指導教員:永松大

論文(レフェリー制のある雑誌)

- 1) Chigusa Yugeta, Kosuke Nagamune, Michiru Kitahara, Kozue Sotome, Yuki Ogura-Tsujita*:Five Mycena species that induce seed germination in the mycoheterotrophic orchid Gastrodia. Mycoscience, 66: 282-289(<https://doi.org/10.47371/mycosci.2025.07.005>)
- 2) Kosuke Nagamune*, Nitaro Maekawa, Kenta Fulii, Naoki Endo, Akira Nakagiri, Kenji Suetsugu, Dai Nagamatsu:Taxonomic study of Tulasnella species focusing on their teleomorphs: Description of a new species and two newly recorded species in Japan. Mycoscience,

その他(大学、国公立研究機関の学術報告等)

- 1) 岡田祐哉・長棟光祐*・永松大:鳥取県におけるクモイジガバチ(ラン科)の初記録と絶滅危惧ラン科植物の近年の確認状況. 山陰自然史研究, 21: 1-8(2025.12)

学会発表「国際学会」(一般講演)

- 1) Kosuke Nagamune*, Nitaro Maekawa, Naoki Endo, Akira Nakagiri, Dai Nagamatsu:Taxonomic study of the Tulasnella (Fungi, Basidiomycota) in Japan focusing on its teleomorph. The 11th International Congress Ecology for a Nature-Positive Future in East Asia, Tokyo, Japan

(poster)(2025.7)

学会発表「国内学会」(一般講演)

- 1) 長棟光祐*・永松大:ラン科植物菌根菌と高いDNA 相同性を示す *Tulasnella* 属菌 2 種の子実体について. 菌根研究会, 長野県(ポスター)(2025.11)
- 2) 長棟光祐*・岡田祐哉・永松大:2025 年における鳥取県の着生ランの落下状況. 鳥取県生物学会, 鳥取県(口頭)(2025.12)
- 3) 長棟光祐*・久保田憲・日置佳之・永松大:同一湿原内に出現するラン科植物は菌根菌を共有するのか? 日本生態学会, 京都(ポスター)(2026.3)

伊藤蒼人 農業生産学連合講座 島根大学配属

2025 年(前期)入学

主指導教員:松本真悟

論文(レフェリー制のある雑誌)

- 1) Ito soto Matsumoto ,S., Kadowaki ,M., Sato ,H., Saeki ,Y and Shiro ,S.: Effects of soil moisture content and Rj genotype differences on soybean productivity and soybean-nodulating bradyrhizobial occupancy. *Microbes and Environments*, 41(2026)

学会発表「国内学会」(一般講演)

- 1) 伊藤蒼人*・城惣吉・門脇正行・松本真悟:圃場環境での耕作技術の導入による土壌水分の変化がダイズの生育およびダイズ-根粒菌の共生関係に及ぼす影響. 日本土壌肥料学会, 新潟県新潟市(ポスター)(2025.9)
- 2) 伊藤蒼人*・梅木拓海・城惣吉・春日純子・松本真悟:カンゾウ薬用成分の生産性向上に寄与する新規有用根粒菌の探索. 日本土壌肥料学会 関西支部会, 島根県松江市(口頭)(2025.12)

綾野惣施 環境生物学連合講座 鳥取大学配属

2025 年(前期)入学

主指導教員:中秀司

論文(レフェリー制のある雑誌)

- 1) Ayano S, Oshima K, Yamasaki K, Naka H.: A possibility of premating isolation mediated by female sex pheromones between the two subspecies of *Hierodula patellifera* distributed in Japan. *Environmental Entomology*, Volume 54: 733-737 (<https://doi.org/10.1093/ee/nvaf062>)(2025.6)

学会発表「国内学会」(一般講演)

- 1) 綾野惣施・大島千幸・山崎和久・中 秀司:ハラビロカマキリ～震える雄のなぞ～. 第 70 回日本応用動物昆虫学会大会, 熊本県(ポスター)(2026.3)

招待講演「国内学会」(招待講演のみを記入)

- 1) 綾野惣施・佐治誠哉・山崎和久・中 秀司:日本産カマキリの性フェロモン同定. 第 1 回応用動物昆虫学会 若手の会研究セミナー, 東京都(口頭)(2026.2)

酒井彩衣 環境生物学連合講座 鳥取大学配属
2025 年(前期)入学
主指導教員:上中弘典

学会発表「国際学会」(一般講演)

- 1) Takaya Tominaga*, Risa Sasaki, Ayae Sakai, Hironori Kaminaka, Satoko Yoshida: Host-secreted trehalase negatively regulates arbuscular mycorrhizal symbiosis. International Molecular Mycorrhiza Meeting, Planegg-Martinsried, Germany (poster) (2025.9)

学会発表「国内学会」(一般講演)

- 1) 酒井彩衣*, 山縣陽咲子, 内藤圭吾, 吉岡麻衣, 富永貴哉, 伊福伸介, 上中弘典: シロイヌナズナではキチンシグナル伝達経路非依存的に有益糸状菌トリコデルマによる全身抵抗性が誘導される. 感染生理談話会, 鳥取県鳥取市(ポスター)(2025.8)
- 2) 酒井彩衣*, 上中弘典: 重合度の異なるキチンオリゴ糖により誘導されるシロイヌナズナのパターン誘導免疫に関連する応答の比較解析. 植物微生物研究会, 茨城県つくば市(ポスター)(2025.9)
- 3) 富永貴哉*, 佐々木梨沙, 酒井彩衣, 上中弘典, 吉田聡子: 独立栄養植物のアーバスキュラー菌根共生におけるトレハラーゼの機能. 菌根研究会, 長野県松本市(口頭)(2025.11)
- 4) 酒井彩衣*, 津禰鹿愛花, 大澤薫, 高木桃子, 上中弘典: 有益糸状菌トリコデルマの根内定着によりシロイヌナズナで発現する誘導全身抵抗性 ISR には細胞壁完全性の擾乱が関与する. 植物生理学会, 東京都千代田区(口頭)(2026.3)
- 5) 富永貴哉*, 佐々木梨沙, 酒井彩衣, 上中弘典, 吉田聡子: 独立栄養植物と真菌相互作用におけるトレハラーゼの機能. 植物生理学会, 東京都千代田区(ポスター)(2026.3)
- 6) 酒井彩衣, 津禰鹿愛花, 大澤薫, 高木桃子, 上中弘典: 有益糸状菌トリコデルマの根内定着によりシロイヌナズナで発現する誘導全身抵抗性 ISR には細胞壁完全性の擾乱が関与する. 植物病理学会, 大阪府枚方市(口頭)(2026.3)

Mary-an Altaki 経済・経営学連合講座 鳥取大学配属
2025(後期)入学
主指導教員: Asres Baysa

学会発表「国内学会」(一般講演)

- 1) Altaki, M.*, Elias, A., Yasunobu, K., Launio, C., Loncio, R., and Listino, B.: Farmers' Cooperative and Associations (FCA) Group Marketing Practices of Vegetables in Benguet, Philippines. The Agricultural Economics Society of Japan Annual Meeting 2025, Nihon University (oral) (2025.3)

2. 生命資源科学専攻

平田智基 菌類・きのこ科学連合講座 鳥取大学配属

2023 年(前期)入学

主指導教員: 會見忠則

論文(レフェリー制のある雑誌)

- 1) Hirata, T., Song S., Seki, K., Taniguchi, M., Ishihara, A., Ichiyanagi, T. and Aimi, T: Purification and structural characterization of an anti-Trichophyton compound produced by *Auricularia heimuer* mycelium. MYCOSCIENCE, 67(10.47371/mycosic.2025.12.001) (2026.)
- 2) 平田 智基・ Chollada SOMBOON・ 風早 華歩・ Donratam MANEECANTO・ 渡邊 健司・ 水上 洋一 ・ 城石 雅弘・ 樋口 隆行・ 吉岡 万穂・ 伊藤 慎也・ 尾崎 佑磨・ 霜村 典宏・ 一柳 剛・ 阿座上 弘行・ 會見 忠則: *Hypsizygus marmoreus* ブナシメジ液体培養におけるアルミノケイ酸カルシウム資材添加による菌糸体の活性化. 日本きのこ学会, 33

その他(大学、国公立研究機関の学術報告等)

- 1) 平田 智基・今井 愛・和田 崇志・川口 信久・霜村 典宏・會見 忠則・辻 渉: 菌床培地中のソバアレルゲンのマイタケ子実体への吸収の検討. 日本きのこ学会誌, 33: 78-81 (2025.7)

U.K.D.Sahan Suganda Gunasekara 生物機能科学連合講座 島根大学配属

2023(後期) 入学

主指導教員: 塩月 孝博

論文(レフェリー制のある雑誌)

- 1) "Udawaththa Kankanamge Don Sahan Suganda Gunasekara, Konatsu Inoue, Wataru Tsuchiya, Keisuke Kutsuwada, Shuhei Henmi, and Takahiro Shiotsuki: Biological activity of 2-methylbenzimidazole derivatives with heterocyclic rings on development of *Bombyx mori*. Journal of Pesticide Science,

学会発表「国内学会」(一般講演)

- 1) "Sahan Gunasekara, Konatsu Inoue, Takahiro Shiotsuki: Biological activity of 2-methyl-1-(thiophen-2-yl)methylbenzimidazole on development of *Bombyx mori*. The 50th Annual Meeting of the Pesticide Science Society of Japan, The University of Tokyo(oral) (2025.3)
- 2) Sahan Gunasekara, Konatsu Inoue, Takahiro Shiotsuki: Novel 1-heterocyclic 2-methylbenzimidazole derivatives as insect growth regulators against *Bombyx mori*: Biological, FRET, and in silico evaluation. The 51th Annual Meeting of the Pesticide Science Society of Japan, Shimane University(oral) (2026.3)

Septyani Amini 菌類・きのこ科学連合講座 鳥取大学配属
2023(後期) 入学
主指導教員:霜村 典宏

論文(レフェリー制のある雑誌)

- 1) Septyani Amini, Rena Rifki Safitri, Tadanori Aimi, and Norihiro Shimomura: Cytological and morphological responses of the ectomycorrhizal fungus *Rhizopogon roseolus* to saline conditions. *Mycologia*, In Press: In Press-In Press
(<https://doi.org/10.1080/00275514.2025.2572274>)(2025.11)

学会発表「国際学会」(一般講演)

- 1) Septyani Amini, Tadanori Aimi, Norihiro Shimomura: Responses of hyphal cells of the ectomycorrhizal fungus *Rhizopogon roseolus* to salinity stress induced by seawater. International Conference on Biodiversity 2025, Queen Sirikit National Convention Center, Bangkok, Thailand, Thailand(poster)(2025.11)

Mega Putri Amelya 菌類・きのこ科学連合講座 鳥取大学配属
2023(後期.) 入学
主指導教員:霜村 典宏

論文(レフェリー制のある雑誌)

- 1) Mega Putri Amelya, Takuya Yamada, Naoki Endo, Kozue Sotome, Norihiro Shimomura: Discovery and successful cultivation of the teleomorph of *Fibulochlamys chilensis* (Lyophyllaceae, Agaricales) in Japan, and its reclassification as *Lyophyllum chilense* comb. nov.. *Mycological Progress*, 24:78: 1-13
(<https://doi.org/10.1007/s11557-025-02102-2>)(2025.11)

学会発表「国内学会」(一般講演)

- 1) Mega Putri Amelya, Takuya Yamada, Naoki Endo, Kozue Sotome, Norihiro Shimomura: Taxonomic revision of *Fibulochlamys chilensis* (Lyophyllaceae, Agaricales) based on morphological and phylogenetic analyses. The 69th Annual Meeting of The Mycological Society of Japan, Chiba University, Chiba(oral)(2025.5)

Liu Pei-Chu 菌類・きのこ科学連合講座 鳥取大学配属
2023 年(後期)入学
主指導教員:霜村典宏

論文(レフェリー制のある雑誌)

- 1) THAMPGRAPHAPHON, Rudy HERMAWAN, Pei-Chu LIU, Tadanori AIMI and Norihiro SHIMOMURA: Variability of endohyphal bacteria from the mycelium of ectomycorrhizal mushrooms and their effect on the mycelial growth of host and non-host mushroom strains. *Mushroom Science and Biotechnology*, Vol. 33 (1): 25-33(2025.4)
- 2) Bantha THAMPGRAPHAPHON, Pei-Chu LIU, Tadanori AIMI and Norihiro SHIMOMURA: Exploring factors in hyphal bacteria that influence

mycelial growth of ectomycorrhizal mushroom strains. Mushroom Science and Biotechnology, Vol. 33 (2): 59-67(2025.7)

学会発表「国内学会」(一般講演)

- 1) Pei-Chu LIU, Bancha THAMPGRAPHAPHON, Tadanori AIMI and Norihiro SHIMOMURA: 外生菌根菌ショウロにおける菌糸細菌の効果的な不活化処理の開発. 日本菌学会第 69 回大会, 千葉(口頭)(2025.5)

Ade Aliyya Puspita Sari 菌類・きのこ科学連合講座 鳥取大学配属
2024(後期) 入学
主指導教員: Norihiro Shimomura

学会発表「国内学会」(一般講演)

- 1) Sari, AAP.*, Fujii, M., Shiroishi, M., Higuchi, T., Yoshioka, M., Ito, S., Aimi, T. and Shimomura, N.: Evaluation of mycelial activity in *Pleurotus ostreatus* and *Hypsizygus marmoreus* cultivated in sawdust using MitoTracker Red. The 28th Annual Meeting of The Japanese Society of Mushroom Science and Biotechnology, Takasaki, Gunma(oral)(2025.9)

Erwin Afrendi 菌類・きのこ科学連合講座 鳥取大学配属
2024(後期) 入学
主指導教員: 霜村 典宏

学会発表「国際学会」(一般講演)

- 1) Erwin Afrendi*, Tadanori Aimi, Norihiro Shimomura: Protective effect against copper-induced membrane leakage in *Pinus thunbergii* roots by the ectomycorrhizal mushroom, *Rhizopogon roseolus*. International Conference on Biodiversity 2025, Queen Sirikit National Convention Center (QSNCC), Bangkok, Thailand, Thailand(poster)(2025.11)

Mutiara Nur Pratiwi 菌類・きのこ科学連合講座 鳥取大学配属
2024(後期) 入学
主指導教員: 霜村 典宏

学会発表「国際学会」(一般講演)

- 1) Mutiara Nur Pratiwi; Tadanori Aimi; Norihiro Shimomura: Elucidation of the role of strigolactone GR24 on the establishment of the ectomycorrhizal fungus, *Rhizopogon roseolus*. International Conference on Biodiversity 2025, Queen Sirikit National Convention Center (QNCC), Bangkok, Thailand(poster)(2025.11)

Eodage Chavin Janitha Perera 資源利用化学連合講座 島根大学配属
2024(後期) 入学
主指導教員: 山本 達之

学会発表「国内学会」(一般講演)

- 1) Egodage Chavin Janitha Perera*, Kazuto Arakawa, Shourya Dutta-Gupta, Tatsuyuki Yamamoto and Hemanth Noothalapati: Development of a Novel SERS-Based Method for Rapid Detection of Active Pharmaceutical Ingredients at Tracer Levels in Industrial Effluent. Japan-India Global Education and Research Center (JIGER): Kick-off symposium, Matsue, Shimane. (poster)(2026.2)

その他(特筆すべき事項)「学会賞」

- 1) Eodage Chavin Janitha Perera:Poster Presentation Award - Japan-India Global Education and Research Center (JIGER): Kick-off symposium(2026.2.28)

Suneth Jayasumana 資源利用化学連合講座 島根大学配属
2024(後期) 入学
主指導教員:山本 達之

学会発表「国内学会」(一般講演)

- 1) Jayasumana, S.*, Yamamoto, T. and Noothalapati, H.: Composition-Dependent Raman and FTIR Spectroscopic Investigation of Polyester-Polyurethane Polymer Blends. Japan-India Global Education and Research Center (JIGER) Kick-off Symposium, Kunibiki Messe, Matsue(poster)(2026.2)

渡邊文雄 資源利用化学連合講座 鳥取大学配属
2024 年(後期)入学
主指導教員:美藤友博

論文(レフェリー制のある雑誌)

- 1) Watanabe, F., Sumitani, S., Koseki, K. and Bito, S.:Broth from canned mackerel in water as a source of free-form vitamin B12. Fisheries Science, 91: 621-628(<https://doi.org/10.1007/s12562-025-01863-9>) (2025.6)
- 2) Watanabe, F., Bito, S. and Koseki, K.:Salmon meats and by-products as excellent sources of vitamin B12. Fisheries Science, 91: 405-415 (<https://doi.org/10.1007/s12562-025-01869-3>)(2025.6)
- 3) Watanabe, F., Koseki, K. and Bito, T.:Occurrence and characterization of vitamin B12 compounds in traditinal Japanese sweet "kuzu-mochi" made from fermented wheat starch. Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry, 89: 1488-1498(<https://doi.org/10.1093/bbb/zbaf113>) (2025.10)
- 4) Koseki, K., Yasuda, S., Bito, T. and Watanabe, F.:Quantification of total vitamin B12 and identification of vitamin B12 compounds in commercial fermented tofu (furu) products. Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry, 90: 384-392(<https://doi.org/10.1093/bbb/zbaf195>) (2026.3)
- 5) Watanabe, F., Koseki, K. and Bito, T.:Vitamin B12 compounds in seafood: an update with a focus on traditional byproducts and fermented foods in Japan. Fisheries Science, Published online: 07

March 2026: (<https://doi.org/10.1007/s12562-026-01973-y>)

学会発表「国内学会」(一般講演)

- 1) 渡邊文雄・美藤友博・小関喬平:発酵小麦デンプンから作る久寿餅に含まれているビタミン B12 化合物の特徴. 日本ビタミン学会, 東京都(口頭)(2025.6)
- 2) 渡邊文雄・小関喬平・美藤友博:ナタデココに含まれるビタミン B12 化合物の特徴. ビタミン B 研究委員会, 姫路市(口頭)(2025.11)

上垣莉瑚 資源利用化学連合講座 鳥取大学配属
2025 年度年(前期)入学
主指導教員:河野強

論文(レフェリー制のある雑誌)

- 1) Riko Uegaki, Sho Maega, Masahiro Ono, Tomohiro Bito, Takashi Iwasaki, Akira Shiraishi, Honoo Satake & Tsuyoshi Kawano:The FMRFamide-like peptide FLP-11 regulates the production and secretion of the TGF- β -like protein DAF-7 during *Caenorhabditis elegans* larval development. Scientific Reports, 16: 4634- (<https://doi.org/10.1038/s41598-025-34917-0>)(2026.1)
- 2) Sho Maega*, Riko Uegaki*, Masahiro Ono, Tomohiro Bito, Takashi Iwasaki, Tsuyoshi Kawano (*co-first authors):The neuropeptide receptor-22, expressed in the intestine, regulates larval development by modulating the production and secretion of insulin-like peptide INS-35 in *Caenorhabditis elegans*. Biochem Biophys Res Commun, 808: Epub-(<https://doi.org/10.1016/j.bbrc.2026.153401>)(2026.2)

学会発表「国際学会」(一般講演)

- 1) Riko Uegaki*, Takashi Iwasaki, Tsuyoshi Kawano:The FMRFamide-like peptide-11 (FLP-11) plays a crucial role in promoting larval diapause in *Caenorhabditis elegans* by suppressing the production and secretion of DAF-7, a TGF-b-like molecule . 25th International Worm Meeting, University of California, Davis, the U.S.A.(poster)(2025.7)

学会発表「国内学会」(一般講演)

- 1) 上垣 莉瑚*, 岩崎 崇, 河野 強:The FMRFamide-like peptide FLP-11 and its receptor modulate larval development in *Caenorhabditis elegans*. 線虫研究の未来を創る会 2025, 奈良女子大学(奈良市)(ポスター)(2025.8)
- 2) 上垣 莉瑚, 岩崎 崇, 佐竹 炎, 河野 強*:線虫 *C. elegans* の幼虫休眠を制御する短鎖神経ペプチド FLP と受容体. 日本農芸化学会 2025 年度関西・中四国・西日本支部合同大会, 岡山大学(岡山市)(口頭)(2025.9)

北澤葉 資源利用化学連合講座 鳥取大学配属
2025 年(前期)入学
主指導教員:一柳剛

学会発表「国内学会」(一般講演)

- 1) 北澤葉*・一柳剛:Speciosin B の不斉全合成. 日本農芸化学会, 京都府京都市(口頭)(2026.3)

小寺康太 資源利用化学連合講座 鳥取大学配属
2025 年(前期)入学
主指導教員:田村純一

学会発表「国際学会」(一般講演)

- 1) Kota Kotera, Jun-ichi Tamura, Ren Miyamoto, Gakuto Mochizuki, Takahiro Tamura, Noriyoshi Manabe, Yoshiki Yamaguchi:Chemical extension and glycodendrimer formation of the matriglycan decasaccharide, (-3Xyl α 1-3GlcA β 1-)5 and its affinity for laminin. Eurocarb 22, Gdansk, Poland(oral)(2025.7)

学会発表「国内学会」(一般講演)

- 1) 宮本 廉、田口遥斗、田村敬裕、望月楽斗、湊谷敬太、伊藤良汰、真鍋法義、田村純一、山口芳樹:合成マトリグリカンの構造とラミニン親和性の相関:BLI 法による解析 . 第 91 回日本生化学会東北支部例会, 仙台(ポスター)(2025.6)
- 2) 田口遥斗、宮本 廉、小寺康太、真鍋法義、田村純一、山口芳樹:マトリグリカン立体異性体の立体選択的合成と受容体親和性. 第 44 回日本糖質学会年会, 弘前(口頭)(2025.10)
- 3) 宮本廉、小寺康太、田口遥斗、田村敬裕、望月楽斗、大野詩歩、真鍋法義、田村純一、山口芳樹:BLI 法を用いたマトリグリカン鎖長依存的ラミニン結合の速度論的解析. 第 44 回日本糖質学会年会, 弘前(ポスター)(2025.10)
- 4) 小寺康太、宮本 廉、真鍋法義、山口芳樹、田村純一:マトリグリカン誘導体の合成と受容体親和性. 第 44 回日本糖質学会年会, 弘前(ポスター)(2025.10)

坂本奏人 資源利用化学連合講座 鳥取大学配属
2025 年(前期)入学
主指導教員:河野強

学会発表「国際学会」(一般講演)

- 1) Kanato Sakamoto, Yuki Mochida, Risako Une, Natsumi Kageyama, Takashi Iwasaki, Tsuyoshi Kawano:Involvement of FMRFamide-like peptides in entry into and recovery from dauer diapause in *C. elegans* (Poster session 938C). 25th International Worm Meeting, University of California, Davis, USA(poster)(2025.6)

関宏太 資源利用化学連合講座 鳥取大学配属
2025 年(前期)入学
主指導教員:石原亨

論文(レフェリー制のある雑誌)

- 1) Kota Seki, Keisuke Kariya, Ryo Miyata, Daisuke Sasaki, Yusei Kobayashi, Kotomi Ueno, Ryo C. Yanagita, Yu Tahara, Yoshihiro Nakajima, Atsushi Ishihara:Identification of new cyclocircadins from *Cyclocybe erebia* and their effects on the circadian rhythm of human osteosarcoma cells. *Journal of Natural Products*, 89: 421-432 (<https://doi.org/10.1021/acs.jnatprod.5c01158>)(2026.2)
- 2) Tomoki Hirata, Song Shengyao, Kota Seki, Maki Taniguchi, Atsushi

Ishihara, Tsuyoshi Ichiyanagi, Tadanori Aimi: Purification and structural characterization of an anti-Trichophyton compound produced by *Auricularia heimuer* mycelium. *mycoscience*, 67: 27-31 (<https://doi.org/10.47371/mycosci.2025.12.001>) (2026.2)

学会発表「国内学会」(一般講演)

- 1) 関宏太*・柳田亮・上野琴巳・石原亨: Cyclocybe erebia から単離した新規 cyclocircadin 類の構造解析. 支部創立 25 周年記念 日本農芸化学会中四国支部第 73 回講演会(例会), 山口県山口市(口頭) (2026.1)
- 2) 関宏太*・宮田棕・佐々木大輔・小林雄晟・上野琴巳・田原優・中島芳浩・石原亨: ツチナメコから単離された新規 cyclocircadin 類が概日リズムに及ぼす影響. 日本農芸化学会 2026 年度大会(京都), 京都府京都市(口頭) (2026.3)

内藤一真 資源利用化学連合講座 島根大学配属
2025 年(前期)入学
主指導教員: 清水英寿

論文(レフェリー制のある雑誌)

- 1) Tetsuro Ogawa, Noriteru Tosa, Kozue Kobayashi, Hiromasa Tabata, Kazuma Naito, Shinobu Watanabe, Itaru Sotome, Seiichiro Isobe : Effects of batch-type and inline-type Aqua-gas® treatment on the viable bacterial count of agricultural materials and maintenance of their components. *Food Science and Technology Research*, 32: 37-49 (<https://doi.org/10.3136/fstr.FSTR-D-25-00126>) (2026.1)
- 2) Kazuma Naito, Ayame Tomii, Katsunori Ishii, Hidehisa Shimizu: Indole-3-Acetic Acid and Skatole Exert Opposing Effects on MDR1 Proteostasis in Human Colonic Epithelial Cells: A Molecular Basis for the Gut Microbial Metabolic Switch. *Journal of Xenobiotics*, 16: - (<https://doi.org/10.3390/jox16010036>) (2026.2)

その他(大学、国公立研究機関の学術報告等)

- 1) 河本苺夏、比嘉真美、内藤一真、西村浩二、地阪光生、清水英寿: エイコサペンタエン酸の抗脂肪形成作用に関する機序検討; PPARs および cAMP シグナル伝達経路に着目して. 島根大学生物資源科学部研究報告, 30: 1-7 (2026.1)

学会発表「国内学会」(一般講演)

- 1) 小林凜*、内藤一真、清水英寿: インドール酢酸による AhR タンパク質分解における AhR 非依存的 TiPARP 誘導の関与. 日本農芸化学会中四国支部第 73 回講演会, 山口(口頭) (2026.1)

3 国際乾燥地科学専攻

犬持 智 国際乾燥地科学連合講座 鳥取大学配属
2022 年(前期)入学
主指導教員:猪迫耕二

論文(レフェリー制のある雑誌)

- 1) 犬持智、猪迫耕二、齊藤忠臣:異なる給水方法によるリーチングがもみ殻暗渠システムの排水および除塩性能に及ぼす影響. 日本砂丘学会, 73(2026.10)

学会発表「国際学会」(一般講演)

- 1) INUMOCHI Satoru, INOSAKO Koji, SAITO Tadaomi, Tsugiyuki MASUNAGA: Drainage performance of rice husk sub-surface drainage system under different irrigation conditions. International Conference of Desert Technology 16, JAPAN, JAPAN(poster)(2025.11)

学会発表「国内学会」(一般講演)

- 1) 犬持 智・猪迫耕二・齊藤忠臣・増永二之:もみ殻暗渠システムの構造および管理法が排水と除塩性能に与える影響. 農業農村工学会, 栃木県宇都宮市(ポスター)(2025.9)

Ahmed Khaled Hassan Mohammedali 国際乾燥地科学連合講座 鳥取大学配属
2022(後期) 入学
主指導教員:石井 孝佳

論文(レフェリー制のある雑誌)

- 1) Mohammedali A.K.H., Kamal N.M., Gorafi Y.S.A., Tahir I.S.A., Tsujimoto H., Taniguchi T.:Variation in Root Traits and Root-Endophyte Interactions in Primary Synthetic Wheat Derived from *Aegilops tauschii* Collected from Diverse Soil Types. *agronomy*, 15: - (<https://doi.org/10.3390/agronomy15061443>)(2025.6)
- 2) Mohammedali A.K.H., Gorafi Y.S.A., Kamal N.M., Tahir I.S.A., Tsujimoto H., Taniguchi T.:Exploring Genetic Variation in Root Traits and Root-Fungal Associations in *Aegilops tauschii*. *Agriculture* , 15: - (<https://doi.org/10.3390/agriculture15171889>)(2025.9)

学会発表「国際学会」(一般講演)

- 1) Mohammedali A.K.H., Kamal N.M., Gorafi Y.S.A., Tahir I.S.A., Tsujimoto H., Taniguchi T.:Variation in Root Traits and Root-Endophyte Interactions in Primary Synthetic Wheat Derived from *Aegilops tauschii* Collected from Diverse Soil Types. 6th International Conference on Agriculture, Food Security and Food Safety – AgroFood 2025, Kuala Lumpur, Malaysia(poster)(2025.8)

Mutsa Muhambi 国際乾燥地科学連合講座 鳥取大学配属
2022(後期) 入学
主指導教員:西原 英治

論文(レフェリー制のある雑誌)

- 1) Muhambi, M., Dube, A. A., Sudo, S., Tsubo, M., Sato, K., and Nishihara, E. :Combined effects of biochar and inorganic nitrogen fertilizers on nitrous oxide emissions from perennial pastures. *Discover Soil*, 3: 6 (<https://doi.org/10.1007/s44378-026-00161-9>)(2026.1)
- 2) Muhambi, M., Dube, AA, Manneh, E., Gutema, M., Tsubo, M., Sato, K., and Nishihara, E:Changes in the amounts of different types of carbon in permanent pasture following the co-application of biochar and mineral nitrogen fertilizers. *Carbon Reports*, 4: 215-227 (<https://doi.org/10.1016/j.carbon.2025.120755>)(2025.5)
- 3) Muhambi, M., Dube, AA, Tsubo, M., Sato, K., and Nishihara, E: Influence of Biochar Pyrolysis Temperature on ¹⁵N Fertilizer Uptake at Different Harvest Times in Tall Fescue (*Festuca arundinacea*) Production. *Carbon Reports*, (2025.10)
- 4) Dube, AA, Muhambi, M., Tsubo, M., Sato, K., and Nishihara, E: Utilization of Coal Clinker Ash in Transforming the Carbon Content of Sandy Soil. *Sustainability*, 17: 1952(2025.2) (<https://doi.org/10.3390/su17051952>)
- 5) Dube, AA, Muhambi, M., Tsubo, M., Sato, K., and Nishihara, E:Nitrogen Uptake Dynamics on Sandy Soil Amended with Coal Clinker Ash Reinforced by a ¹⁵N Tracer Isotope Study and Profitability Analysis. *Journal of Sustainability*, 1(2025.7) (<https://doi.org/10.55845/jos-2025-1236>)
- 6) Abebe, MG, Manneh, E., Dube, AA, Muhambi, M., Tsubo, M., Ujiie, K., and Nishihara, E. :NaCl-Induced Dynamic Physiological Response and Growth Stage Sensitivity in Quinoa in Sandy Soils. *MDPI Plants*, 14: 3639(2025.11)

Meseret Gutema Abebe 国際乾燥地科学連合講座 鳥取大学配属
 2023(前期) 入学
 主指導教員:西原 英治

論文(レフェリー制のある雑誌)

- 1) Abebe, M. G., Dube, A. A., Muhambi, M., Manneh, E., Tsubo, M., and Nishihara, E. :Optimising emergence of quinoa genotypes through soil moisture and NaCl management in sandy soil. *Seed Science and Technology*, 53: 515-533(<https://doi.org/10.15258/sst.2025.53.3.11>) (2025.11)
- 2) Abebe, M. G., Manneh, E., Dube, A. A., Muhambi, M., Tsubo, M., Ujiie, K., and Nishihara, E. :NaCl-Induced Dynamic Physiological Response and Growth Stage Sensitivity in Quinoa in Sandy Soils. *Plants*, 14: 3639-(<https://doi.org/10.3390/plants14233639>) (2025.11)

学会発表「国際学会」(一般講演)

- 1) Abebe, M. G., Nishihara, E., Tsubo, M., Ujiie, K., and Fujita, Y.:Growth and physiological responses of quinoa under dryland/sandy-soil conditions. CANVAS 2025 (ASA-CSSA-SSSA Annual Meeting) (Oral). Salt Lake City, Utah, USA (oral)(2025.11)

学会発表「国内学会」(一般講演)

- 1) Abebe, M. G., Nishihara, E., Tsubo, M., Ujiie, K., Manneh, E., Dube, A. A., and Muhambi, M. :Acclimation Strategies and Stress Tolerance in

筏津春花 国際乾燥地科学連合講座 鳥取大学配属
2023 年(前期)入学
主指導教員:緒方 英彦

論文(レフェリー制のある雑誌)

- 1) 河合正憲・石神暁郎・筏津春花・緒方英彦:無機系被覆工法に生じた乾燥収縮ひび割れが凍結融解抵抗性に及ぼす影響の検証. コンクリート工学年次論文集, 47(1): 1014-1019(2025.7)
- 2) 筏津春花・緒方英彦・石神暁郎・河合正憲:拘束治具により作用力を導入したコンクリート供試体の凍結融解抵抗性の評価方法に関する検討. コンクリート工学年次論文集, 47(1): 1554-1559(2025.7)

学会発表「国内学会」(一般講演)

- 1) 田崎小春・浅野珠里・大塚健太郎・筏津春花:農業農村工学会サマーセミナー2024 活動報告. 2025 年度(第 74 回)農業農村工学会大会講演会, 栃木県宇都宮市(口頭)(2025.9)
- 2) 筏津春花・緒方英彦・兵頭正浩・石神暁郎・河合正憲:拘束圧を導入したコンクリートの凍結融解試験方法の提案ー水中凍結融解試験ー. 2025 年度(第 74 回)農業農村工学会大会講演会, 栃木県宇都宮市(口頭)(2025.9)
- 3) 河合正憲・石神暁郎・筏津春花・緒方英彦:補修材に発生した乾燥収縮ひび割れの凍結融解抵抗性に及ぼす影響の検証. 2025 年度(第 74 回)農業農村工学会大会講演会, 栃木県宇都宮市(口頭)(2025.9)

その他(特筆すべき事項)「学会賞」

- 1) 筏津春花:第 47 回コンクリート工学講演会年次論文奨励賞(2025.7.18)
-

安部壮司 国際乾燥地科学連合講座 鳥取大学配属
2023 年(後期)入学
主指導教員:恒川篤史

論文(レフェリー制のある雑誌)

- 1) Takeshi Abe, Atsushi Tsunekawa, Nigussie Haregeweyn, Mitsuru Tsubo, Ayele Almaw Fenta, Zerihun Nigussie, Nigus Tadesse, Samuel Berihun Kassa, Zena Tessema Terefe, Amare Wodaju:Interpersonal information drives intentional change in smallholder farmers' adoption of sustainable land management technologies. Journal of Environmental Management, 393: 127230(10.1016/j.jenvman.2025.127230)(2025.10)

学会発表「国内学会」(一般講演)

- 1) Takeshi Abe:Understanding farmers' intention toward the adoption of sustainable agricultural practices: An extended theory of planned behavior approach. 国際開発学会, 広島大学(ポスター)(2025.11)

その他(特筆すべき事項)「学会賞」

- 1) 安部壮司:国際開発学会ポスター優秀奨励賞(2025.11.29)

Udaakhbayar Jamchin 国際乾燥地科学連合講座 鳥取大学配属
2023(後期) 入学
主指導教員:谷口 武士

論文(レフェリー制のある雑誌)

- 1) Udaakhbayar Jamchin, Masataka Nakayama, Goomaral Altansukh, Enkhchimeg Vanjildorj, Takeshi Taniguchi:Differences in endophytic fungal communities between aboveground and belowground organs in *Larix sibirica* seedlings, and the unexpected occurrence of ectomycorrhizal *Russula* in both. *Fungal ecology*, (2026.)
- 2) Udaakhbayar Jamchin, Mohamed M. Eltayeb, Atsushi Ishihara, Takeshi Taniguchi*:Diversity of culturable endophytic fungi in *Larix kaempferi* across tree age, season, and plant organs, and endophyte plant growth-promoting activity. *Microbes and environments*

学会発表「国際学会」(一般講演)

- 1) Udaakhbayar Jamchin.* Takeshi Taniguchi:Plant growth-promoting effects of *Phialocephala fortinii* . 6th International conference on Agriculture, Food security, and Food Safety, Kuala Lumpur, Malaysia (poster)(2025.8)

Elizabeth Manneh 国際乾燥地科学連合講座 鳥取大学配属
2023(後期) 入学
主指導教員:西原 英治

論文(レフェリー制のある雑誌)

- 1) Elizabeth Manneh, Agnes A. Dube, Meseret G. Abebe, Mutsa Muhambi, Satoshi Yamada, Kuniaki Sato, and Eiji Nishihara:Peanut Shell Biochar as a Standalone Soilless Substrate for *Komatsuna* (*Brassica rapa* var. *perviridis*): Growth Response and Reuse Potential. *Hortscience*, (2026)
- 2) Dube, A. A., Abebe, M. G., Manneh, E., Tsubo, M., Sato, K., & Nishihara, E. :Coal Clinker Ash Influence in Mineral Nitrogen Sorption and Leaching in Sandy Soil. *Sustainability (Switzerland)*, 17(4): 1-15 (2025.2)
- 3) Muhambi, M., Dube, A. A., Manneh, E., Gutema, M., Tsubo, M., Sato, K., & Nishihara, E.:Changes in the amounts of different types of carbon in permanent pasture following the co-application of biochar and mineral nitrogen fertilizers. *Carbon Reports*, 4(3): 215-227(2025.5)
- 4) Abebe, M. G., Manneh, E., Dube, A. A., Muhambi, M., Tsubo, M., Ujiie, K., & Nishihara, E:NaCl-Induced Dynamic Physiological Response and Growth Stage Sensitivity in Quinoa in Sandy Soils. *Plants*, 14(23): 1-17 (2025.11)

学会発表「国際学会」(一般講演)

- 1) Manneh E.*, Yamada S., Sato K., Nishihara E:Peanut Shell Biochar: A Double Approach for Soilless Cultivation and Sustainable Nutrient Management . 3rd International Conference on Environmental Sustainability through Waste and Recycling (ENSURE-2025), Houston,

Texas, USA(oral)(2025.4)

学会発表「国内学会」(一般講演)

- 1) Manneh E.,* Yamada S., Sato K., Nishihara E: Effects of pyroligneous and citric acids on peanut shell biochar as a standalone (100%) soilless media for leafy vegetable cultivation. 22nd Annual Meeting of the Japan Society of Coal Chemistry and Research Presentation, Tohoku University, Sendai City, Miyagi Prefecture(oral)(2025.9)
- 2) Manneh E.,* Yamada S., Sato K., Nishihara E: Evaluating Peanut Shell Biochar as a Sustainable Potassium Source in Peanut Production . Miji -Tottori University Research Presentation , Tottori University(oral)(2025.9)

招待講演「国内学会」(招待講演のみを記入)

- 1) Manneh E.,* Yamada S., Sato K., Nishihara E: Utilization of peanut shell biochar as a standalone soilless media for the cultivation of leafy vegetables . JICA Knowledge Co-Creation Program (KCCP) Training Seminar, Tottori University(2025.8)
- 2) Peanut Shell Biochar as a Standalone Soilless Substrate for Komatsuna (Brassica rapa var. perviridis): Growth Response and Reuse Potential: Invited presentation to visiting Ukrainian delegation on a forthcoming biochar project. Tottori University (2026.1)

Ngozi Paulinus Ofem 国際乾燥地科学連合講座 鳥取大学配属
2023(後期) 入学
主指導教員: 石井 孝佳

論文(レフェリー制のある雑誌)

- 1) Ofem, N. P., Kamal, N. K., Pearson, S., Jordan, D., Mace, E., Ishii, T.: Genetic Diversity and Structure of Asian Cowpea (*Vigna unguiculata* (L.) Walp.) Germplasm. Scientific Reports , 15 (<https://doi.org/10.1038/s41598-025-13511-4>)(2025.7)

学会発表「国際学会」(一般講演)

- 1) Ofem, N. P.*, Kamal, N. K., Pearson, S., Jordan, D., Mace, E., Ishii, T.: Evaluation of Genetic Diversity and Population Structure of Asian Cowpea (*Vigna unguiculata* (L.) Walp.) Germplasm. The VIII InterDrought Global Conference, La Serena, Region de Coquimbo, Chile(poster)(2025.11)

学会発表「国内学会」(一般講演)

- 1) Ofem, N. P.*, Kamal, N. K., Pearson, S., Jordan, D., Mace, E., Ishii, T.: Exploring of Genetic Diversity and Population Patterns in Asian Cowpea (*Vigna unguiculata* (L.) Walp.). The 148th Meeting of the Japanese Society of Breeding (JSB), Sapporo, Hokkaido(poster)(2025.9)

Samuel Kassa 国際乾燥地科学連合講座 鳥取大学配属
2023(後期) 入学

主指導教員:恒川 篤史

論文(レフェリー制のある雑誌)

- 1) Kassa, S. B., Tsunekawa, A., Haregeweyn, N., Tsubo, M., Fenta, A. A., Aklog, D., Berihun, M. L., Sultan, D., Meshesha, T. M., Belay, A. S., Kebede, M. G., Abe, T., Hailu, Y. B., and Telake, Y. A.:Improving sedimentation rate estimates by integrating bathymetric surveys with remote sensing: A case study of Lake Tana, Northwest Ethiopia. *Journal of Soil and Sediment*, 26(3): 59-81 (<https://doi.org/10.1007/s11368-026-04247-3>)(2026.2)
 - 2) Kassa, S. B., Tsunekawa, A., Haregeweyn, N., Tsubo, M., Fenta, A. A., Aklog, D., Berihun, M. L., Sultan, D., Abe, T., Meshesha, T. M., Belay, A. S., Hailu, Y. B., Terefe, Z. T., Mhired, D. A., Telake, Y. A.:Elucidating long-term suspended sediment dynamics in Lake Tana of Ethiopia through integrating remote sensing with multi-depth field measurements. *Journal of Great Lakes Research*, : 102774- (<https://doi.org/10.1016/j.jglr.2026.102774>)
-

関口結佳 国際乾燥地科学連合講座 鳥取大学配属
2023 年(後期)入学
主指導教員:石井孝佳

学会発表「国際学会」(一般講演)

- 1) Sekiguchi Y, Kosei T, Yan G, Kamal Mohamed N, Cuacos M, Ishii T: Trifluoromethanesulfonamide (TFMSA) induce male sterility in plants via inhibition of proline transport and phenylpropanoid biosynthetic pathway. *Plant chromosome biology 2025*, ウィーン, オーストリア(poster) (2025.9)

学会発表「国内学会」(一般講演)

- 1) 関口結佳, 寺田晃盛, 高燕, ナスリン モハメド カマル, 石井孝佳:トリフルオロメタンスルホンアミド(TFMSA)を用いた作物の除雄法の開発:プロリン輸送およびフェニルプロパノイド合成経路の阻害を介した雄性不稔の誘導. 日本育種学会第 148 回 講演会, 北海道(ポスター)(2025.9)
-

Zena Terefe 国際乾燥地科学連合講座 鳥取大学配属
2023(後期) 入学
主指導教員:NIGUSSIE HAREGEWEYN AYEHU

論文(レフェリー制のある雑誌)

- 1) Terefe, Z.T., Haregeweyn, N., Tsubo, M., Fenta, A.A., Belay, A.S., Meshesha, T.M., Bizuneh, B.B., Kassa, S.B., Hailu, Y.B., Gelaw, E.M., Kehali, A.T., Bawoke, G.T., and Tsunekawa, A.:Unravelling Groundwater Storage Dynamics and Implication for River-Aquifer Interactions: A Nested-Watershed Analysis in the Headwater Region of the Upper Blue Nile Basin, Ethiopia. *Hydrological Processes*, 39, no. 10: e70284- (<https://doi.org/10.1002/hyp.70284>)(2025.9)
-

植木朋実 国際乾燥地科学連合講座 山口大学配属
2024 年(前期)入学
主指導教員:荊木康臣

その他(大学、国公立研究機関の学術報告等)

- 1) 荊木康臣・木村元紀・平井悠剛・植木朋実:AI 画像解析の植物生産への応用. 農業電化, 第 78 巻第 3 号: 2-6(2025.5)
- 2) 植木朋実・川上龍生・荊木康臣・岩本哲弥:イチゴの施設栽培における粘着トラップ上のアザミウマ個体数の自動計数. 農業電化, 第 79 巻第 2 号: -(2026.3)

学会発表「国内学会」(一般講演)

- 1) 植木朋実*・竹内廉・荊木康臣・原田浩介:深層学習を用いた画像からの LAI 推定ー栽培現場での実用化に向けた検討ー. 日本生物環境工学会 2025 年愛媛大会, 愛媛県松山市(ポスター)(2025.9)
- 2) 清水聡乃*・植木朋実・荊木康臣・原田浩介:セマンティックセグメンテーションと物体検出を組み合わせたイチゴ群落全方位画像からの花の抽出. 日本生物環境工学会 2025 年愛媛大会, 愛媛県松山市(ポスター)(2025.9)
- 3) 植木朋実*・荊木康臣・原田浩介:栽培画像を利用したイチゴのリアルタイム生育モニタリングー解析不適画像の自動判別モデルの導入ー. 令和 7 年度日本農業気象学会中国・四国支部大会, 徳島県徳島市(口頭)(2025.11)
- 4) 植木朋実*・川上龍生・荊木康臣・岩本哲弥:携帯端末画像を用いたアザミウマ個体数評価システムの構築. 日本農業気象学会 2026 年全国大会, 茨城県つくば市(ポスター)(2026.3)
- 5) 清水聡乃*・植木朋実・荊木康臣・原田浩介:全天球カメラを用いたイチゴの開花数評価に関する研究ー超解像処理の適用ー. 日本農業気象学会 2026 年全国大会, 茨城県つくば市(ポスター)(2026.3)

Biazen Endalamaw Mekonnen 国際乾燥地科学連合講座 鳥取大学配属
2024(後期)入学
主指導教員:NIGUSSIE HAREGEWEYN AYEHU

学会発表「国内学会」(一般講演)

- 1) Biazen Endalamaw *, Nigussie Haregeweyn, Takeshi Taniguchi, Getu Abebe, Masataka Nakayama, Mitsuru Tsubo, Menale Wondie, Takeshi Abe, Yoseph Buta Hailu, Atsushi Tsunekawa:Comparative analysis of soil prokaryotic community structure and function in Ethiopian native Church Forests and adjacent habitats . The 73rd Annual Meeting of the Ecological Society of Japan (ESJ73), Kyoto(oral)(2026.3)

原優里佳 国際乾燥地科学連合講座 山口大学配属
2025 年(前期)入学
主指導教員:鈴木賢士

学会発表「国際学会」(一般講演)

- 1) *Hara, Y., Suzuki, K., Takami, K. and Kawano, T.:Balloon-borne and ground-based hydrometer imaging measurements of melting layer. The 5th International Summer Snowfall Workshop, Reading, UK(poster)(2025.9)

- 2) *Suzuki, K., Hara, Y., Sugidachi, T., Shimizu, K., and Kawano, T.: Development of a new balloon-borne particle imaging radiosonde. The 5th International Summer Snowfall Workshop, Reading, UK(oral) (2025.9)
- 3) *Fujimori, Y., Suzuki, K., Hara, Y., and Takami, K.: Ground-based observation of snow particles in the windward / leeward areas of Uonuma Hills. Japan Geoscience Union Meeting 2025, MAKUHARI MESSE, Chiba, Japan(poster)(2025.5)

学会発表「国内学会」(一般講演)

- 1) *原優里佳・鈴木賢士・川村誠治・花土弘・梅原章仁:2025 年 3 月 19 日関東地方で発生した雷を伴う降雪の降水粒子地上観測. 日本気象学会 2025 年度秋季大会, 福岡県福岡市(ポスター)(2025.11)
- 2) *藤森優香里・鈴木賢士・原優里佳・高見和弥・新潟・十日町における降水粒子撮像ゾンデ観測でみられた雪雲内の霰形成プロセス. 日本気象学会 2025 年度秋季大会, 福岡県福岡市(ポスター)(2025.11)
- 3) *田村奈津美・鈴木賢士・原優里佳・清水健作・杉立卓治・酒井直樹・出世ゆかり・中北英一:大型降雨実験装置による大雨時の気球浮力の精密計測. 日本気象学会 2025 年度秋季大会, 福岡県福岡市(ポスター)(2025.11)
- 4) *鈴木賢士・國弘真緒・原優里佳・川野哲也:対流性雲内の上昇流域における 0℃高度付近の微物理学的特徴. 第 47 回日本気象学会九州支部発表会, 福岡県福岡市(口頭)(2026.3)

Kingsley Ikenna Ikpa-Agodo 国際乾燥地科学連合講座 鳥取大学配属

2025(後期) 入学

主指導教員:石井 孝佳

学会発表「国内学会」(一般講演)

- 1) Kingsley Ikenna Ikpa-agodo:Phenotypic and metabolic effects of hybrid mitochondria of wheat and maize or pearl millet in in vitro fertilization-derived wheat cybrids. 148TH JAPANESE SOCIETY OF BREEDING (JSB) CONFERENCE, Sapporo convention center, Hokkaido (oral)(2025.11)
- 2) Kingsley Ikenna Ikpa-agodo:Mitochondrial hybridity in in vitro fertilization-generated maizewheat and pearl milletwheat cybrids show important stable phenotypic variations. 17TH CHUGOKU REGIONAL BREEDING MEETING, IPSR, Okayama University(poster)(2025.11)
- 3) Kingsley Ikenna Ikpa-agodo:Hybrid mitochondria confer stable phenotypic variations in in vitro fertilization-generated maizewheat and pearl milletwheat cybrids. 20TH TRITICEAE MEETING, Fukui Prefectural University(poster)(2025.12)

Yoseph Buta 国際乾燥地科学連合講座 鳥取大学配属

2025(後期)入学

主指導教員:NIGUSSIE HAREGEWEYN AYEHU

学会発表「国内学会」(一般講演)

- 1) Yoseph Buta Hailu*, Nigussie Haregeweyn, Takeshi Taniguchi, Mitsuru Tsubo, Masataka Nakayama, Birhanu Agumas, Getu Abebe, Mohamed

M. Eltaye, Biazen Endalamaw, Takeshi Abe, Atsushi Tsunekawa :
Impact of polyacrylamide application on soil loss, soil properties, and
plant growth through complimentary field and laboratory studies. The
73rd Annual Meeting of the Ecological Society of Japan, Kyoto(oral)
(2026.3)

第2章 横断的研究プロジェクト

1. ヒノキ科樹木における加齢と耐病性獲得との関係

研究代表者	岩永 史子(鳥取)
協力研究者	大崎 久美子(鳥取)、妻鹿 良亮(山口)、上野 誠(島根)
研究概要	国内のヒノキ科人工林における高齢林の増加は気候変動の影響を受け病害リスクが増大することが予測されている。しかし高齢林での病害の発生パターンや病害防除に関する知見は乏しい。本申請では、ヒノキ人工林で頻発する漏脂病害を対象に、発病プロセスの把握と耐病性の評価を試みた。具体的には以下 2 課題を行った。 課題1:ヒノキ苗木を用いたヒノキ漏脂病菌の接種実験 ヒノキ漏脂病の既往研究では野外立木での発病・被害報告に偏りが強く、感染プロセスを生理学的・病理学的に詳細に解析・検討した例に乏しい。本実験では発病プロセスの把握の基礎となる実験系の確立を目的として、圃場苗木を対象に菌接種実験を試みた。併せて、接種個体での防御反応による組織構造的変化の評価、生産された樹脂の抗菌性評価、樹脂の質的解析を行った。 課題2:ヒノキ漏脂病罹患木から得られた樹脂の質的解析 樹脂生産は生物的・非生物的要因を含む様々な刺激によって促進される。病害においては宿主の防御応答のひとつだと考えられているが、樹脂による発病プロセスへの抑制効果は明らかでない。本実験ではヒノキ漏脂病・罹患木で生産された樹脂を用いた抗菌試験と抗菌性物質の推定を行い、樹脂の発病過程への関わりを検討した。また感染による樹脂の質的变化を検討するため、健全木から採取された樹脂との比較を行った。 

2. 酒類産業発展のための発酵学・栽培学・酒育の融合

研究代表者	松尾 安浩(島根)
協力研究者	松尾 安浩(島根)、 荒木 英樹(山口) 門脇 正行(島根)、 小林 伸雄(島根) 有馬 二郎(鳥取)
研究概要	本研究プロジェクト(酒育研究会)は、山口、鳥取、島根の3大学で、2022年度から3年間で酒造の関連研究および普及教育活動を行う教員の組織化を図り、計5回の集会を開催して、酒類産業と多様な繋がりを構築してきた。2025年度は、酒類産業から発酵学や栽培学にも発展させて次のように活動を行った。 1)第6回集会の開催 2025年12月10日に、久米桜酒造および大山Gビールにて「伯耆富士山麓の発酵学～久米桜酒造と大山Gビールから学ぶ発酵技術～」と題して勉強会と演習会を開催した。 2)第7回集会の開催 2026年1月14日に、松江テルサにて「山陰地域で育まれる発酵の力」と題し、研究集会を開催した。講師には、山口巖雄氏(石見麦酒)渡邊 格氏、麻里子氏(タルマーリー)、大渡康夫氏(島根県産業技術センター)、児玉基一朗氏(島根大学生物資源科学部)を招聘し、山陰地域で実際に生産されているクラフトビールやパンに関して講演があった。 3)メキシコでの「酒育」の紹介 GAN-RENDAI 中南米支部設立にともないメキシコ CIBNOR にて、酒育研究会のメンバー(荒木・松尾)が酒育研究を紹介し、日本酒の魅力を広めた。 4)社会実装(研究成果物の開発と販売) 松尾が島根県産業技術センターと共同で島根県浜田市のツツジから単離した酵母を使い、浜田市の Beer Stand Honami さんで「どぶろく」が開発され、販売された。また、松尾が島根県産業技術センターと共同で単離開発したローカル酵母を使い、島根県松江市の大根島醸造所さんがクラフトビールを開発し、販売された。島根大学が開発したサクラ品種「本庄曙」からローカル酵母が単離され、門脇が農場で生産したサツマイモとリンゴを組み合わせて醸造した「農場サツマイモビール」と「農場リンゴシードル」が石見麦酒で開発され、試飲会を実施した。小林が石川県能登地方で研究した「のときリシマツツジ古木」からローカル酵母が単離され、クラフトビール「のときリシマツツジ」が石見麦酒で開発され、試飲会を実施した。



3. マメ科植物を鍵とした植物－微生物間コミュニケーションの解読とプロバイオティクス創出

研究代表者	前野 慎太郎(山口)
協力研究者	前野 慎太郎(山口)、 佐藤 悠(山口) 肥塚 崇男(山口)、 上中 弘典(鳥取) 久保 満佐子(島根)
研究概要	本プロジェクトでは、マメ科植物をモデルとして、植物－微生物間における双方向的なコミュニケーション機構の解明を目的に、分野横断的な研究を実施した。具体的には、天然環境および栽培系からマメ科植物を採取し、根圏・根粒・葉面から共生微生物を分離・同定するとともに、それらの生理活性(植物生育促進因子や抗菌物質など)を評価した。さらに、代表菌株についてはゲノム解析を行い、共生関連機能の基盤となる遺伝子情報の取得を進めた。分離した微生物については、根粒菌やアーバスキュラー菌根菌との共培養実験や、無菌栽培ダイズへの接種試験を通じて、生物間相互作用および植物生育への影響を評価した。また、植物側の応答として生じる代謝産物や植物ホルモンの変化を解析し、それらが微生物の増殖や機能発現に与える影響についても検討した。さらに、揮発性香気成分を含む植物由来物質の役割に着目し、植物および微生物双方への影響評価を行った。これらの解析を通じて、微生物が植物に与える影響と、それに応答した植物側の変化が再び微生物に作用するという「双方向的な連鎖構造」に基づく共生システムの理解を深化させた。さらに、得られた知見をもとに、植物プロバイオティクスや農業資材、食品発酵への応用可能性を検討し、基礎研究から応用展開への橋渡しを試みた。 マメ科植物をモデルとした植物－微生物相互作用 ～植物生育促進因子の探索～

第3部 組織・運営

第1章 主指導教員の教育研究分野一覧

令和8年3月1日現在

専攻	連合講座	主指導教員氏名	所属大学	教育研究分野	
				名称	内容
生産環境科学	農業生産学	荒木 英樹	山口大学	栽培学	不良環境下における作物の生産機能とその栽培学的応用
		小林 伸雄	島根大学	園芸育種学	植物遺伝資源の評価と育種利用
		高橋 肇	山口大学	作物学	作物の省力・低投入型栽培体系の確立に関する研究
		竹村 圭弘	鳥取大学	園芸生産学	園芸作物の栽培生理に関する研究
		田中 裕之	鳥取大学	植物遺伝学	小麦粉品質の改良に関する遺伝育種学的研究
		鶴永 陽子	島根大学	食品加工学	食品加工における製造方法と機能性に関する研究
		中務 明	島根大学	園芸分子育種学	園芸作物における有用形質関連遺伝子の解析と育種利用
		野波 和好	鳥取大学	農業生産工学	農作業の機械化に関する研究
		松本 真悟	島根大学	土壌・作物栄養学	土壌肥沃度に対応した作物の養分獲得機構の解明
		谷野 章	島根大学	植物環境工学	植物栽培環境における光工学技術の応用
	経済・経営学	Asres Elias Baysa	鳥取大学	農村開発学・農業普及学	アフリカ・東南アジアにおける農村・農業開発プログラムに関する社会経済学的研究:特に、農業生産性および農家世帯の生計向上、貧困緩和への効果に焦点をあてて
		木原 奈穂子	鳥取大学	アグリビジネス会計学	農業・農村の組織運営と会計に関する研究
		筒井 一伸	鳥取大学	農村地理学・地域経済論	農山村の地域経済と地域づくりに関する研究
		万 里	鳥取大学	流通情報解析学	農産物の流通経路と市場情報の計量経済分析
		松田 敏信	鳥取大学	消費者行動学	計量経済学による消費者行動の研究、特に食料需要の実証分析
		松村 一善	鳥取大学	農業経営学	農業経営と農村社会の相互関係に関する研究
		保永 展利	島根大学	地域経済学	条件不利地域の農地、地域社会、経済の持続性に関する研究
		安延 久美	鳥取大学	国際農業開発学	東南アジアにおける農業・農村開発に関する研究
	森林・流域環境科学	石井 将幸	島根大学	地域基盤工学	水利施設の補修補強に関する設計手法の開発
		岩崎 亘典	鳥取大学	地理情報科学	地理情報システムを用いた里地里山の景観変遷に関する研究とオープンソース、オープンデータの活用
		久保 満佐子	島根大学	植物生態学	植物の生態および植生、保全に関する研究
		永松 大	鳥取大学	植物生態学	森林・草原の植物個体群動態と植生科学, 生物多様性保全
		藤本 高明	鳥取大学	木材理学	木材性質変動の解析および計測評価手法の開発
		吉村 哲彦	島根大学	森林利用学	森林利用・木材収穫における社会的・技術的諸課題に関する研究
	環境生物学	荒西 太士	島根大学	保全生態学	水域生物圏の保全遺伝学と進化生態学
		上野 誠	島根大学	植物病理学	植物-病原菌の相互作用における抵抗性発現に関する研究
		上中 弘典	鳥取大学	植物微生物相互作用学	植物における免疫応答と菌根共生の分子機構の解明
		唐澤 重考	鳥取大学	多様性生物学	無脊椎動物の遺伝子・種多様性に関する研究
		木原 淳一	島根大学	植物病理学	植物病原糸状菌の光環境応答

専攻	連合講座	主指導教員氏名	所属大学	教育研究分野	
				名称	内容
生産環境科学	環境生物学	中 秀司	鳥取大学	害虫制御学	ガ類を主とした昆虫類の化学生態解明と防除への応用
		細井 栄嗣	山口大学	応用動物生態学	害獣および希少動物の保護・管理のための生態学的研究
		山口 啓子	島根大学	水圏生態学	ベントスを中心とした生物の生態と水圏環境に関する研究
生命資源科学	菌類・きのこ科学	會見 忠則	鳥取大学	微生物生産科学	微生物による食料及び有用物質生産の生化学・分子生物学
		霜村 典宏	鳥取大学	菌類育種栽培学	きのこ類遺伝資源の育種・栽培に関する研究
		早乙女 梢	鳥取大学	菌類系統分類学	きのこ類の系統分類と木材腐朽性担子菌の生態に関する研究
	生物機能科学	有馬 二郎	鳥取大学	生命機能化学	微生物・酵素の新奇機能探索とメカニズムの解明、及びその利用
		石川 孝博	島根大学	植物分子生理学	光合成生物における抗酸化物質生合成と活性酸素代謝機構
		岩崎 崇	鳥取大学	生体制御化学	生体機能を制御する生理活性物質の探索および開発に関する研究
		塩月 孝博	島根大学	生物制御化学	昆虫を主な対象とする生物制御の分子機構解明と化学生物学的応用
		古水 千尋	島根大学	植物分子遺伝学	植物の形態・成長と多様性を支える遺伝的基盤の解明と応用
		松尾 安浩	島根大学	微生物遺伝学	分裂酵母のシグナル伝達経路による細胞周期の制御機構
		丸田 隆典	島根大学	植物生理学	植物のレドックス代謝ネットワークとストレス応答
		山本 敦史	鳥取大学 (公立鳥取環境大学)	環境質量分析学	環境中の機能性あるいは有害成分の質量分析法を用いた探索・評価
	資源利用化学	阿座上 弘行	山口大学	分子微生物学	バクテリアの宿主表面への定着の分子メカニズム
		石原 亨	鳥取大学	天然物化学	植物・微生物が合成する代謝産物の機能、生理活性、生合成に関する研究
		一柳 剛	鳥取大学	有機化学	合成化学的アプローチによる生物活性化合物の機能解明
		河野 強	鳥取大学	生物有機化学	環境応答による休眠・代謝・寿命の制御機構
		肥塚 崇男	山口大学	植物代謝生化学	植物特化代謝産物の多様性の解明と代謝改変に関する研究
		地阪 光生	島根大学	食品機能化学分野	酵素および微生物による機能性食品成分の機能性の改変
		清水 英寿	島根大学	栄養病態生理学	食品由来腸内細菌代謝産物や藍藻類由来毒素による病態発症メカニズムの解明
		田村 純一	鳥取大学	有機化学	生理活性糖鎖の化学合成と天然糖鎖の単離・構造決定
		Noothalapathi Hemanth	島根大学	分子分光・イメージング	AI 支援分光イメージング技術の創出と応用
		美藤 友博	鳥取大学	食品機能学	食品に含まれるビタミンやその他食品成分の生体機能に関する研究
		室田 佳恵子	島根大学	食品代謝機能学	脂溶性食品成分の生体利用性と機能性に関する研究
		藪田 行哲	鳥取大学	栄養科学	抗酸化ビタミンの機能と酸化ストレス応答に関する研究
		山本 達之	島根大学	生命分子分光学	分子分光学の生命科学や医療への応用
		吉清 恵介	島根大学	分子認識工学	シクロデキストリン包接体の食品応用に関する研究

専攻	連合講座	主指導教員氏名	所属大学	教育研究分野	
				名称	内容
国際乾燥地科学	国際乾燥地科学	明石 欣也	鳥取大学	分子細胞生物学	耐乾性植物のストレス分子応答および環境耐性植物の分子育種
		Nigussie Haregeweyn Ayehu	鳥取大学	土地管理	流域プロセスのモニタリング、モデリング及び管理に関する研究
		安 萍	鳥取大学	植物生理生態学	乾燥地における植物の生理的応答と機構および生態学に関する研究
		石井 孝佳	鳥取大学	植物細胞遺伝学	細胞工学的手法による作物の改良
		一戸 俊義	島根大学	家畜飼養学	反すう家畜の栄養と生産システムの評価
		猪迫 耕二	鳥取大学	水土環境保全学	水土環境の保全と再生ならびに持続可能な利用に関する研究
		荊木 康臣	山口大学	生物環境調節工学	環境制御型植物生産システムに関する研究
		遠藤 常嘉	鳥取大学	土壌化学	乾燥地域における灌漑農地の塩類動態と土壌劣化に関する研究
		緒方 英彦	鳥取大学	水利施設工学	水利構造物の建設材料と構造性能の評価
		岸井 正浩	鳥取大学 (JIRCAS)	植物遺伝資源開発学	環境耐性が高い植物遺伝資源の育種への活用研究
		衣笠 利彦	鳥取大学	乾燥地緑化保全学	乾燥・半乾燥草原に生育する植物の生態学および生態生理学
		木村 玲二	鳥取大学	乾燥地気象学	乾燥地における気象現象の観測と物理的解明
		黒崎 泰典	鳥取大学	乾燥地気候学	乾燥地における気候変動、風食、ダスト発生、ダストの気候影響
		佐久間 俊	鳥取大学	植物分子育種学	作物の重要形質を制御する遺伝的基盤の解明とゲノム育種
		清水 克之	鳥取大学	水利用学	農業用水管理のモニタリングと評価
		鈴木 賢士	山口大学	気象学	降水メカニズム解明のための観測研究と降水粒子測定手法の開発
		田川 公太朗	鳥取大学	自然エネルギー工学	自然エネルギー利用技術の開発と最適システム設計に関する研究
		谷口 武士	鳥取大学	微生物生態学	土壌および植物根圏微生物の生態と利用
		坪 充	鳥取大学	気候リスク管理学	乾燥地における農業気象と気候変動対応型農業
		西原 英治	鳥取大学	乾燥地作物栽培学	乾燥地を含む地域における作物栽培体系の構築に関する研究
		兵頭 正浩	鳥取大学	施設環境材料学	農業水利施設の維持管理と環境を考慮した材料に関する研究
		Fente Ayele Almaw	鳥取大学	水文学および地理空間解析	水文過程のモニタリングおよびモデリング、水文気候極端現象の解析、ならびに地理空間解析手法の応用
		藤巻 晴行	鳥取大学	灌漑排水学	乾燥地における節水灌漑と塩類集積防止
		山田 智	鳥取大学	植物栄養学	乾燥地における植物のストレス応答機構に関する研究

第2章 委員会

1. 研究科委員会

(1) 委員

令和8年3月1日現在

専攻	連合講座	鳥取大学		島根大学		山口大学	
		教授	准教授	教授	准教授	教授	准教授
生産環境科学	農業生産学	野波 和好 田中 裕之	竹村 圭弘 近藤 謙介	小林 伸雄 鶴永 陽子 松本 真悟 松本 敏一 谷野 章 江角 智也	中務 明 池浦 博美 氏家 和広 門脇 正行 小林 和広 田中 秀幸 ▲城 惣吉	荒木 英樹 高橋 肇 執行 正義	金 貞希
	経済・経営学	万 里 松田 敏信 松村 一善 安延 久美 筒井 一伸	Asres Elias Baysa 木原 奈穂子		保永 展利 中間 由紀子		
	森林・流域 環境科学	永松 大 岩崎 亘典	藤本 高明 芳賀 弘和 山中 啓介 △岩永 史子 △菅森 義晃	吉村 哲彦 石井 将幸 桑原 智之	久保 満佐子 高橋 絵里奈 山下 多聞 米 康充 上野 和広		▲萩原 大生
	環境生物学	唐澤 重考 上中 弘典	中 秀司 大崎 久美子 木戸 一孝	荒西 太士 上野 誠 木原 淳一 山口 啓子	泉 洋平 堀之内 正博 ▲清水 加耶 ▲林 昌平	竹松 葉子	細井 栄嗣 柳 由貴子 佐々木 一紀 ▲北沢 優悟
生命資源科学	菌類・きのこ科学	會見 忠則 霜村 典宏 早乙女 梢					
	生物機能科学	有馬 二郎	岩崎 崇	石川 孝博 塩月 孝博 丸田 隆典 松尾 安浩 中川 強 吉田 真明	小川 貴央 戒能 智宏 蜂谷 卓士	今村 博臣 薬師 寿治 高坂 智之	片岡 尚也 湯山 育子 ▲佐藤 悠
	資源利用化学	石原 亨 一柳 剛 河野 強 田村 純一	藪田 行哲 上野 琴巳 美藤 友博	清水 英寿 室田 佳恵子 山本 達之 吉清 恵介	地阪 光生 西村 浩二 Noothalapati Hemanth	阿座上 弘行 赤壁 善彦 小崎 紳一 松井 健二 宮田 浩文 井内 良仁 木股 洋子	肥塚 崇男 ▲前野 慎太郎
国際乾燥地科学	国際乾燥地科学	明石 欣也 猪迫 耕二 遠藤 常嘉 緒方 英彦 黒崎 泰典 清水 克之 坪 充 西原 英治 藤巻 晴行 山田 智 山本 定博 木村 玲二 田川公太郎 恒川 篤史 ①岸井 正浩 Nigussie Haregeweyn Ayehu	安 萍 衣笠 利彦 谷口 武士 兵頭 正浩 石井 孝佳 齊藤 忠臣 佐久間 俊 山崎 由理	一戸 俊義 増永 二之	佐藤 邦明 ▲宋 相憲	荊木 康臣 鈴木 賢士	佐合 悠貴
計		35	24	25	27	16	12
合 計		139					

△は講師、▲は助教、①は JIRCAS(協力機関)所属教員、環は公立鳥取環境大学(協力機関)所属教員を示す。

(2)審議事項等

年 月 日(曜日)	審 議 事 項 等
令和7年8月 22 日(金)	第 94 回研究科委員会(オンライン) ・ 2025 年度(10 月入学)菌類きのご資源利用科学及び持続可能な開発目標に貢献する乾燥地農学特別プログラムの進学者について(協議・追認) ・ 2025 年度(10 月入学)外国人留学生特別入試(渡日前入試)の合格者について ・ 学生異動について(協議・追認) ・ 指導教員等の変更について(協議・追認) ・ 2025 年度予算配分について(協議・追認) ・ 千葉大学所属国費留学生の特別研究学生としての受け入れ終了について(協議・追認) ・ 2025 年度入学者選抜試験(10 月入学)合格者の決定について ・ 学位論文の可否決定について ・ 連合農学研究科教員候補者の選考について ・ 学位論文の全文に代えて要約を公表する申立について ・ 2025 年度入学予定者(10 月入学)に係る指導教員等について ・ 鳥取大学大学院連合農学研究科教員資格審査規則及び鳥取大学大学院連合農学研究科教員資格再審査規則等の改正について ・ 学位申請のための基礎論文の取り扱いについて ・ 令和7年度横断的研究プロジェクトの採択について ・ 科学コミュニケーションⅠの実施について ・ 連合一般ゼミナール(日本語)(農学特論 J)の実施について ・ 各専攻特論の実施について ・ 科学コミュニケーションⅡの実施について ・ 標準修業年限超過学生の取り扱いについて ・ 令和10年4月鳥取大学大学院連合農学研究科改組について ・ 次世代研究者挑戦的プログラム TU-SPRING について ・ 連合農学研究科長特別補佐の新規配置について
令和8年2月 13 日(金)	第 95 回研究科委員会(オンライン) ・ 2026 年度(4 月入学)外国人留学生特別入試(渡日前入試)の合格者について(協議・追認) ・ 学生異動について(協議・追認) ・ 指導教員等の変更について(協議・追認) ・ 令和 8 年度入学者選抜試験(4月入学)合格者の決定について ・ 学位論文の可否決定について ・ 連合農学研究科教員候補者の選考について ・ 学位論文の全文に代えて要約を公表する申立について ・ 令和8年度入学予定者(4月入学)に係る指導教員等について ・ 学生異動について ・ 指導教員等の変更について ・ 鳥取大学大学院連合農学研究科教員資格審査規則の改正について ・ 鳥取大学大学院連合農学研究科候補適任者選考に関する申合せの改正について ・ 学位申請のための基礎論文について ・ 鳥取大学大学院連合農学研究科長特別補佐の配置に関する要項の制定について ・ 令和8年度連合農学研究科予算配分基本方針(案)について ・ 令和10年4月鳥取大学大学院連合農学研究科改組について ・ 次期代議委員会委員及び専攻長の選出について令和8年度連合農学研究科年間スケジュールについて ・ GAN-RENDAI2025 総会並びにラテンアメリカ支部交流会開催報告について ・ 令和7年度科学コミュニケーションⅡの開催報告について ・ 令和7年度後期連合一般ゼミナール(農学特論 E)の開催報告について

2. 代議委員会

(1) 委 員

所属専攻名等	所属連合講座名	氏 名(所属大学)	任 期
研 究 科 長		河野 強(鳥取大学)	令和7年4月1日～令和9年3月31日
副 研 究 科 長		緒方 英彦(鳥取大学)	令和4年10月1日～
生産環境科学	農業生産学	高橋 肇(山口大学)	平成31年4月1日～令和9年3月31日
	経済・経営学	松田 敏信(鳥取大学)	//
	森林・流域環境科学	<u>石井 将幸(島根大学)</u>	//
	環境生物学	山口 啓子(島根大学)	令和5年4月1日～令和9年3月31日
生命資源科学	菌類・きのこ科学	早乙女 梢(鳥取大学)	令和4年4月1日～令和9年3月31日
	生物機能科学	丸田 隆典(島根大学)	令和7年4月1日～令和9年3月31日
	資源利用化学	<u>阿座上 弘行(山口大学)</u>	//
国際乾燥地科学	国際乾燥地科学	<u>黒崎 泰典(鳥取大学)</u>	令和3年4月1日～令和9年3月31日

※下線は専攻長

(2)審議事項等

年 月 日(曜日)	審 議 事 項 等
令和7年4月11日(金)	第454回代議委員会(オンライン会議) ・2025 年度学生募集要項(10 月入学)について ・外国人留学生特別入試(私費外国人留学生)募集要項について ・学位論文受理の可否について ・中間評価会の報告について ・鳥取大学大学院連合農学研究科教員資格審査規則の改正について ・学位申請のための基礎論文について ・千葉大学所属国費留学生の特別研究学生としての受け入れ終了について ・2025 年度農学特論 I (前期連合一般ゼミナール)(日本語)について ・2025 年度各専攻特論講義担当講師について ・教員資格審査用学術雑誌リストへの追加について ・令和 6 年度連合農学研究科「大山会」の決算報告について ・次世代研究者挑戦的研究プログラム(SPRING)の採択者の決定について
令和 7 年5月16 日(金)	第455回代議委員会(オンライン会議) ・国際学会等発表学生への援助について ・教員資格審査委員会委員の選出について ・学位申請のための基礎論文について ・2025 年度予算配分(案)について ・令和7年度前期特別RAについて ・教員資格審査用学術雑誌リストへの追加について ・乾燥地科学エキスパートコースの入試委員の選出について ・令和6年度横断的研究プロジェクト実施報告書について ・学長裁量経費(学長リーダーシップ経費(教育推進経費、設備整備費及び大学改革推進経費)の申請について ・教員資格審査用学術雑誌リストへの追加について ・連合農学研究科改組スケジュールについて
令和7年5月 28 日(水)～ 6月3日(火)	第456回(臨時)代議委員会(メール) ・令和7年度外国人留学生特別入試(博士後期課程)に係る口頭試問 実施方法について
令和7年7月4日(金)	第457回代議委員会(オンライン会議) ・学位論文受理の可否について ・学位論文審査委員会の設置及び委員の決定について ・2025 年度(10 月入学)外国人留学生特別入試(渡日前入試)の合否判定について ・学位申請のための基礎論文について ・指導教員等の変更について ・標準修業年限修了率の改善について ・令和7年度横断的研究プロジェクトについて ・特別研究学生の受け入れについて ・令和7年度標準修業年限超過学生現況報告書について ・2025 年度各専攻特論について ・学長裁量経費の採択結果について ・改組に関する文部科学省事前相談について
令和7年8月22日(金)	第458 回代議委員会(オンライン会議) ・2025 年度(10 月入学)入学者選抜試験の合否判定について ・2025 年度入学予定者(10 月入学)に係る指導教員等について ・2026 年度菌類きのご資源利用科学特別プログラム学生募集要項及び

	選考方法について ・2026 年度持続可能な開発目標に貢献する乾燥地農学特別プログラム学生募集要項及び選考方法について ・鳥取大学大学院連合農学研究科教員資格審査規則及び鳥取大学大学院連合農学研究科教員資格再審査規則等の改正について ・教員資格審査における業績 C・D の取り扱いについて ・学位申請のための基礎論文について ・標準修業年限超過学生の取り扱いについて ・連合農学研究科長特別補佐の新規配置について ・2025 年度教員資格審査日程(後期)について ・学長裁量経費の採択結果について ・教員資格審査用学術雑誌リストへの追加について ・特別研究学生の辞退について
令和7年10月3日(金)	第459 回(臨時)代議委員会(メール) ・学生異動について ・指導教員等の変更について ・学位論文受理の可否について ・2026 年度学生募集要項(案)について ・エンカレッジ・ファンド受給者(社会人学生)の推薦について ・連合農学研究科長選挙にかかる規則改正について ・鳥取大学大学院連合農学研究科長特別補佐の配置に関する要項の制定について ・教員資格審査における記入・作成要領、別紙様式第1号及び別紙様式第3号の変更について ・学位申請のための基礎論文について ・標準修業年限超過学生の取り扱いについて ・連合農学研究科改組後の専攻名について ・令和7年度後期連合一般ゼミナールの開催について ・教員資格審査用雑誌リストへの追加について
令和7年11月7日(金)	第460回代議委員会(オンライン会議) ・指導教員等の変更について ・2026年度4月入学外国人留学生特別入試(博士後期課程)に係る ・口頭試問実施方法について ・連合農学研究科長選挙にかかる規則改正について ・学位申請のための基礎論文について ・標準修業年限超過学生の取り扱いについて ・令和7年度後期特別RAの決定について ・鳥取大学大学院連合農学研究科教員資格審査規則の改正について ・雑誌リストの追加について ・教員資格再審査の結果について ・令和7年度第2回全国連合農学研究科協議会の開催報告について ・教員資格審査用雑誌リストへの追加について ・令和7年度科学コミュニケーションⅡの開催報告について
令和7年12月5日(金)	第461回代議委員会(オンライン会議) ・2026年度4月入学外国人留学生特別入試(博士後期課程)に係る ・口頭試問実施方法について ・2026年度入試出願資格認定審査について ・2026年度4月入学外国人留学生特別入試(渡日前入試)の合否判定について ・令和7年度後期教員資格審査委員の選出について

	・連合農学研究科長選挙にかかる規則改正について ・学位申請のための基礎論文について ・標準修業年限超過学生の取り扱いについて ・2026年度菌類きのご資源利用科学特別プログラム(博士後期課程)及び持続可能な開発目標に貢献する乾燥地農学特別プログラム(博士後期課程)進学者について ・2026年度持続可能な開発目標に貢献する乾燥地農学特別プログラム・編入学生(国費外国人留学生)募集要項について ・鳥取大学大学院連合農学研究科長特別補佐の配置について ・令和7年度農学特論E(連合一般ゼミナール(英語))の開催報告について
令和7年度12月16日(火)～18日(木)	第462回(臨時)代議委員会(メール) ・2026年度4月入学外国人留学生特別入試(渡日前入試)の合否判定について
令和8年1月9日(金)	第463回代議委員会(オンライン) ・学位論文受理の可否について ・学位論文審査委員会の設置及び委員の選出について ・日本学生支援機構 令和7年度進学の大学院博士課程第一種奨学生に係る採用時返還免除内定候補者の推薦について ・令和8年度予算配分方針(案)について ・令和8年度(2026年度)年間スケジュール(案)について
令和8年2月13日(金)	第464回代議委員会(オンライン) ・令和8年度入学者選抜試験合格判定について ・2026年度10月入学持続可能な開発目標に貢献する乾燥地農学特別プログラム(博士後期課程)編入学生(国費外国人留学生)合格判定について ・令和8年度学業優秀による入学科免除候補者の推薦について ・2026年度10月入学外国人特別入試(渡日前入試)に係る口頭試問実施方法について ・国費外国人留学生(SATREPS 枠)の推薦について ・学位論文申請書類及び手引きの改訂について ・鳥取大学大学院連合農学研究科教員資格審査規則の改正について ・学生異動について ・令和8年度横断的研究プロジェクト募集要領について ・次期代議委員会委員及び専攻長の選出について ・第95回研究科委員会への提出議題について ・科学研究業績表彰の推薦手順、手続きについての覚書」締結について
令和8年3月9日(月)	第465回代議委員会(オンライン) ・日本学生支援機構大学院第一種奨学生 令和8年度特に優れた業績による返還免除候補者の推薦について ・2026年度(10月入学)外国人留学生特別入試合否判定について ・学生異動について ・長期履修申請について ・TU-SPRING 学生の推薦者選考要項について ・令和8年度国際学会・国際研究集会発表学生援助(第1次募集)について ・令和8年度履修案内(教育課程表及びシラバス)の確認について ・TA・RA・特別 RA 取扱い要領の改訂について ・研究科長特別補佐について ・2025年度成績分布表について ・中間評価会の実施について

第3章 令和7年度 連合農学研究科教員

1. 有資格教員(教授・准教授・講師・助教)一覧

令和8年3月1日付名簿

専攻	連合講座	鳥 取 大 学					島 根 大 学					山 口 大 学					
		○合		合		助 教	○合		合		助 教	○合		合		助 教	
教 授	准教授	教 授	准教授	教 授	准教授		教 授	准教授	教 授	准教授		教 授	准教授	教 授	准教授		教 授
生産環境科学	1. 農業生産学	野波 和好 田中 裕之 主①	竹村 圭弘 主 ②		◆ 角野 貴信(環) 近藤 謙介		小林 伸雄 主 ② 鶴永 陽子 主①② 松本 真悟 主 ② 松本 敏一 主	中務 明 ①	江角 智也 ②	池浦 博美 ② 氏家 和広 ② 門脇 正行 小林 和広 田中 秀幸	城 惣吉 ①②		荒木 英樹 ② ○ 高橋 肇 ②		兼 執行 正義 ②	兼 金 貞希	
	2. 経済・経営学	筒井 一伸 万 里 主 ② ○ 松田 敏信 松村 一善 主①② 安延 久美	Asres Elias Baysa 主① 木原奈穂子 ①		△ 遠山 裕基			保永 展利 主①②		中間由紀子							
	3. 森林・流域環境科学	永松 大 主 ② 岩崎 亘典	藤本 高明	芳賀 弘和	◆ 加藤 禎久(環) 山中 啓介 ② △ 岩永 史子 △ 菅森 義晃		専○石井 将幸 ② 吉村 哲彦 主①	久保満佐子 主 ②	兼 桑原 智之	高橋絵里奈 ① 山下 多聞 ① 米 康充 ① 上野 和広							萩原 大生
	4. 環境生物学	唐澤 重考 主① 上中 弘典 主	中 秀司 主①		大崎久美子 木戸 一孝 太田 太郎(環)		荒西 太士 主 ② ※ 上野 誠 主 ① 木原 淳一 主 ② ○ 山口 啓子			泉 洋平 ② 堀之内正博	清水 加耶 林 昌平	竹松 葉子 主 ②	細井 栄嗣		佐々木 一紀 柳 由貴子 ①		北沢 優悟
小 計		11 (7)	5 (4)	1 (0)	10 (1)	0 (0)	11 (10)	3 (3)	2 (1)	12 (5)	3 (1)	3 (3)	1 (0)	1 (1)	3 (1)	2 (0)	
生命資源科学	5. 菌類・きのこ科学	會見 忠則 主① 霜村 典宏 主① ○ 早乙女 梢 ①															
	6. 生物機能科学	有馬 二朗 主	◆ 岩崎 崇 ① 山本 敦史(環)	岡 真理子		石川 孝博 ①② 塩月 孝博 主 ② ○ 丸田 隆典 主 ② 松尾 安浩 古水 千尋		兼 中川 強 兼 吉田 真明	小川 貴央 戒能 智宏 ① 兼 蜂谷 卓士 ①				兼 薬師 寿治 兼 今村 博臣 兼 高坂 智之	兼 片岡 尚也 兼 湯山 育子		兼 佐藤 悠	
	7. 資源利用	石原 亨 主①② 一柳 剛 主①② ★ 河野 強 主 田村 純一 主① 藪田 行哲 ①②	美藤 友博 主①②		上野 琴巳 ①	清水 英寿 主①② 室田佳恵子 主 山本 達之 主 吉清 恵介 ②	地阪 光生 ② Hemanth Nag Noothalapati ① Venkata		西村 浩二 ① 兼△石垣 美歌		専○阿座上弘行 ②	肥塚 崇男 ②	兼 赤壁 善彦 ② 兼 井内 良仁 兼 小崎 紳一 兼 木股 洋子 兼 松井 健二 兼 宮田 浩文			前野 慎太郎 ②	
	小 計	9 (8)	3 (3)	1 (0)	1 (1)	0 (0)	9 (8)	2 (2)	2 (0)	5 (3)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	9 (1)	2 (0)	2 (1)	
国際乾燥地科学	8. 国際乾燥地科学	※ 明石 欣也 主①② 猪迫 耕二 主① 遠藤 常嘉 ① ☆ 緒方 英彦 主① ◆ 岸井 正浩(J) ① 専○黒崎 泰典 清水 克之 主 垣川 麗史 主① 坪 充 ① 西原 英治 主 藤巻 晴行 主 山田 智 主① 山本 定博 Nigussie Haregeweyn 主① AYEHU 田川公太郎 木村 玲二 ② Fenta Ayele Almaw	安 洋 ① 石井 孝佳 主① 衣笠 利彦 谷口 武士 主① 兵頭 正浩 主① 佐久間 俊 ①		齊藤 忠臣 ① ◆ 林 慶一(J) 山崎 由理 ① Mohamed Mutasim Eltayeb Elebeid 井芹 慶彦	一戸 俊義 ② 増永 二之 ②			佐藤 邦明 ② 劉 佳啓	宋 相憲	※ 荊木 康臣 主①② 鈴木 賢士 主①②		兼 佐合 悠貴				
	小 計	17 (13) 37 (28)	6 (5) 14 (12)	0 (0) 2 (0)	5 (2) 16 (4)	0 (0) 0	2 (2) 22 (20)	0 (0) 5 (5)	0 (0) 4 (1)	2 (1) 19 (9)	1 (0) 4 (1)	2 (2) 6 (6)	0 (0) 2 (1)	0 (0) 10 (2)	1 (0) 6 (1)	0 (0) 4 (0)	
	合 計		69 (44)					54 (36) 151 (90)					28 (10)				
	総 計																

(注)★＝研究科長，☆＝副研究科長，○＝代議委員，専＝専攻長，※＝学部長，△＝講師，主＝主指導教員，①＝第一副指導教員，②＝第二副指導教員，◆＝協力機関(J)=JIRCAS)，(環)=鳥取環境大学)，兼＝兼任教員，()内数＝発令教員数 イタリック体＝資格喪失者

2 担当教員を補助する教員(助教)一覧

令和8年2月1日現在

専 攻	連 合 講 座	鳥 取 大 学	島 根 大 学	山 口 大 学
生産環境科学	農業生産学		李 治 足立 文彦	
	経済・経営学		Rosalia Natalia Seleky	
	森林・流域環境科学			
	環境生物学			
生命資源科学	菌類・きのこ科学	尾崎 佑磨 Kaeoniwong Nanthawan		
	生物機能科学			
	資源利用化学			
国際乾燥地科学	国際乾燥地科学			
生物生産科学*	農業生産学			
	森林資源学			
	経済・経営学			
生物環境科学*	生産環境工学			
	環境科学			
計		2人	3人	0人
合 計		5人		

*…平成29年度以前入学生

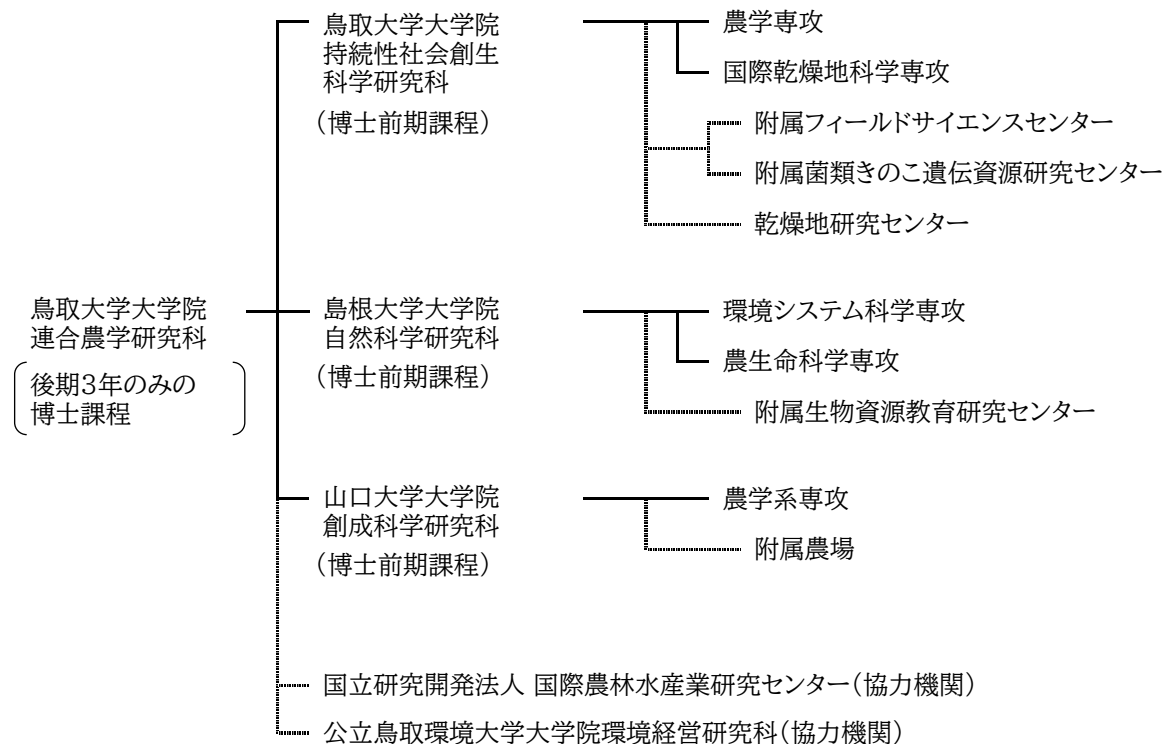
第4章 そ の 他

1. 組 織

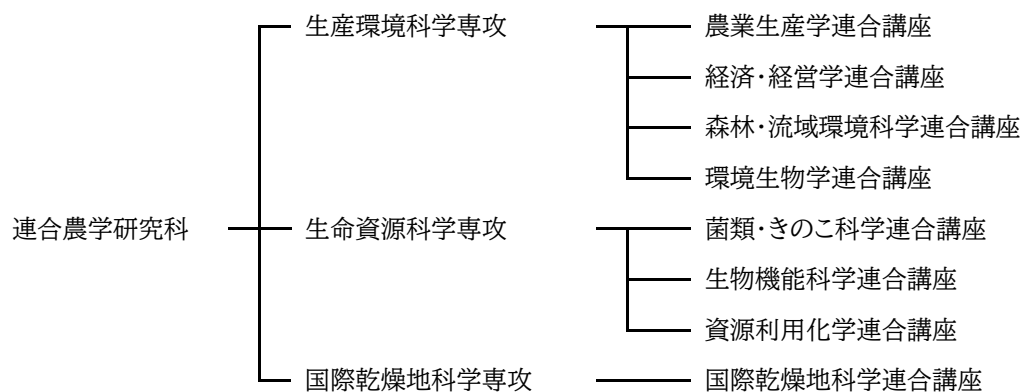
本連合農学研究科は、鳥取大学大学院持続性社会創生科学研究、島根大学大学院自然科学研究科及び山口大学大学院創成科学研究科の博士前期課程の講座と附属施設を母体として編成されている。

各大学の研究科と密接な連携協力のもとに運営されているが、それぞれの研究科とは別の独立した研究科である。

連合農学研究科の母体組織



本研究科には、生産環境科学、生命資源科学、国際乾燥地科学の3専攻の下に8連合講座を置いている。



2. 予 算 規 模

(千円)

事 項	配 分 額	内 訳		
		鳥取大学	島根大学	山口大学
当初予算配分	94,032	55,969	26,792	11,271
ティーチング・アシスタント 経費	9,938	2,874	6,673	391
リサーチ・アシスタント 経費	10,478	4,089	6,389	0

3. 令和7年度(2025年度)連合農学研究科年間スケジュール

月 日	会 議 名 等	主 な 協 議 事 項 等
25. 4. 11(金)	入学式、オリエンテーション	入学式、オリエンテーション
〃	代議委員会(対面:鳥取)	教員資格審査日程について、学生募集要項(後期入学)について
5. 16(金)	代議委員会(対面:山口)	教員資格審査委員について、特別プログラム(私費)の選考について、 予算配分(案)について
5. 21(水)	科学コミュニケーションⅠ	(5/23まで)……(対面(鳥取))
5. 30(金)	教員候補者推薦委員会(協力機関) (オンライン)	
6. 3(火)	学位論文審査申請受付	前期修了予定者(6/10まで)
6. 5(木)	学生募集要項発表	後期入学
6. 18(水)	農学特論J	日本語による講義(6/20まで)(当番校 東京農工大学)
6. 16(月)	出願資格認定申請受付	後期入学(6/20まで)
6. 26(木)	学位論文審査委員の推薦締切	併せて学位論文公開審査会開催日時・場所の報告
7. 4(金)	代議委員会(オンライン)	出願資格認定審査について(後期入学)、学位論文受理の可否について、 学位論文審査委員会の設置及び委員の決定について
〃	教員資格審査委員会(オンライン)	
7. 11(金)	学位論文公開審査会日程公表	
7. 15(火)	入学願書受付	後期入学(7/18まで)
7. 18(金)	学位論文公開審査会開始	(8/4まで)※縦覧期間は8/21まで
7. 23(水)	各専攻特論	(7/30まで)
8. 6(水)	入試委員会(オンライン)	入学者選抜試験(後期入学)の実施について
8. 20(水)	入学者選抜試験	後期入学(8/21まで)
8. 22(金)	代議委員会(オンライン)	10:00～入学者選抜試験合否判定(後期入学)について、教員資格審査日程につい て
〃	第94回研究科委員会(オンライン)	14:00～合格者の決定(後期入学)、学位論文の合否判定、教員資格者の選考
8. 29(金)	合格者発表	15:00(後期入学)
9. 5(金)	学位論文提出締切	製本及び全文のPDFを提出
9. 12(金)	学位記授与式(予定)	学位記授与式、(祝賀会)
10. 3(金)	入学式(後期入学)(予定)	入学式、オリエンテーション
〃	代議委員会(対面:鳥取)	学生募集要項について
〃	教員資格再審査委員会(対面:鳥取)	
10. 8(水)	科学コミュニケーションⅡ	(10/10まで)……(対面(島根))
11. 4(火)	学生募集要項発表	
11. 7(金)	代議委員会(オンライン)	
11. 19(水)	農学特論E	英語による講義(11/21まで)(当番校 鳥取大学)
11. 25(火)	出願資格認定申請受付	(11/28まで)
12. 3(水)	学位論文審査申請受付	(12/10まで)
12. 5(金)	代議委員会(対面:島根)	教員資格審査委員について、出願資格認定審査について、次年度行事予定につい て、持続可能な開発目標に貢献する乾燥地農学特別プログラム(国費)進学者の選 考について(仮)
〃	教員候補者推薦委員会(協力機関) (対面:島根)	
12. 23(火)	学位論文審査委員の推薦締切	併せて学位論文公開審査会開催日時・場所の報告
26. 1. 6(火)	入学願書受付	(1/9まで)
1. 9(金)	代議委員会(オンライン)	学位論文受理の可否について、学位論文審査委員会の設置及び委員の決定について
〃	教員資格審査委員会(オンライン)	
1. 16(金)	学位論文公開審査会日程公表	(2/2まで)※縦覧期間は2/12まで
1. 21(水)	学位論文公開審査会開始	13:30～入学者選抜試験の実施について
1. 23(金)	入試委員会(オンライン)	(2/12まで)
2. 10(火)	入学者選抜試験	10:00～入学者選抜試験合否判定について、指導教員の選定・変更について
2. 13(金)	代議委員会(オンライン)	14:00～学位論文の合否判定、合格者の決定、教員資格者の選考
〃	第95回研究科委員会(オンライン)	15:00
2. 24(火)	合格者発表	製本及び全文のPDFを提出
3. 2(月)	学位論文提出締切	学位記授与式、(祝賀会)
3. 9(月)	学位記授与式(予定)	入学式について、指導教員等の変更について、学生の異動について
〃	代議委員会(オンライン)	

※令和7年度全国連合農学研究科協議会 第1回:東京農工大学 @一橋講堂(6月2日(月), 3日(火))

第2回:岩手大学, @岩手市内(10月23日(木))

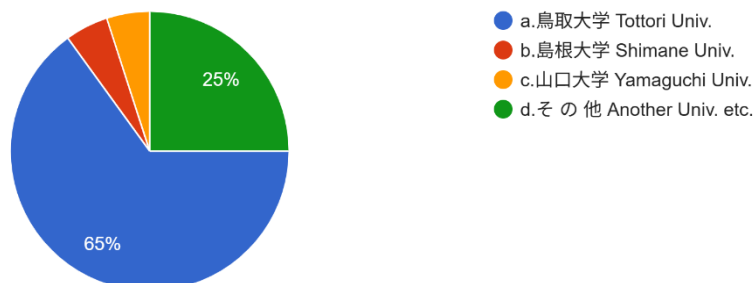
第4部 在学生へのアンケート

1. R7 年度前期アンケート（アンケート実施日:R7.5.26）

① あなた自身についてお答え下さい。

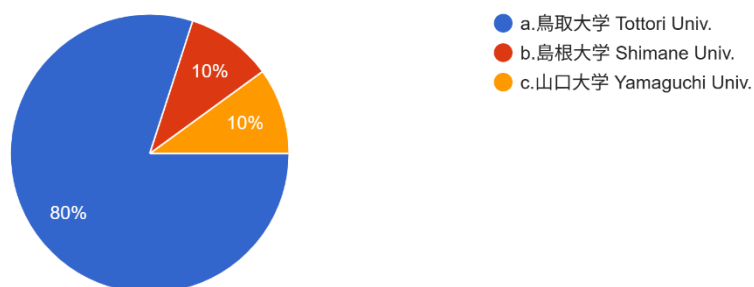
(1)修士課程の出身大学は？ Which university were you from for your master's course?

20 件の回答



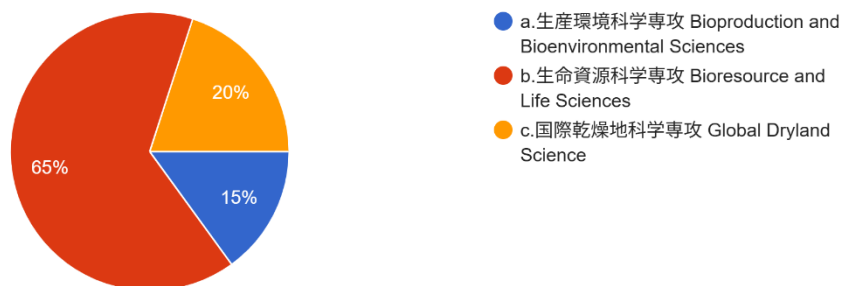
(2)現在の配属大学は？ Which university do you belong to?

20 件の回答



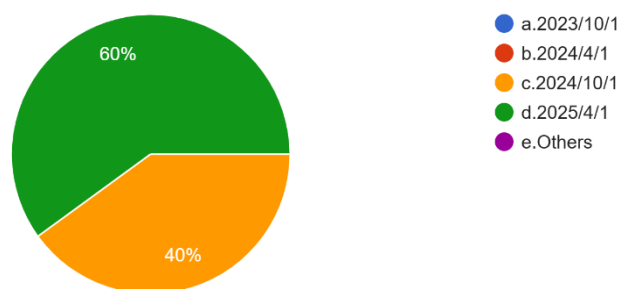
(3)専攻は？ Which course are you in?

20 件の回答



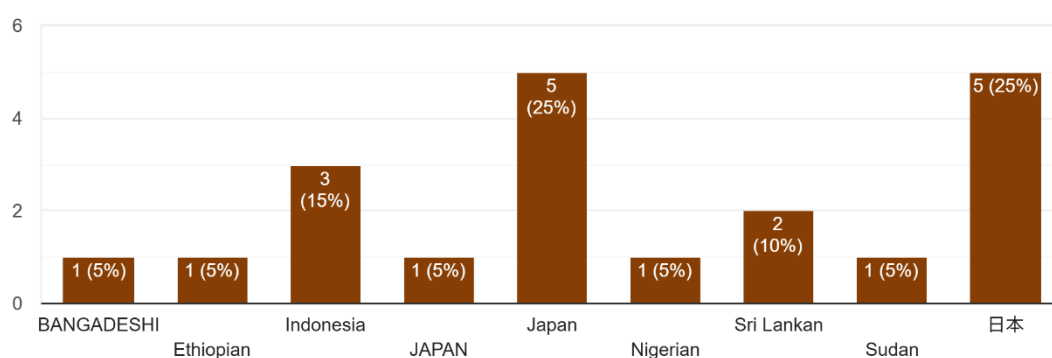
(4)入学年月 Year and month of entrance

20 件の回答



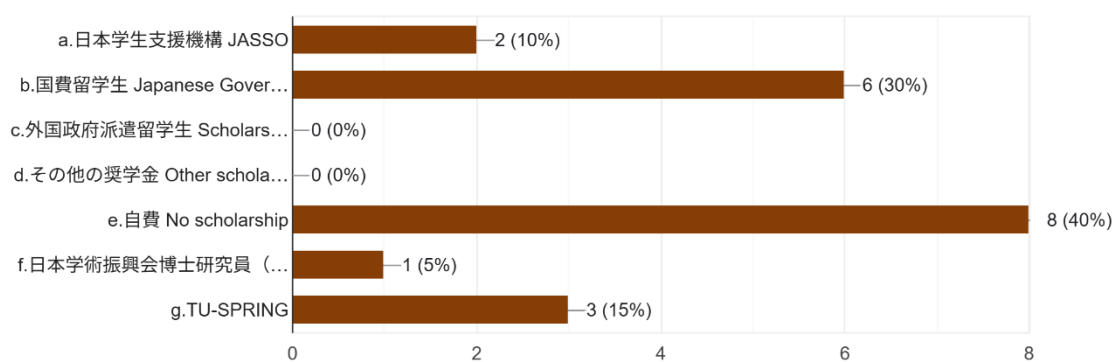
(5)国籍 Nationality

20 件の回答



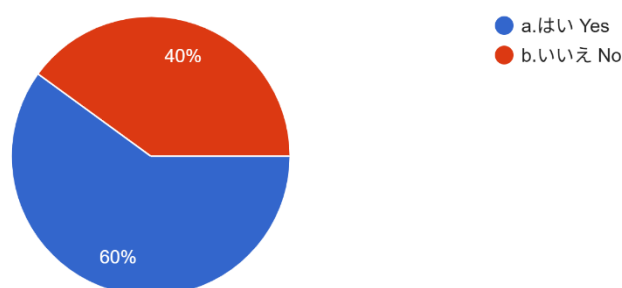
(6)奨学金受給状況 What kind of scholarship did you get?

20 件の回答



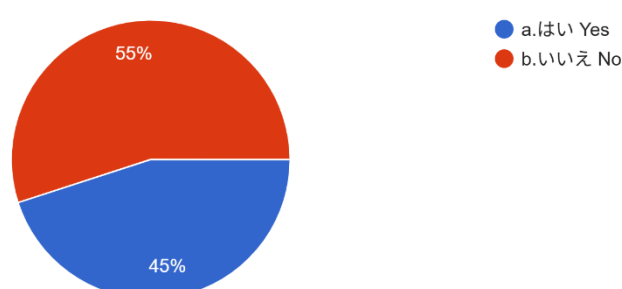
(7)ティーチングアシスタント(TA)の雇用状況 Are you a teaching assistant (TA)?

20 件の回答



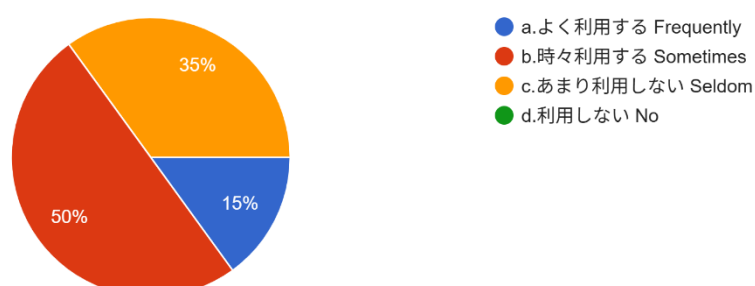
(8)リサーチアシスタント(RA)の雇用状況 Are you a research assistant (RA)?

20 件の回答



(9)連大ホームページ利用状況 (<http://rendai.muses.tottori-u.ac.jp>) How often you refer to the homepage (Web-page) of UGSAS?

20 件の回答



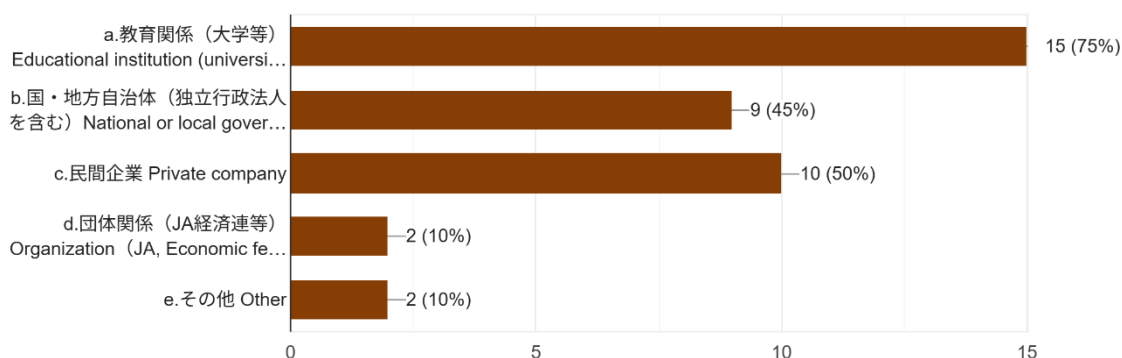
(10)連大ホームページには、どのような情報があればいいと思いますか？

- UGSAS alumni and research database
- The content I think is good enough, but sometimes the user interface is complicated.
- Academic events held by UGSAS and rules and Guidances for student's life
- Generally, I think the UGSAS web page has a lot of information to promotes learning, collaboration among students and alumina and getting the right information. which is good. To add to this good features, if information on the hope pages could be updated more often, it would be a good way for students to get more updated information from the Rendai web page. Also, adding information about job opportunities related to research and development and research positions for new graduates who intend to advance their career research could be helpful.
- Previous research paper link
- Course schedule, alumni information, events opportunities
- I guess the page had enough information for me.
- All information about UGSAS activities

② あなたの将来の志望についてお尋ねします

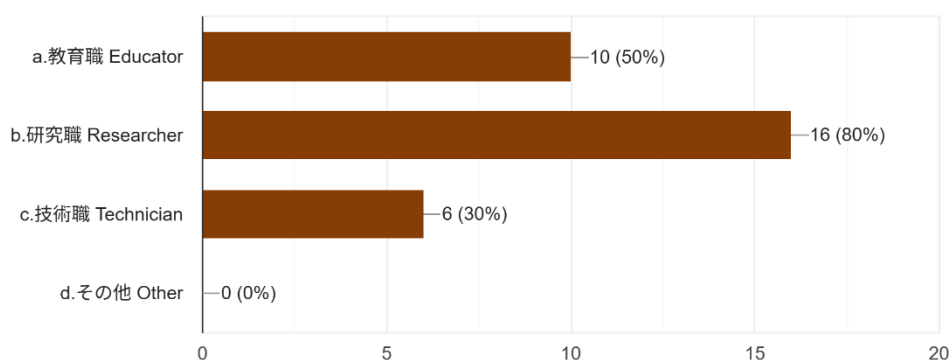
(1)希望する職種は？ Where would you like to work for?

20 件の回答



(3)希望する職務内容は？ What kind of job would you like to do?

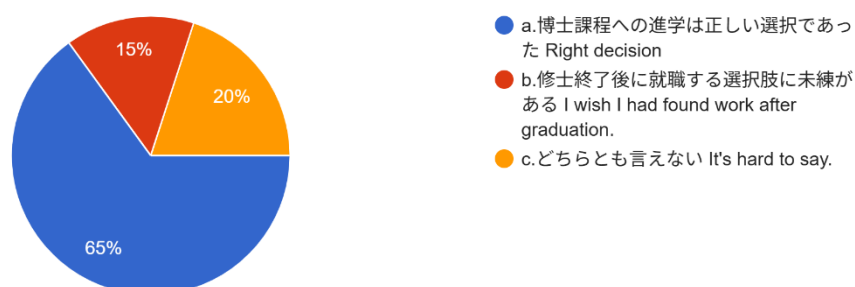
20 件の回答



③ 鳥取連大の研究指導・教育についてお尋ねします

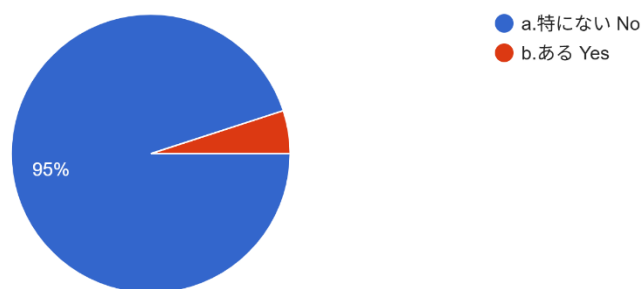
(1)第一印象として今の素直な気持ちを選択してください。Please choose your simple impression.

20 件の回答



(2)科目履修の手続き(履修計画届の作成)について何か不都合はありませんでしたか。Are there any inconveniences regarding the subject registration process(Registration card)?

20 件の回答

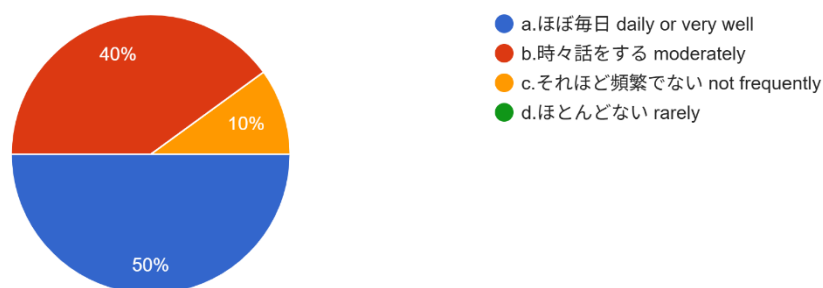


(3) 問い(2)で「ある」と答えた方は具体的に記述下さい

Mismatch of subject names in online platform (English version)

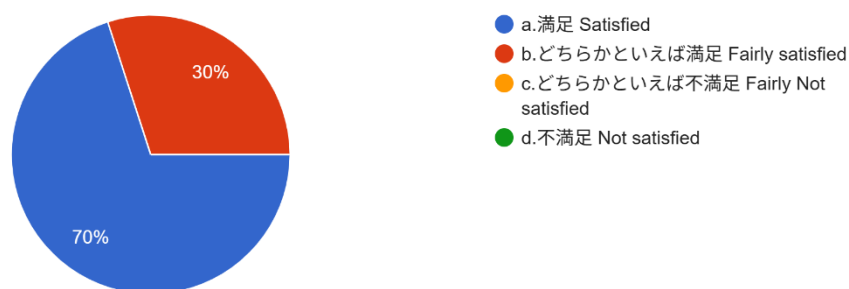
(4)主指導教員との意思の疎通は日常的にできていますか（第一印象としてお答えください）？ Are you communicating constantly with your superviso...xchange)? Please choose your simple impression.

20 件の回答



(5)主指導教員の指導に満足ですか？ Are you satisfied with your major supervisor's skill of teaching?

20 件の回答



(6) なぜ質問(5)の答を選びましたか？

- ・ My supervisor is very kind and supportive in both teaching and research activities
- ・ これまでも多くの経験をさせていただき、そのたびに必要な指導を受けてきたため。博士後期課程では、さらに多くの機会をいただいております成長できる環境だと感じています。また、日常的に会話をしている方なので相談しやすく、研究室内の雰囲気も良いのでとても良いので満足しています。
- ・ 不満な点が見当たらないから
- ・ Because his teaching skill is make the student actively participate.
- ・ 研究から日常生活に至るまで話しやすい雰囲気があるから。
- ・ 自由に実験をさせてもらっている。相談にも乗ってくださる。

- For me, my major supervisor does a great job when it comes to maintaining balance with supporting and letting his student make their own independent decisions in their research. My supervisor also creates a good working-social-life balance between individuals and members of my research group, where we can communicate with each other, collaborate and make discussions around research and outside research. This kind of environment has been very helpful in fostering a positive working space for me.
- 良好な関係にあるため。
- My supervisor's guidance and instruction are excellent since he is a true expert in his field.
- コアタイムが無く、実験時間がずれると対面することが極端に減るため。
- 熱心にご指導いただいているため。

(7) 主指導教員へお願いしたいことがあれば記入してください

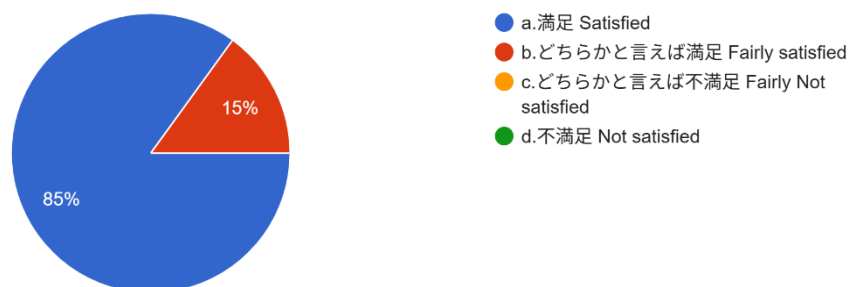
- とても手厚くサポートしていただいているので、フォームに記入することは特にありません。
- I do not have a request from my supervisor. I would only want to appreciate His kindness and the efforts that he puts in managing our research group in a way that feels like we are a family, yet still encouraging our growth and advancement in our research.
- No further request.
- I do not have one at the moment.
- My major supervisor has helped me a lot with all the arrangements related to academic work and the settling process in Japan, as I am an international student. I would like to sincerely thank him for his support.

(8) 全般的な教員の指導で改善してほしい点があれば、自由に記入して下さい。

- So far, the guidance has been excellent and very supportive.
- 特にありません。
- understand both the subject matter and the gaps of students to guide them in bridging those gaps
- None
- So far, it is already good.
- I am satisfied with his guidance and supervision.
- Since it is important to share the ideas and strategies used by different research groups in various universities, enhancing activities among UGSAS students will be beneficial. Therefore, in addition to coursework (Academic Communication Science 1/11), arranging opportunities for face-to-face interactions among UGSAS students, promoting teamwork, and sharing professors' past experiences will boost morale and strategic thinking among current students

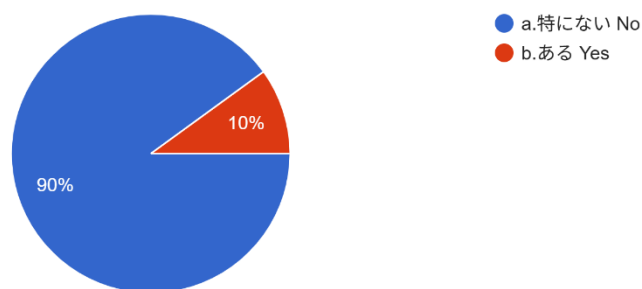
(9)現在の研究環境に満足していますか？ Are you satisfied with your research environment?

20 件の回答



(10)研究環境の改善すべきところがありますか？ Do you have any suggestions for improvement of the research environment?

20 件の回答

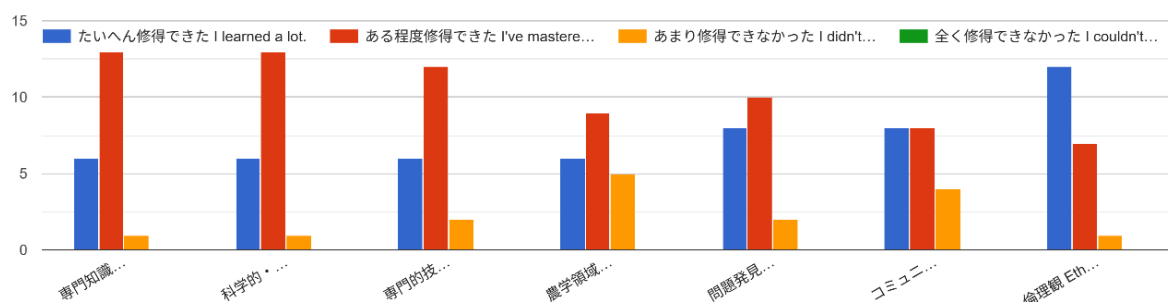


(11) 問い(10)で「ある」と答えた方は具体的に記述下さい

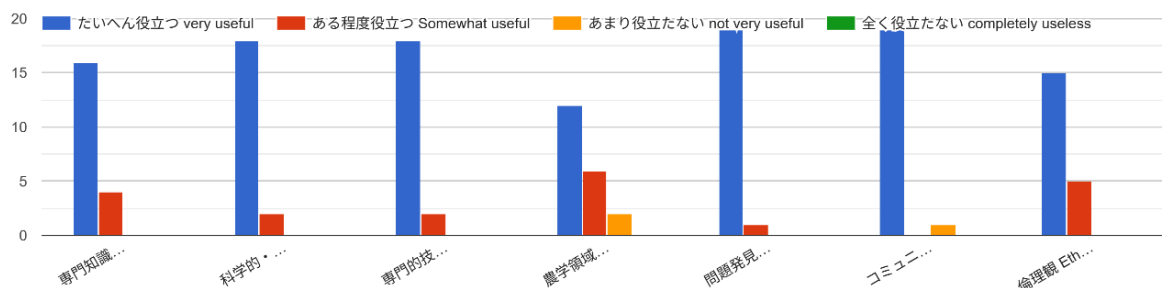
It's a good environment. More collaboration or resources could enhance it further. laboratory visit to explore other lab equipment could help open up collaboration opportunities and improve research outcomes

④ あなたの現在の DF 能力の状況についてお尋ねします

(1)あなたは連大での研究や専門教育を通じて、以下のDP能力はどの程度修得できたと思いますか？ To what extent do you think you were able to acquire the following DP competencies through your research and specialized education at RENDAI?



(2)今後のあなたに、以下のDP能力はどの程度役立ちますか？ To what extent will the following DP competencies be useful to you in the future?



⑤ 連合大学院の発展や後輩のために、ご要望やご意見をお聞かせ下さい

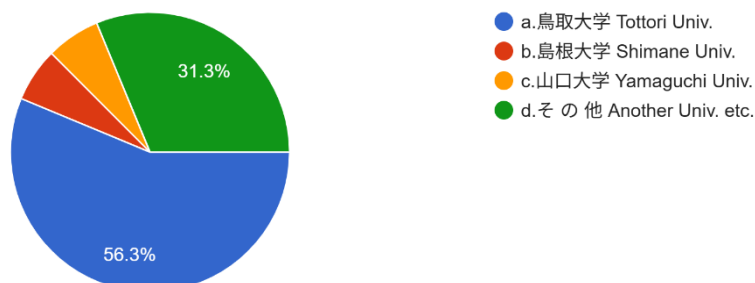
- ・ I just want to express my sincere thanks to all the UGSAS staff who have been very helpful
- ・ 農学特論でレポートを 8 枚提出するのは多すぎます。化学者が市場・流通に関するレポートを書かないといけない状態です。他の研究分野を学べて、新しい閃きを得る機会と言われればそうですが、可能性が低いです。受講数は 8 講でも、レポートは 2 枚ほどにして欲しいです。ご検討をよろしくお願いします。
- ・ 科学コミュニケーション I は大変満足度の高い講義でした。英語を実際に話す機会を強制的に与えてくださったことで、見て見ぬふりをしてた自分の英語力の低さを改めて認識するとともに、英語能力の必要性・重要性を痛感しました。3 日間の講義はあっという間で、最終日には英語を話すことに抵抗がなくなっていたことに驚きました。実際に話して伝えることができる英語力の習得を目指し、動き出したいと思います。初日から最終日まで楽しみながら受講することができました。ありがとうございました。

2.R7年度後期アンケート（アンケート実施日:R7.10.14）

① あなた自身についてお答え下さい

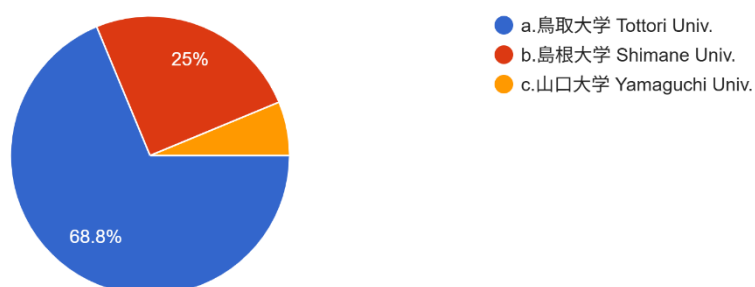
(1)修士課程の出身大学は？ Which university were you from for your master's course?

16 件の回答



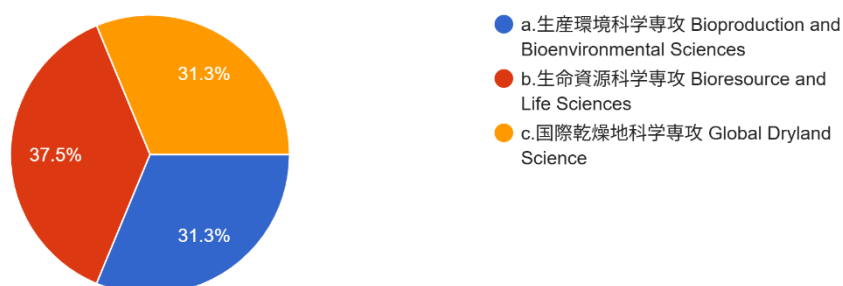
(2)現在の配属大学は？ Which university do you belong to?

16 件の回答



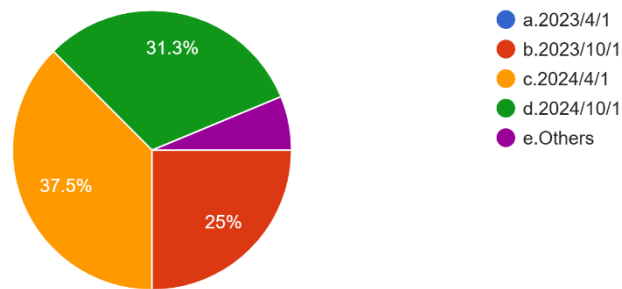
(3)専攻は？ Which course are you in?

16 件の回答



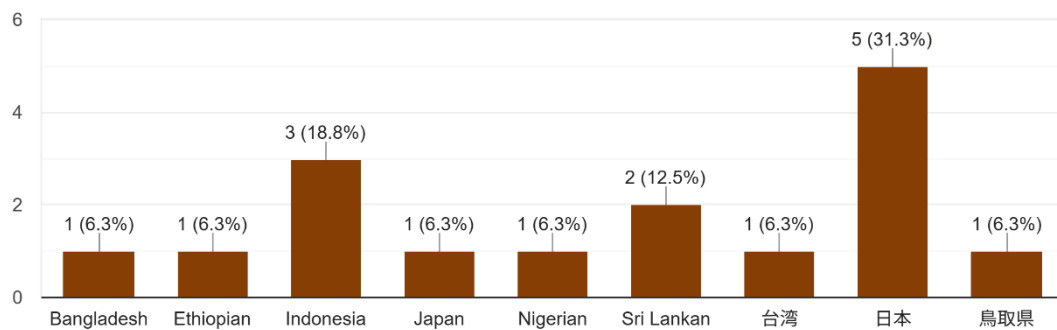
(4)入学年月 Year and month of entrance

16 件の回答



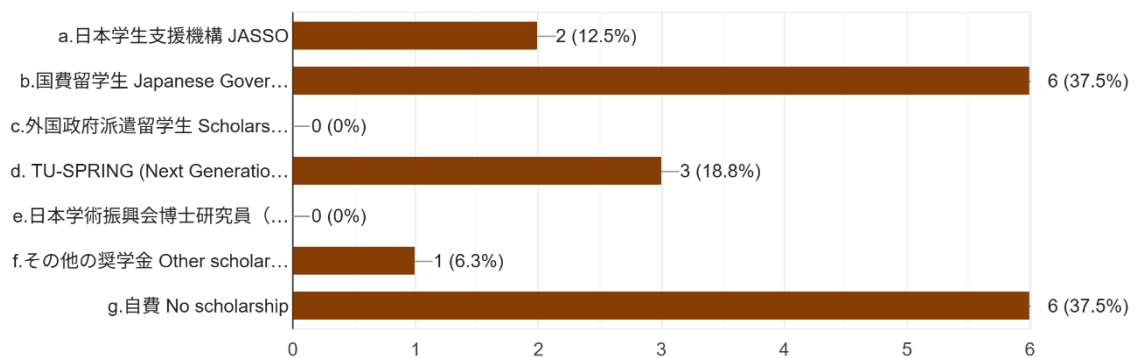
(5)国籍 Nationality

16 件の回答



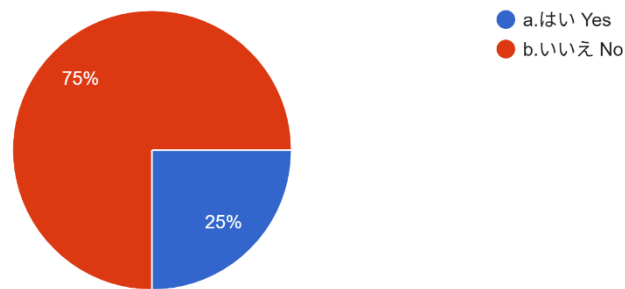
(6)奨学金受給状況 What kind of scholarship did you get?

16 件の回答



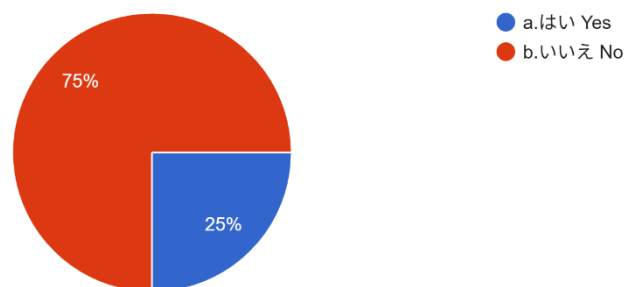
(7)ティーチングアシスタント(TA)の雇用状況 Are you a teaching assistant (TA)?

16 件の回答



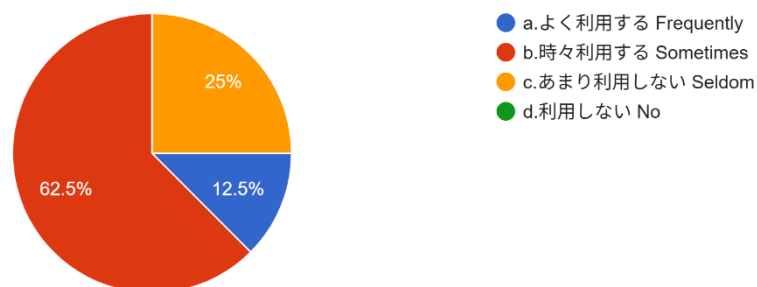
(8)リサーチアシスタント(RA)の雇用状況 Are you a research assistant (RA)?

16 件の回答



(9)連大ホームページ利用状況 (<http://rendai.muses.tottori-u.ac.jp>) How often you refer to the homepage (Web-page) of UGSAS?

16 件の回答



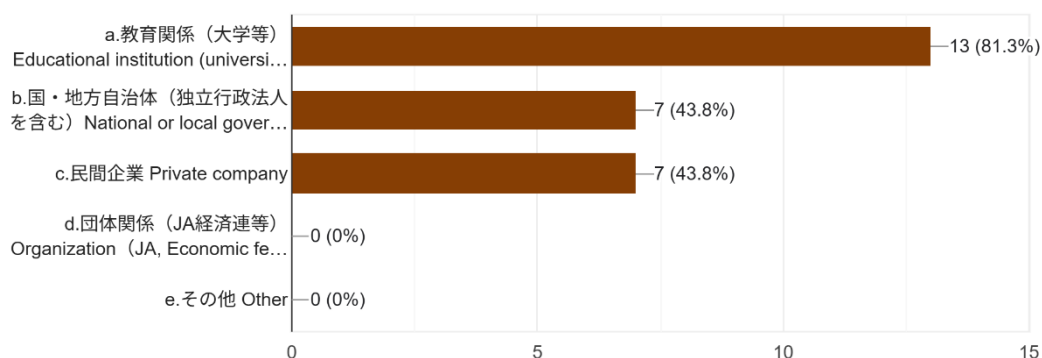
(10)連大ホームページには、どのような情報があればいいと思いますか？

- New events and regulations
- I think, the required information is already in the website
- I would suggest that the UGSAS website include more content in the Alumni section, such as job openings or other relevant information that could benefit graduates

② あなたの将来の志望についてお尋ねします

(1)希望する職種は？ Where would you like to work for?

16 件の回答

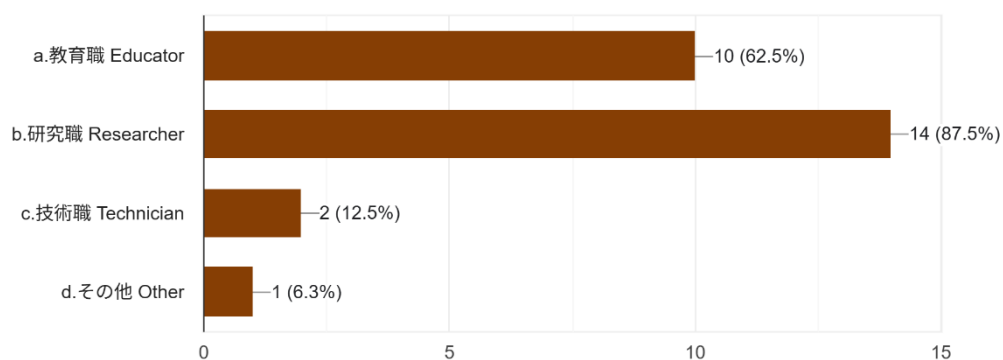


(2) 問い(1)で e と答えた方は具体的に記述下さい

- なし

(3)希望する職務内容は？ What kind of job would you like to do?

16 件の回答



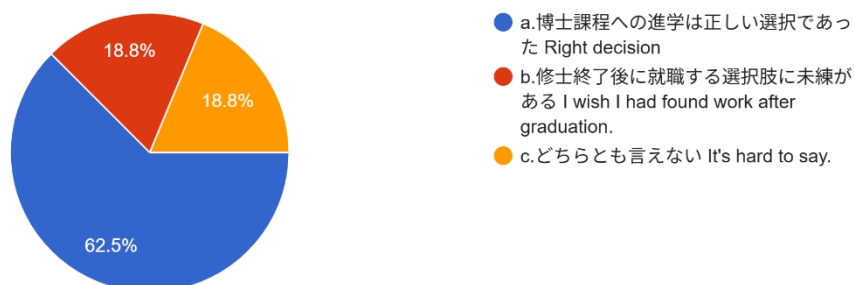
(4) 問い(3)で d と答えた方は具体的に記述下さい

- Global Technical Marketer

③ 鳥取連大の研究指導・教育についてお尋ねします

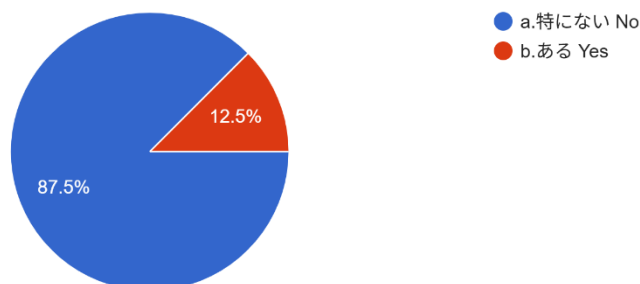
(1)第一印象として今の素直な気持ちを選択してください。Please choose your simple impression.

16 件の回答



(2)科目履修の手続き(履修計画届の作成)について何か不都合はありませんでしたか。Are there any inconveniences regarding the subject registration process(Registration card)?

16 件の回答

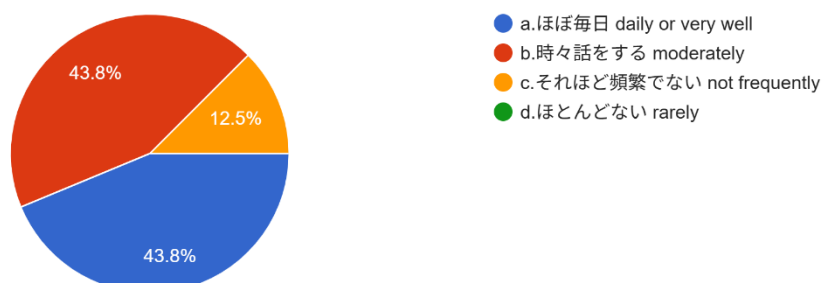


(3) 問い(2)で「ある」と答えた方は具体的に記述下さい

- ・ User interface can improve. [Some subjects need correct English translation]

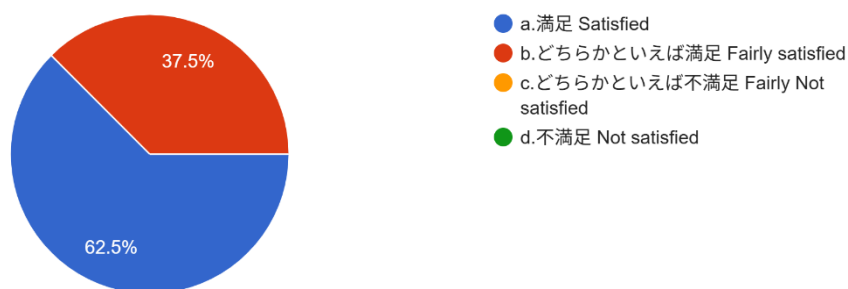
(4)主指導教員との意思の疎通は日常的にできていますか（第一印象としてお答えください）？Are you communicating constantly with your superviso...xchange)? Please choose your simple impression.

16 件の回答



(5) 主指導教員の指導に満足ですか？ Are you satisfied with your major supervisor's skill of teaching?

16 件の回答



(6) なぜ質問(5)の答を選びましたか？

- ・ 十分にコミュニケーションをとれる環境であるため。
- ・ 忙しい中、熱心に指導いただいている。
- ・ 学術的な考え方や、解析手法について相談しても、明確な回答が返ってこないこともあるため。
- ・ 連絡に対してすぐに対応してくれ、ありがたい。
- ・ I think he has a good knowledge on the subject
- ・ He give me the guidance about research, publication, and presentation
- ・ Because I communicate well with my supervisor
- ・ 先生の専門内容外であっても、個人の気になる事象を探求することに異を唱えない点。
- ・ My major supervisor is very much concern about me and always take care of me including research, academic and even my daily life in Japan.

(7) 主指導教員へお願いしたいことがあれば記入してください

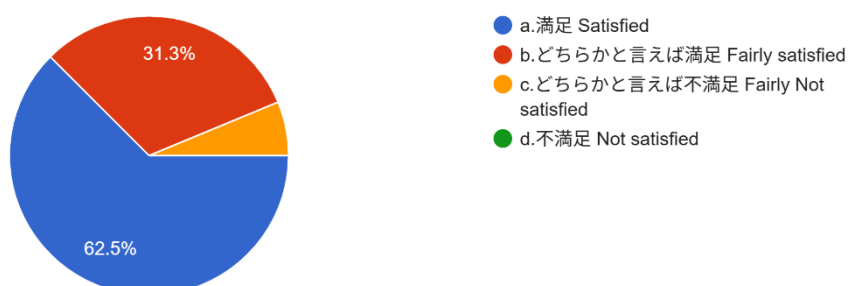
- ・ No any special request
- ・ GOOD JOB
- ・ もう少し論文などの確認を急いでいただけますと幸いです。

(8) 全般的な教員の指導で改善してほしい点があれば、自由に記入して下さい

- ・ if supervisors can allocate more time on students, it will be good
- ・ 特にないです。

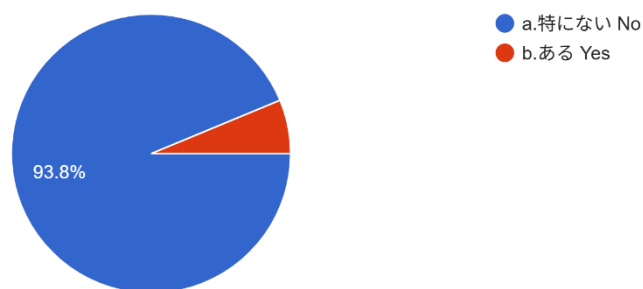
(9) 現在の研究環境に満足していますか？ Are you satisfied with your research environment?

16 件の回答



(10)研究環境の改善すべきところがありますか？ Do you have any suggestions for improvement of the research environment?

16 件の回答

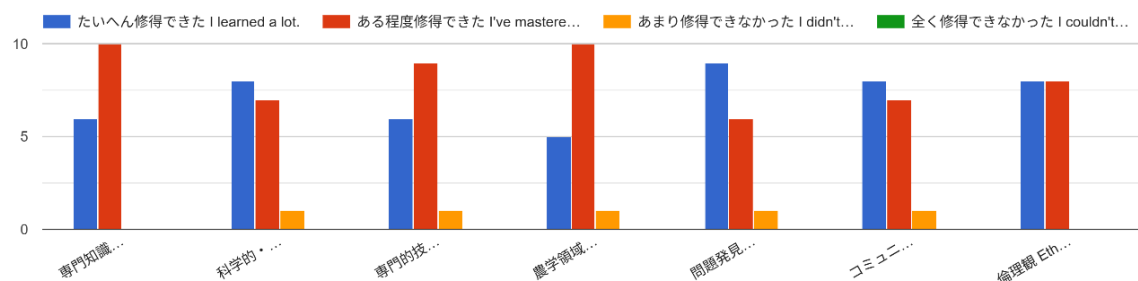


(11) 問い(10)で「ある」と答えた方は具体的に記述下さい

- ・ 社会人のため、研究への時間的な投資が困難であること。
- ・ Machines working quality should be improved

④ あなたの現在の DF 能力の状況についてお尋ねします

(1)あなたは連大での研究や専門教育を通じて、以下のDP能力はどの程度修得できたと思いますか？ To what extent do you think you were able to acquire the following DP competencies through your research and specialized education at RENDAI?



(2)今後のあなたに、以下のDP能力はどの程度役立ちますか？ To what extent will the following DP competencies be useful to you in the future?

